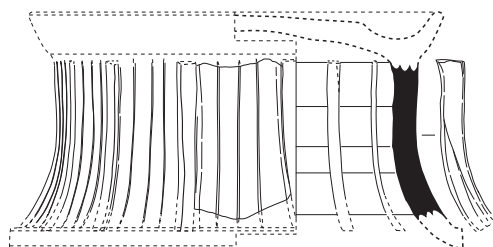


大分市埋蔵文化財調査概要報告 2012

平成 23 年度版



上野遺跡群第 14 次調査出土 須恵器円面碗

大分市教育委員会

序 文

本書は、平成 23 年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査と関連事業の概要を収録したものであります。

大友氏遺跡におきましては、昨年度に引き続き大友氏館跡の確認調査を実施いたしました。この調査により、これまでの調査成果と合わせ、大友氏館内の景観を考える上で重要な成果となりました。

また、本書には 7 地点の小規模発掘調査成果とともに、羽田遺跡出土の羽釜の分析結果についても、正式報告として収録しております。

平成 23 年度は文化財の普及・活用について、市民との協働が本格的に動き始めた年度でもあります。平成 23 年 1 月に正式に発足した「おおいた応援隊 大友歴史保存会」を中心として、大友氏遺跡の普及・啓発を目的に様々な活動を行っているところでありますが、その一環として、大友氏遺跡フェスタにおいて、市民企画のシンポジウム「発見！大友お宝鑑定大会」が行われ、大盛況を迎えました。また、開館 4 年目となる大友氏遺跡体験学習館では「イベント」「歴史教室」「体験工房・戦国工房」の 3 つを柱として体験学習の充実に取り組んでおり、家族連れや児童、生徒の来館が昨年度以上に増えてまいりました。

これからも、市民の皆様のご意見をいただきながら、史跡の保護、保存ならびに活用を進めてまいりたいと存じます。

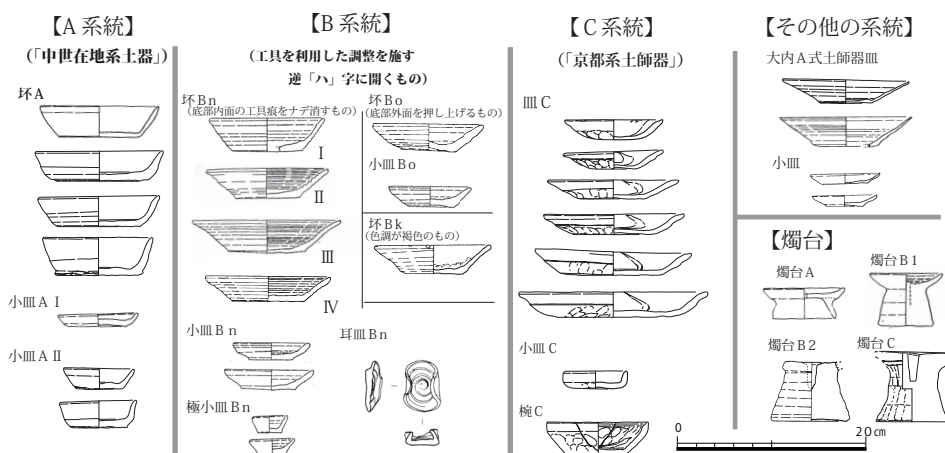
最後になりましたが、本書が市民の皆様に広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しましても、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 25 年 3 月 29 日

大分市教育委員会
教育長 足立一馬

例言・凡例

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日の間に行った埋蔵文化財に関する発掘調査およびこれに関連する事業の内容についてまとめた概要報告書である。
2. 平成 23 年度における調査地点は、第 2 図および第 1 表に示している。
3. 本書の執筆は、担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第 IV 章の受贈図書一覧は、平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日の間に大分市教育委員会文化財課に受贈された書籍等を掲載した。なお、受贈図書一覧の作成は、松浦憲治による。
5. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、下記の大分市教育委員会嘱託職員が行ったものである。
奥村義貴、稗田智美、小野千恵美、松木晴美、佐藤良子、倉増美智代、小野綾夏、小野知恵、佐藤麻理子、永井美香
6. 本書に用いた方位はすべて座標北（G.N.）である。掲載図中の座標は、特に断りがない限り世界測地系の平面直角座標 2 系の X・Y 座標を基点として表記している。
7. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
8. 本書の編集・構成は、佐藤良子、佐藤麻理子、松浦憲治および各調査担当者が行った。
9. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市埋蔵文化財保存活用センターに保管している。
10. 大友氏館跡・中世大友府内町跡で用いた出土遺物の分類及び年代観は以下の図及び文献を参考にしている。



陶磁器類：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊X V－陶磁器分類編－』小野正敏 1982「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No. 2（染付は青花に読み替える）上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 森田勉 1982「14～16世紀の白磁の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 備前：乗岡実 2005「備前」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相へ生産技術の展開と編年 資料集』焼締陶器：吉田寛 2003「中世大友府内町跡出土の産地不明焼締陶器について」『貿易陶磁研究』No. 28 瓦質・土師質土器火鉢：山村信榮 1990「太宰府出土の瓦質土器」『中近世土器の基礎的研究』Ⅵ 京都系土師器・土師質土器鍋：河野史郎 2002「出土土師器杯・皿類及び瓦質土器雑器の分類と編年」『大友府内4』大分市教育委員会 大内系土師器：北島大輔 2010「IX章 大内式の設定」『大内氏館跡XⅠ』山口市教育委員会 在地系土師器：長直信 2011「豊後府内における京都系土師器導入 前後の土器様相」『古文化談叢』第65集（4）

本文目次

第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

1 沿革	1
2 組織	1
3 大分市保護審議会	2

第2章 平成23年度の埋蔵文化財発掘調査概要

第3章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告

①大友氏館跡第25・26・27次調査（概要）	6
②中世大友府内町跡第98次調査（報告）	7
③古国府遺跡群第16次調査（報告）	9
④上野遺跡群第14次調査（報告）	11
⑤上野遺跡群第15次調査（報告）	14
⑥羽田遺跡第8次調査出土の羽釜（報告）	15
⑦米竹遺跡第8次調査（報告）	32
⑧葛木遺跡第7次調査（報告）	35
⑨猪野遺跡第5次調査（報告）	36

第4章 平成23年度教育普及活動の成果概要

①大友氏遺跡フェスタ2011	38
②大分市文化財便り2011年度号の発行	38
③大友氏遺跡体験学習館 平成23年度の活動	38
④現地説明会の開催 鶴崎御茶屋跡第2次調査	39
古国府遺跡群第15次調査	39
史跡元町石仏	39

第5章 受贈図書目録

40

第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

1. 沿革

昭和51年4月1日 大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
 昭和59年6月28日 大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
 平成5年4月1日 大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
 平成10年4月1日 大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
 平成12年4月1日 大分市教育委員会文化財課に改組
 平成13年4月1日 大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組
 平成21年4月1日 大分市教育委員会教育部文化財課に改組

2. 組織

課長	福田誠一（平成24年4月～）	大分市歴史資料館	
特別顧問	玉永光洋（平成24年4月～）	館長	塔鼻浩司（平成24年4月～）
主幹	坪根伸也	主幹兼副館長	久多羅岐明 武富雅宣
		主査	秋吉えつ子
管理普及担当班		指導主事	後藤真治
主幹（班長）	池邊千太郎（平成24年4月～）		岩本浩典
主幹	栗田博之（平成24年4月～）	専門員	中西武尚
指導主事	植木和美	主任	金丸英治
専門員	河野史郎		
主査	神崎小由美 藤澤信之（～平成24年6月）	嘱託職員	讃岐和夫（平成24年5月～）
主任	永松正大 竹中智美		古瀬美鈴 細井雅希
臨時職員	玉井 絢（平成24年7月～）		其田満男 神志那潔
			阿南希依 阿部和弘
			幸野洋一 竹内 薫
史跡整備担当班			
主幹（班長）	斉藤慎悟（平成24年4月～）		
主査	渡辺政雄	臨時職員	中山琴葉（～平成24年10月）
指導主事	小野富広		姫野都貴（平成24年11月～）
主任	五十川雄也 高橋 悟（～平成24年6月）		
	藤澤信之（平成24年7月～） 川口澄雄 山上洋二郎		
主事	石川ゆかり		
嘱託職員	廣瀬育子 小野綾夏 小野研一（平成24年4月～）		
	福永素久（平成24年4月～）		
埋蔵文化財担当班			
専門員（班長）	高畠 豊（平成24年4月～）		
専門員	塩地潤一		
主査	佐藤道文（平成24年4月～）		
主事	長 直信 松浦憲治 朝川貴俊		
嘱託職員	小野千恵美 松木晴美 倉増美智代 佐藤良子（～平成24年8月）		
	永井美香 佐藤麻理子 小野知恵 敷島加代子（平成24年4月～）		
	稗田智美（～平成24年3月） 奥村義貴（～平成24年3月）		
	佐藤孝則（～平成24年3月） 羽田野裕之（～平成24年3月）		

3. 大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1) 文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2) 文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3) 文化財保護審議会に関すること。
- (4) 歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

1. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成 24 年 4 月 1 日現在）

氏 名	勤務先	担当
北野 隆	熊本大学・名誉教授（会長）	建築
豊田 寛三	別府大学学長（副会長）	近世
下村 智	別府大学・教授	考古埋蔵
西別府 元日	広島大学・教授	古代
鹿毛 敏夫	新居浜工業高等専門学校・准教授	中世
宗像 健一	大分市美術館・顧問	美術
吉田 稔	大分生物談話会会長	植物
渡辺 文雄	別府大学・教授	工芸
段上 達雄	別府大学・教授	民俗
渡邊 ひろ美	大分県立大分舞鶴高等学校・教諭	動物

大分市文化財保護審議会条例（平成 11 年 12 月 15 日条例第 42 号）

（設置）

第 1 条 文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 190 条第 1 項の規程に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という）を置く。（平 17 条例 13・一部改正）

（組織）

第 2 条 審議会は、委員 10 人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任期）

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

（会長及び副会長）

第 4 条 審議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 5 条 審議会の会議（以下「会議」という。）は会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明、又は意見を聴くことができる。

（部会）

第 6 条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（庶務）

第 7 条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（委任）

第 8 条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

（施行期日）

1 この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

2 大分市文化財調査委員会条例（昭和 51 年大分市条例第 4 号）は廃止する。

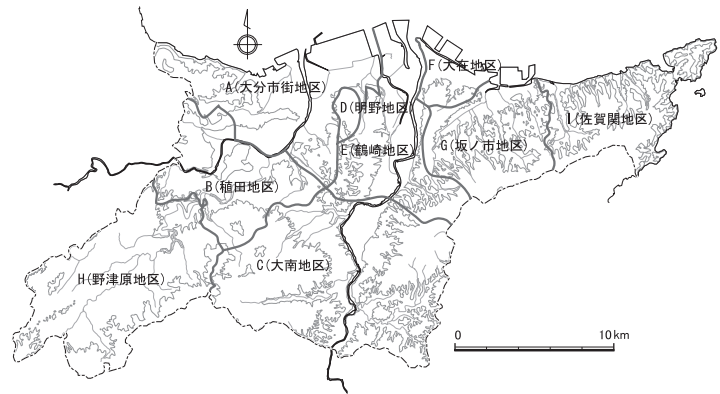
附則（平成 17 年条例第 13 号）

この条例は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

第2章 平成23年度発掘調査概要

平成23年度に、大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は20件、合計の調査面積は8393.9㎡である。このうち、大分市の公共事業によるものが8件6111.4㎡、国庫補助による市内遺跡確認調査が3件1362.9㎡、民間開発に伴う事業が9件で919.6㎡であった。市内の地域区分でみると、鶴崎御茶屋跡2次、横尾遺跡147・148次、猪野遺跡5次、米竹7・8次、葛木遺跡7次が鶴崎地区（地域E）、賀来中学校遺跡5次が植田地区（地域B）である他はすべて大分市街地区（地域A）であった。

一方、開発事業に伴う試掘・確認調査・立会調査は138件であった。試掘・確認調査が41件、立会調査が97件である。試掘・確認調査では11件27%が公共事業に伴うものである。立会調査については、大半が個人住宅の浄化槽設置に伴う立会調査である。地域別件数では、大小含めて開発が集中している大分地区（地域A）が59件43%、個人住宅の浄化槽設置工事を含む中小規模の民間開発が多い鶴崎地区（地域E）が60件43%と、両地域で9割近くを占めている。その他は、植田地区（地域B）で6件、坂ノ市地区（地域G）で5件、大在地区（地域F）で4件、大南地区（地域C）で2件となっている。



第1図 大分市地域区分図

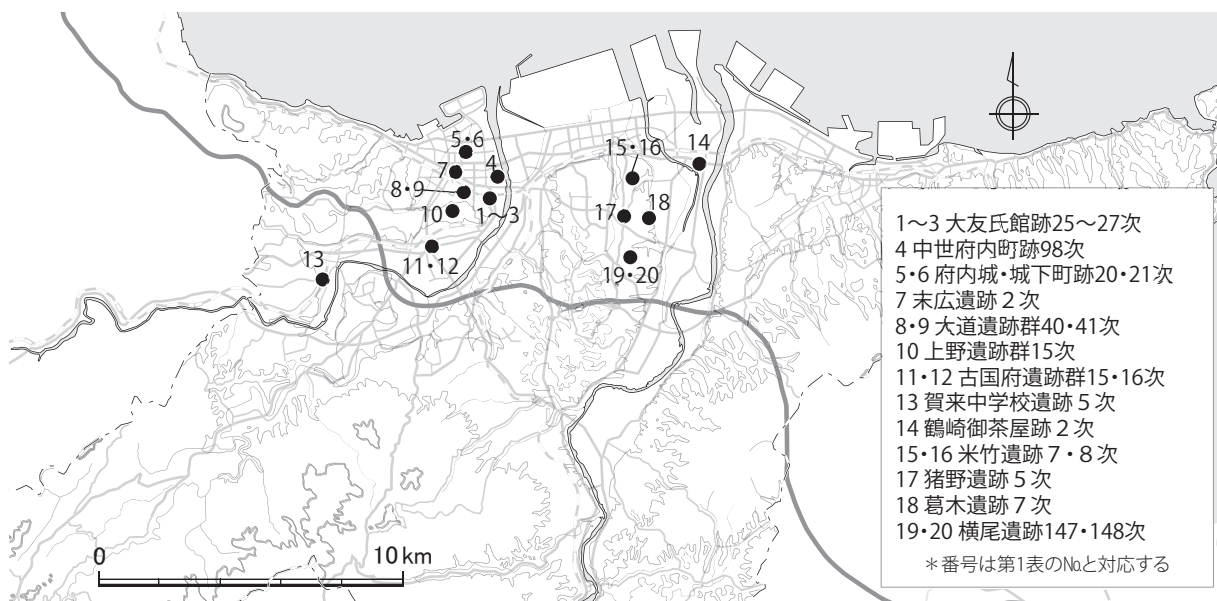
番号	遺 跡 名	所 在 地	担当者	調査原因	面積	調査期間	調査内容	報告予定
1	大友氏館跡第25次	顕徳町3丁目 A	五十川	史跡整備に伴う確認調査	498.1	20110527～20110731	14世紀末から15世紀前半の掘立柱建物、16世紀ごろの板塀などの遮蔽施設など	平成23年度（概報）
2	大友氏館跡第26次	顕徳町3丁目 A	五十川	史跡整備に伴う確認調査	754.4	20111024～20120208	15世紀前半の大規模整地、16世紀中頃から後半のかわらけ大量廃棄土坑など	平成23年度（概報）
3	大友氏館跡第27次	顕徳町3丁目 A	五十川	史跡整備に伴う確認調査	110.4	20110926～20120208	15世紀後半から16世紀前半の柱穴、16世紀中頃から後半の南北溝など	平成24年度
4	中世府内町跡第98次	錦町2丁目 A	塩地 佐藤 松浦	個人住宅	119.2	20110628～20110629	16世紀の溝、土坑	本書所収
5	府内城・城下町跡第20次	中央町3丁目 A	松浦	幼稚園建替	20	20110721～20110722	江戸時代の廃棄土坑	平成24年度以降
6	府内城・城下町跡第21次	末広町2丁目 A	長	道路拡幅事業	1256	20111006～20120229	府内城外堀の土塁及び石垣列など	平成25年度以降
7	末広遺跡第2次	末広町1丁目 A	長	道路拡幅事業	400	20111021～20120315	18世紀頃の土坑や性格不明遺構など	平成23年度
8	大道遺跡群第40次	東大道1丁目 A	塩地	駅南区画整理事業	208.4	20111109～20111228	弥生時代後期や江戸時代の土坑・柱穴・溝状遺構など	平成25年度以降
9	大道遺跡群第41次	東大道1丁目 A	塩地	駅南区画整理事業	601.5	20111109～20111228	弥生時代後期や江戸時代の土坑・柱穴・溝状遺構など	平成25年度以降
10	上野遺跡群第15次	上野丘2丁目 A	佐藤(道) 奥村 小野	個人住宅	83.7	20120117～20120118	中近世の瓦	本書所収
11	古国府遺跡群第15次	大字奥田 A	長	校舎建替	1800	20110524～20110930	弥生時代後期の壜棺墓、古墳時代前期の大型掘立柱建物など	平成24年度
12	古国府遺跡群第16次	大字羽屋字七曹司 A	長 松浦	個人住宅	30.6	20110407	古代の柱穴	本書所収
13	賀来中学校遺跡第5次	大字賀来 B	塩地	水路埋設	142	20120131～20120207	弥生時代後期の環濠跡や土器埋設遺構、中世の溝跡など	平成24年度
14	鶴崎御茶屋跡第2次	鶴崎字西浦 E	松浦	庫裡建替	367.4	20110722～20111007	江戸時代の日蓮宗寺院の庫裡基壇及び礎石建物など	平成23年度
15	米竹遺跡第7次	大字千歳 E	奥村	老人福祉施設建設	158	20111116～20111209	弥生時代中期の貯蔵穴など	平成23年度
16	米竹遺跡第8次	大字小池原字米竹 E	小野(綾)	共同住宅建築	15	20120220～20120229	弥生時代中期の貯蔵穴など	本書所収
17	猪野遺跡第5次	大字猪野 E	長	宅地造成	85.3	20110509～20110510	弥生時代中期の溝、土坑など	本書所収
18	葛木遺跡第7次	大字葛木字今在木 E	長 松浦	高齢者向け住宅	40.4	20120229～20120301	古代と思われる掘立柱建物跡	本書所収
19	横尾遺跡第147次	大字横尾 E	松浦	横尾区画整理事業	326.7	20111026～20120315	弥生時代の溝、土坑など	平成24年度
20	横尾遺跡第148次	大字横尾 E	松浦	横尾区画整理事業	1376.8	20111026～20120315	中世期と考えられる掘立柱建物跡、近世期の溝など	平成24年度

第1表 平成23年度発掘調査一覧表

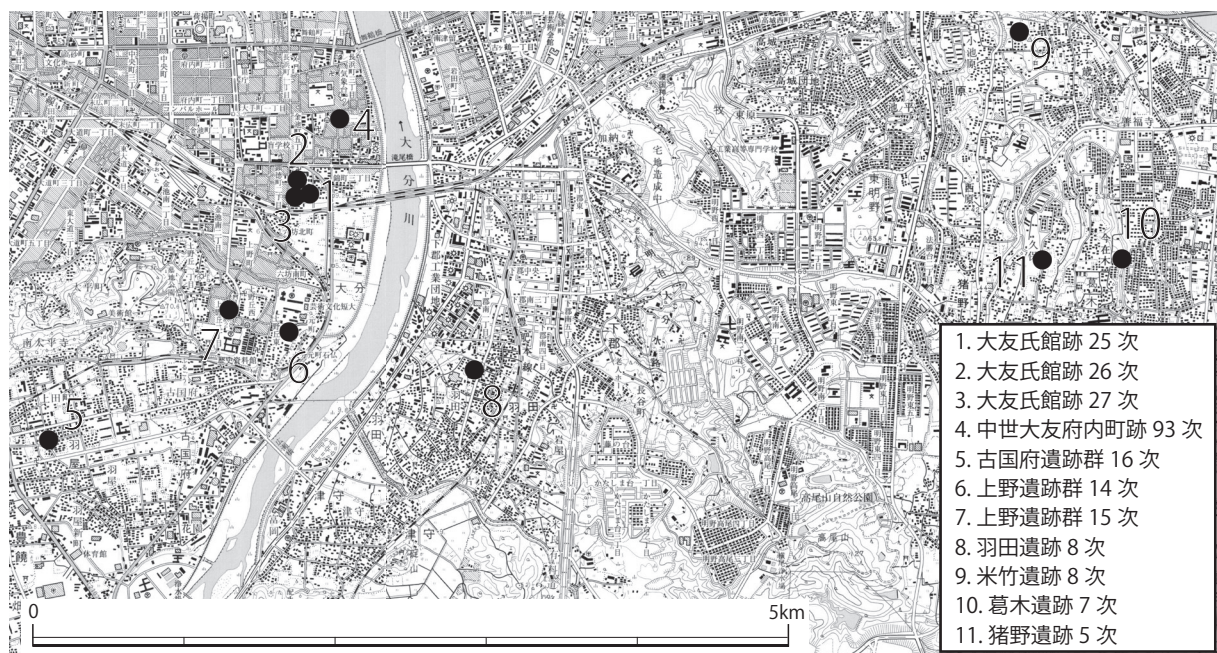
No.	調査種別	遺跡名	調査日	所在地	地域	調査原因	事業種別	調査面積	遺跡有無	担当者	措置
1	立会	古国府遺跡群	平成23年4月1日	大字羽屋905-1、905-4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.8	なし	塩地	工事着工
2	立会	津守遺跡	平成23年4月5日	大字津守字宮ノ西341番	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	あり	長	工事着工
3	立会	専規寺遺跡	平成23年4月6日	大字森字西町527-6	E	個人住宅（浄化槽）	民間	5.0	なし	池邊 松浦	工事着工
4	立会	横尾遺跡	平成23年4月7日	大字横尾C-13ブロック	E	集合住宅（浄化槽）	民間	1.3	あり	佐藤	工事着工
5	確認	古国府遺跡群	平成23年4月7日	大字羽屋字七曹町172番13	A	個人住宅（基礎部分）	民間	30.6	あり	長 松浦	工事着工
6	立会	米竹遺跡	平成23年4月8日	大字千歳字花畑1770番8	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.4	あり	長	工事着工
7	立会	米竹遺跡	平成23年4月11日	大字千歳字花畑1770番7	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	あり	松浦	工事着工
8	確認	古国府遺跡群	平成23年4月11日	大字奥田772番地の1	A	学校建設	公共	72.0	なし	塩地	本調査
9	確認	府内城・城下町	平成23年4月11日	荷揚町2番31号	A	ガス管埋設工事	民間	1.0	あり	池邊	工事着工
10	立会	中世大友府内町跡	平成23年4月12日	六坊北町3010番4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	なし	佐藤	工事着工
11	立会	府内城・城下町	平成23年4月13日	中央町三丁目143	A	学校建設（基礎部分）	公共	16.1	あり	長 松浦	工事着工
12	確認	古国府遺跡群	平成23年4月14日～15日	大字羽屋字園1079番3	A	個人住宅（基礎部分）	民間	31.5	あり	長 松浦	工事着工
13	立会	葛木遺跡	平成23年4月11日	大字葛木字南原318番9	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.0	なし	池邊	工事着工
14	確認	買米中学校遺跡	平成23年4月21日	買米117番	B	学校建設	公共	41.8	あり	塩地	協議中
15	立会	米竹遺跡	平成23年4月21日	大字千歳字土井畑804番4	E	個人住宅（浄化槽）	民間	5.1	あり	松浦	工事着工
16	確認	古国府遺跡群	平成23年4月22日	大字古国府字本町314番地	A	個人住宅（基礎部分）	民間	54.0	あり	長	工事着工
17	立会	古国府遺跡群	平成23年4月26日	大字古国府字菜園511-1	A	建売住宅（浄化槽）	民間	3.4	なし	塩地	工事着工
18	立会	中世大友府内町跡	平成23年4月27日	六坊北町4760番8	A	看板設置（基礎部分）	民間	3.0	なし	佐藤	工事着工
19	立会	猪野遺跡	平成23年4月28日	大字猪野字新土井837番3	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	あり	松浦	工事着工
20	確認	米竹遺跡	平成23年5月6日	大字千歳中1944番1・2・3	E	宅地造成	民間	7.7	あり	長	工事着工
21	立会	羽田遺跡	平成23年5月9日	大字片島字藪田683番4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.1	なし	佐藤	工事着工
22	立会	米竹遺跡	平成23年5月14日	大字小池原字仲原40番8、9	E	個人住宅（浄化槽）	民間	5.8	あり	池邊 松浦	工事着工
23	確認	鶴崎御茶屋跡	平成23年5月17日	鶴崎西浦354番地の1	E	その他	民間	123.8	あり	塩地 長 松浦	本調査
24	立会	峰遺跡	平成23年5月18日	大字上戸次字大道5033番	C	個人住宅（浄化槽）	民間	5.0	なし	塩地	工事着工
25	立会	米竹遺跡	平成23年5月18日	大字小池原字仲原40番12	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	あり	松浦	工事着工
26	確認	樺ヶ丘横穴墓群	平成23年5月25日	上宗方739-1 ほか6番	B	宅地造成	民間	0.0	なし	池邊	工事着工
27	立会	宮苑井ノ口遺跡	平成23年5月26日	大字宮苑1243番	B	個人住宅（浄化槽）	民間	3.0	なし	塩地 小野	工事着工
28	立会	横尾遺跡	平成23年6月15日	大字横尾字利庫2865・2866	E	個人住宅（基礎部分）	民間	4.2	なし	塩地	工事着工
29	立会	猪野遺跡	平成23年6月18日	大字猪野字新土井837番9	E	個人住宅（浄化槽）	民間	7.0	あり	池邊 松浦	工事着工
30	立会	米竹遺跡	平成23年6月21日	大字千歳字土井畑1804番5	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.6	あり	松浦 小野	工事着工
31	立会	米竹遺跡	平成23年6月22日	大字千歳字花畑1770番1	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.6	あり	塩地 小野	工事着工
32	確認	津守遺跡	平成23年6月22日	大字津守字島越982-1他8壁	A	宅地造成	民間	18.6	なし	池邊 佐藤（道）	工事着工
33	確認	中世大友府内町跡	平成23年6月28日～29日	錦町二丁目3333番の一部	A	個人住宅	民間	119.2	あり	塩地 佐藤 松浦	工事着工
34	確認	羽田遺跡	平成23年7月1日	羽田211-1 21-2	A	その他	民間	12.5	なし	松浦 小野	工事着工
35	確認	古国府遺跡群	平成23年7月5日	大字古国府字204番1	A	個人住宅	民間	15.5	あり	塩地 松浦	工事着工
36	確認	古国府遺跡群	平成23年7月5日	大字羽屋字草木田112番2	A	個人住宅	民間	30.0	なし	塩地 松浦	工事着工
37	立会	古国府遺跡群	平成23年7月11日	大字奥田字上河原699番12	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.0	なし	佐藤（道）	工事着工
38	立会	葛木遺跡	平成23年7月11日	大字葛木字宮ノ後口656番1	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.1	なし	塩地	工事着工
39	確認	中世大友府内町跡	平成23年7月11日	長浜町2丁目3552番1他	A	個人住宅	民間	24.5	あり	塩地 佐藤（道） 松浦	工事着工
40	確認	久原遺跡	平成23年7月13日	久原中央2丁目171-1 172	G	事務所	民間	3.0	なし	佐藤（道） 奥村	工事着工
41	確認	府内城・城下町	平成23年7月20日	中央町三丁目143	A	学校建設	公共	20.0	なし	池邊 佐藤（道） 松浦 奥村	工事着工
42	立会	古国府遺跡群	平成23年7月19日	大字羽屋828-4 外	A	下水道工事	民間	0.0	なし	佐藤（道）	工事着工
43	立会	羽田遺跡	平成23年7月25日	大字片島字上744番	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.6	あり	池邊 佐藤（道） 小野	工事着工
44	確認	府内城・城下町	平成23年7月26日	末広町2丁目31号	A	道路建設	公共	40.3	あり	塩地 小野	本調査
45	確認	古国府遺跡群	平成23年7月27日	大字羽屋字見願田	A	集合住宅	民間	22.5	なし	池邊 佐藤（道） 奥村	工事着工
46	確認	羽屋園遺跡	平成23年7月28日	大字羽屋字園1079番5 1081番6	A	個人住宅	民間	16.0	あり	奥村 小野	工事着工
47	立会	中世大友府内町跡	平成23年7月29日	錦町一丁目3434番5、3435番1	A	個人住宅（基礎部分）	民間	3.6	その他	塩地 小野	工事着工
48	立会	羽田遺跡	平成23年8月1日	大字片島字樺川 横小路804-3	A	宅地造成（地盤改良）	民間	12.8	あり	池邊 佐藤（道）	工事着工
49	立会	猪野遺跡	平成23年8月5日	大字猪野字東角363番8	E	個人住宅（基礎、浄化槽）	民間	2.6	その他	塩地 小野	工事着工
50	立会	猪野遺跡	平成23年8月5日	大字猪野字東角363番7	E	個人住宅（浄化槽）	民間	1.8	その他	塩地 小野	工事着工
51	立会	古国府遺跡群	平成23年8月8日	大字古国府字菜園511-4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	なし	佐藤（道）	工事着工
52	立会	下郡遺跡群	平成23年8月10日	下郡南1丁目107番	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	なし	池邊 小野	工事着工
53	立会	城南遺跡	平成23年8月18日	大字永興字岩土台846、847	A	造成工事（擁壁）	民間	33.5	なし	池邊 佐藤（道） 小野	工事着工
54	確認	城原・里遺跡	平成23年8月24日	大字城原字原口648-1	F	その他	民間	20.0	なし	池邊 塩地 小野	工事着工
55	立会	羽田遺跡	平成23年8月22日	大字片島字西蔭638-3	A	個人住宅（浄化槽）	民間	4.2	なし	佐藤（道）	工事着工
56	立会	猪野遺跡	平成23年8月26日	大字猪野字中原1230-30	E	個人住宅（浄化槽）	民間	4.0	なし	池邊 小野	工事着工
57	立会	葛木遺跡	平成23年8月26日	大字猪野字馬場173番7	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.6	なし	塩地 小野	工事着工
58	立会	猪野遺跡	平成23年9月13日	大字猪野字新土井837番10	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.8	あり	佐藤（道） 小野	工事着工
59	確認	末広遺跡	平成23年9月12日	末広町	A	道路建設	公共	0.0	あり	塩地 奥村	本調査
60	確認	米竹遺跡	平成23年9月12日	大字千歳1810番3	E	老人ホーム建設	民間	26.0	あり	佐藤（道） 小野	本調査
61	確認	横尾遺跡	平成23年9月13日	大字横尾	E	区画整理	公共	0.0	あり	塩地 奥村 小野	本調査
62	立会	猪野遺跡	平成23年9月13日	大字猪野字東角363番6	E	個人住宅（基礎、浄化槽）	民間	2.0	なし	佐藤（道） 小野	工事着工
63	立会	買米田遺跡	平成23年9月15日	買米井ノ口4000番	B	集合住宅（浄化槽）	民間	13.0	なし	佐藤（道） 奥村	工事着工
64	立会	米竹遺跡	平成23年9月22日	大字小池原字仲原40番14	E	個人住宅（浄化槽）	民間	4.5	なし	池邊 奥村 小野	工事着工
65	立会	猪野遺跡	平成23年9月22日	大字猪野字東角363番9	E	個人住宅（基礎、浄化槽）	民間	26.5	その他	池邊 松浦 奥村 小野	工事着工
66	立会	猪野遺跡	平成23年9月22日	大字猪野字東角363番10	E	個人住宅（基礎、浄化槽）	民間	6.8	なし	池邊 松浦 奥村 小野	工事着工
67	立会	横尾遺跡	平成23年9月22日	大字横尾字奈良原32413	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.2	なし	佐藤（道）	工事着工
68	立会	買米条里跡	平成23年9月26日	大字東院字九反田54-3番	B	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	なし	長 小野	工事着工
69	確認	猪野遺跡	平成23年9月27日	大字猪野字成原1197-1	E	宅地造成	民間	65.9	あり	佐藤（道） 小野	工事着工
70	確認	北遺跡	平成23年9月28日	青崎一丁目287番	F	その他	民間	24.0	なし	池邊 奥村 小野	工事着工
71	立会	羽田遺跡	平成23年10月11日	羽田下812番9	A	個人住宅（浄化槽）	民間	5.5	なし	奥村 小野	工事着工
72	立会	猪野遺跡	平成23年10月17日	大字猪野字東角363番7	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	なし	奥村 小野	工事着工
73	立会	猪野遺跡	平成23年10月19日	大字猪野字東角363番8	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.5	なし	奥村 小野	工事着工
74	立会	猪野遺跡	平成23年10月20日	大字猪野字東角363番8	E	個人住宅（浄化槽）	民間	4.4	なし	奥村 小野	工事着工
75	立会	津守遺跡	平成23年10月24日	大字津守字下田145-5	A	個人住宅（浄化槽）	民間	4.2	なし	奥村 小野	工事着工
76	確認	浜遺跡	平成23年10月25日	大在浜二丁目312	F	公園建設	公共	56.6	なし	松浦 奥村 小野	工事着工
77	立会	猪野遺跡	平成23年10月28日	大字猪野字太郎塚1327番1	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	なし	塩地 佐藤（道）	工事着工
78	確認	下郡遺跡群	平成23年11月1日	下郡南一丁目117番の一部	A	集合住宅	民間	12.0	なし	松浦 小野	工事着工
79	立会	岩屋寺遺跡	平成23年11月4日	大字古国府字タノ田140-1	A	個人住宅（基礎部分）	民間	11.0	なし	奥村 小野	工事着工
80	立会	葛木遺跡	平成23年11月9日	大字葛木205-15	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.0	なし	奥村 小野	工事着工
81	立会	羽田遺跡	平成23年11月11日	大字片島字田沼907番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	4.2	なし	奥村 小野	工事着工
82	立会	米竹遺跡	平成23年11月14日	大字千歳字花畑1770番10	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.4	なし	奥村 小野	工事着工
83	立会	下郡遺跡群	平成23年11月16日	下郡南一丁目115番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.4	なし	奥村 小野	工事着工
84	立会	津守遺跡	平成23年11月21日	大字津守字宮ノ後195番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.2	なし	松浦 小野	工事着工
85	立会	猪野遺跡	平成23年11月22日	大字猪野1360番地の01	E	老人保健施設（浄化槽）	民間	20.0	なし	松浦	工事着工
86	立会	津守遺跡	平成23年11月24日	大字津守字宮ノ後195番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.3	なし	松浦 小野	工事着工
87	立会	下郡遺跡群	平成23年11月24日	下郡南一丁目115番4	A	個人住宅（浄化槽）	民間	0.0	なし	長	工事着工
88	立会	葛木遺跡	平成23年11月25日	大字葛木字西上205番16	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.5	なし	佐藤（道） 小野	工事着工
89	立会	羽田遺跡	平成23年11月29日	大字片島字樺川803番6	A	個人住宅（浄化槽）	民間	2.1	なし	松浦 小野	工事着工
90	立会	猪野遺跡	平成23年11月29日	大字猪野字猪野原1269番4	E	集合住宅（宅地造成）	民間	69.2	あり	佐藤（道） 小野	工事着工
91	立会	千歳城跡	平成23年11月30日	大字千歳字土井ノ内2056	E	その他	公共	0.0	なし	塩地	工事着工
92	立会	猪野遺跡	平成23年12月1日	大字猪野字東角363番9	E	個人住宅（浄化槽）	民間	5.6	なし	松浦 小野	工事着工
93	確認	古国府遺跡群	平成23年12月2日	大字奥田772番地の1	A	学校建設	公共	0.0	なし	長 松浦	工事着工
94	立会	羽田遺跡	平成23年12月2日	大字羽田字狭間971番1	A	個人住宅（浄化槽）	民間	5.1	なし	佐藤（道） 奥村 小野	工事着工
95	立会	下郡遺跡群	平成23年12月5日	下郡北2丁目168番	A	個人住宅（浄化槽）	民間	4.4	なし	松浦 奥村 小野	工事着工
96	立会	古国府遺跡群	平成23年12月5日	大字古国府465番-3番地先	A	下水道	公共	0.0	なし	佐藤（道）	工事着工
97	立会	下郡遺跡群	平成23年12月5日	下郡南一丁目115番2	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.0	なし	松浦 奥村 小野	工事着工
98	立会	清水遺跡	平成23年12月7日	大字毛井字仲野844-11	E	個人住宅（浄化槽）	民間	4.1	なし	奥村 小野	工事着工
99	立会	津守遺跡	平成23年12月8日	大字津守字城垣田1259番19	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.1	なし	奥村 小野	工事着工
100	確認	城原原口遺跡	平成23年12月19日	大字城原字大蔵屋敷367番1	F	個人住宅	民間	24.5	あり	佐藤（道） 奥村 小野	工事着工
101	確認	丹生川坂ノ市条里跡	平成23年12月22日	坂ノ市中央五丁目8番1号	G	屋外トイレ建設	公共	4.0	なし	佐藤（道） 奥村	工事着工
102	確認	古国府遺跡群	平成23年12月26日～27日	大字奥田772番地の1	A	グラウンド整備	公共	0.0	なし	長 奥村 小野	工事着工
103	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成24年1月6日	坂ノ市中央五丁目8番1号	G	学校屋外トイレ建設	公共	8.0	その他	佐藤（道） 奥村 小野	工事着工
104	立会	下郡遺跡群	平成24年1月10日	下郡南一丁目115番3	A	個人住宅（浄化槽）	民間	4.0	なし	松浦	工事着工
105	立会	猪野遺跡	平成24年1月10日	大字猪野字猪野原1269番4	E	集合住宅（造成、擁壁）	民間	0.0	なし	奥村 小野	工事着工
106	立会	葛木遺跡	平成24年1月10日	大字葛木字志ノ上771番	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.0	なし	奥村 小野	工事着工
107	確認	猪野遺跡	平成24年1月11日	大字猪野字東角348-3	E	個人住宅	民間	38.6	あり	塩地 奥村 小野	工事着工
108	立会	上野遺跡群	平成24年1月17～18日	上野丘2丁目699-3	A	個人住宅（基礎）	民間		あり	佐藤（道） 奥村 小野	工事着工
109	確認	羽田遺跡	平成24								

112	立会	若宮八幡宮遺跡	平成24年1月18日	六坊南町4516番1	A	集合住宅（浄化槽）	民間	8.0	なし	奥村 小野	工事着工
113	立会	羽田遺跡	平成24年1月20日	大字片島字西藤638-2	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.1	なし	奥村 小野	工事着工
114	確認	上野遺跡群	平成24年1月23日	上野丘2丁目699-3	A	個人住宅（浄化槽）	民間	0.0	なし	長 小野	工事着工
115	確認	米竹遺跡	平成24年1月23日	大字小池原字米竹244番	E	集合住宅	民間	78.0	あり	佐藤（道）	本調査
116	立会	古国府遺跡群	平成24年1月26日	上田町5-1組	A	集合住宅	民間	24.0	あり	長 奥村 小野	工事着工
117	確認	賀来中学校遺跡	平成24年1月31日～2月2日	大字賀来117番	B	その他（水路の埋設）	民間	960.0	あり	塩地 奥村 小野	工事着工
118	立会	津守遺跡	平成24年2月7日	大字津守字宮ノ後195番6	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.0	なし	奥村 小野	工事着工
119	立会	津守遺跡	平成24年2月8日	大字津守字宮ノ後195番5	A	個人住宅（浄化槽）	民間	3.5	なし	奥村 小野	工事着工
120	確認	千歳城跡	平成24年2月14日	大字千歳字土井ノ内2056	E	屋内トイレ	公共	12.0	なし	塩地 小野	工事着工
121	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成24年2月16日	大字木田字宮崎1607番1	G	個人住宅（浄化槽）	民間	2.8	なし	松浦 小野	工事着工
122	確認	丹生川坂ノ市条里跡	平成24年2月20日	坂ノ市中央五丁目8番1号	G	屋外トイレ設置工事	公共	16.0	なし	松浦 奥村	工事着工
123	立会	猪野遺跡	平成24年2月21日	大字猪野字成原1197-1～2	E	宅地造成	民間	2.9	なし	松浦	工事着工
124	立会	葛木遺跡	平成24年2月22日	大字葛木字西上205-11	E	個人住宅（浄化槽）	民間	4.1	なし	松浦 小野	工事着工
125	立会	米竹遺跡	平成24年2月27日	大字千歳字土井畑18034	E	個人住宅（浄化槽）	民間	0.0	あり	松浦	工事着工
126	立会	葛木遺跡	平成24年3月2日	大字葛木字西上269番	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.7	あり	松浦	工事着工
127	立会	二目川遺跡	平成24年3月5日	大字横尾字猪野原3603番13	E	個人住宅（浄化槽）	民間	2.8	なし	長	工事着工
128	立会	横尾遺跡	平成24年3月5日	横尾区南整理街区番号A-12-3-2	E	個人住宅（浄化槽）	民間	6.5	なし	松浦 小野	工事着工
129	確認	葛木遺跡	平成24年2月29日～3月1日	大字葛木字今在木815番、816番	E	その他	民間	40.4	あり	長 松浦	工事着工
130	立会	門前遺跡	平成24年3月12日	大字松岡字九郎四郎5290	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	なし	松浦 小野	工事着工
131	立会	横塚遺跡1	平成24年3月14日	横塚2丁目132番	F	個人住宅（浄化槽）	民間	3.0	なし	松浦 小野	工事着工
132	立会	米竹遺跡	平成24年3月14日	大字千歳字中1344-10 1344-11	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.0	なし	長	工事着工
133	立会	二目川遺跡	平成24年3月15日	大字横尾字猪野原3603番14	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.8	なし	松浦 小野	工事着工
134	立会	葛木遺跡	平成24年3月19日	大字葛木字中原423番11	E	集合住宅（浄化槽）	民間	5.4	なし	松浦 小野	工事着工
135	立会	猪野遺跡	平成24年3月22日	大字猪野字太郎塚1305-1	E	個人住宅（浄化槽）	民間	6.0	なし	松浦 小野	工事着工
136	立会	古国府遺跡群	平成24年3月23日	大字古国府字南496番4	A	個人住宅（基礎部分）	民間	0.0	なし	松浦 小野（知）	工事着工
137	立会	地蔵原遺跡	平成24年3月28日	大字千歳字土井畑1820番3	E	個人住宅（浄化槽）	民間	3.0	なし	松浦 小野（知） 小野（綾）	工事着工
138	確認	碓方・後遺跡	平成24年3月29日	大字田原字碓方91番5 94番2	B	その他	民間	89.0	あり	長 松浦 小野（知）	協議中

第3表 平成23年度試掘立会一覧表



第2図 平成23年度発掘調査位置図



第3図 報告する遺跡位置図（1/5000）

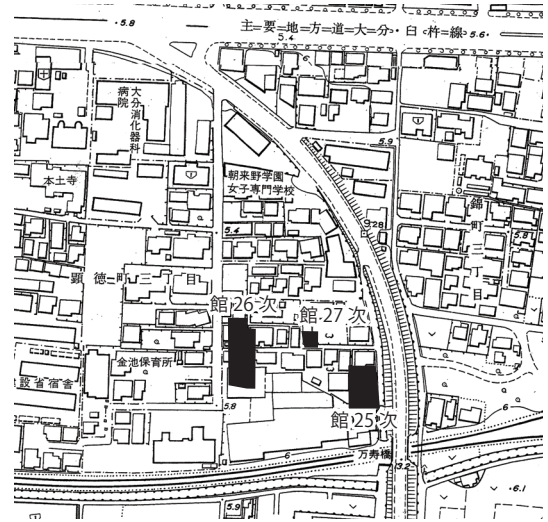
第3章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告

1 大友氏館跡第25・26・27次調査（概要）

25次： 調査面積 498.1 m ² 調査期間 11.05.27～11.08.19	地域 A
26次： 調査面積 754.4 m ² 調査期間 11.10.24～12.02.08	調査担当 五十川雄也
27次： 調査面積 110.4 m ² 調査期間 11.09.27～12.02.08	(25～27次全て)

1. 館25次調査

調査区は、大友館東部にあたる。調査目的は3点である。第1に庭園北東側に想定される遮蔽施設の確認であるが、明確には確認できなかった。ただし16世紀代に該当すると思われる東西方向の柱穴列（板塀？）は検出された。第2に館12次調査区で確認された掘立柱建物跡（14世紀末～15世紀前半）の展開確認で、当調査区内でも展開が確認でき、館12次調査の成果を追認できたといえる。さらに今回の調査区と館22次調査の成果から、14世紀末～15世紀前半の掘立柱建物跡の北側から東側にかけては廃棄土坑や井戸跡が広がる空間であったことがわかった。第3に天正14年以後の町屋の復興の状況確認で、今回の調査でも確認された。主な遺構は井戸跡や廃棄土坑で、玉砂利や瓦、京都系土師器、備前焼、唐津系陶器、ガラス片などが出土しており、町屋の裏手の状況を示していると考えられる。また瓦溜まり遺構も検出され、町屋復興に伴うものと推定されるが、瓦に関しては、館の施設に葺かれていたものを転用した可能性がある。



第4図 調査位置図 (1/5000)

2. 館26次調査

調査区は、大友館ほぼ中央で、中心建物跡の西側に隣接する。調査目的は5点である。第1に中心建物跡の西側への展開の確認であったが、中心建物跡の柱基礎等の関連遺構は検出できなかったため、現在の中心建物跡西側ラインがさらに西へ延びる可能性は低くなった。第2に中心建物跡の南西側に付属する建物跡の展開の確認は、16世紀代の遺構を切る礎石・礎盤石をもつピットなどが一部展開するが、近世の水田化に伴って、削平を受けており、不明な点が多い。しかし、規模は不明ながら、礎石・礎盤石をもつ掘立柱建物跡が展開していた可能性は高い。第3に館17、20次調査区の大規模整地の西限の確認で、大規模整地は調査区東側で幅2mまでを確認でき、それより西側は、近世水田層に切られている。大規模整地の西限は、検出した15世紀後半代の南北溝機能時には、大規模整地は存在していたため、西限は南北溝あたりであろう。16世紀後半頃は延びても北西隅で確認された南北溝の西側までであろう。ただし館の最終段階には、南北溝が埋められ、整地層が広がっているため、現道周辺まで大規模整地が延びている可能性もある。第4に館4次調査で検出された溝（16世紀代）の確認で、調査区北西隅で、16世紀中葉～後葉の南北溝の西側一部を確認した。第5に調査区南側で東西の区画施設（大規模整地と庭園を区画する溝など）の確認であるが、攪乱もあり、南側で16世紀代の東西方向の区画施設（大規模整地と庭園の境）は確認できなかった。

3. 館27次調査

調査区は、大友館中心部よりやや東側にあたる。調査目的は2点である。第1に館23次調査区で検出された南北溝の確認及び館16次調査区で検出された溝跡の確認で、館15・23次調査区から続く16世紀後半代の南北溝は当調査区の西端で検出された。調査区外に伸びるため、今後も当調査区の南西部を調査する必要がある。また当調査区南側の館16次調査で検出された南北溝は、当調査区では検出できなかったため、屈曲するもしくは途切れる可能性が高い。第2に中心建物跡東側の柵跡や掘立柱建物跡の展開確認である。杭状のものと柱穴列が確認された。柱穴列は柵跡か掘立柱建物跡一部であろう。時期は不明であるが、16世紀後葉～末葉までは下がらないと思われる。（五十川雄也）

2 中世大友府内町跡第 98 次調査

調査面積 119.2 m²

調査期間 11.06.28 ~ 11.06.29

地域 A

調査担当 塩地潤一・佐藤道文・松浦憲治

1. 調査の経緯・立地と環境

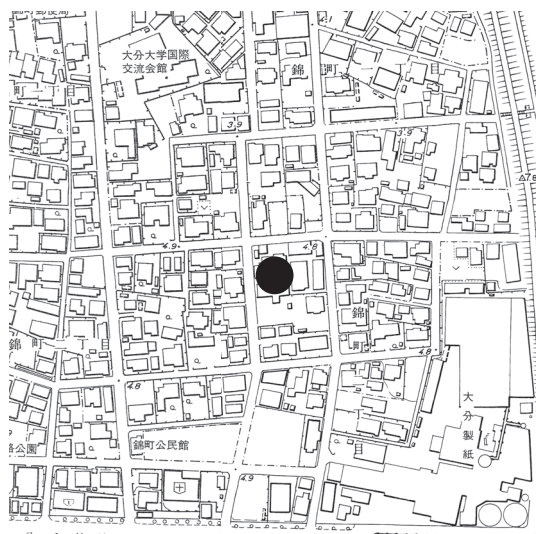
中世大友府内町跡は、大分川河口部左岸の沖積平野に立地する。大友氏館跡を中心として広がる中世都市遺跡である。中世大友府内町跡第 98 次調査は、錦町 2 丁目に所在し、宅地開発による造成工事に伴って実施した確認調査である。第 3 次調査の北約 150 m の地点で、中世大友府内町における中之町に推定されており、町屋が展開する地点である。

2. 調査の概要

調査は宅地造成の範囲内において 1 ~ 4 のトレンチを設定し調査を行った。現地表面下約 0.3 m までは現代の造成土及び暗褐色土の遺物包含層である。その下で褐色土に至り、褐色土上面で遺構を検出した。なお褐色土の下位には地山と考えられる灰黄色シルトが堆積しており、周辺の地形は氾濫原などの河川由来の堆積物で形成されたものと考えられる。

主な遺構は溝状遺構と土坑である。全体的な遺構密度はかなり低いが、西側の溝状遺構付近ではやや密度が高い。SD002 は 1・2 トレンチで検出した南北方向の溝である。西肩は調査区外にのびるが、西側の立ち上がり部分は確認している。幅 3 m 以上で、深さ約 1.4 m を測る。埋土は灰黄褐色細砂を呈する。埋土の中から京都系土師器が出土しており、16 世紀後半に廃絶したものと考えられる。SK001 は 1 トレンチで検出した土坑で、16 世紀中頃の在地区土師器が出土している。

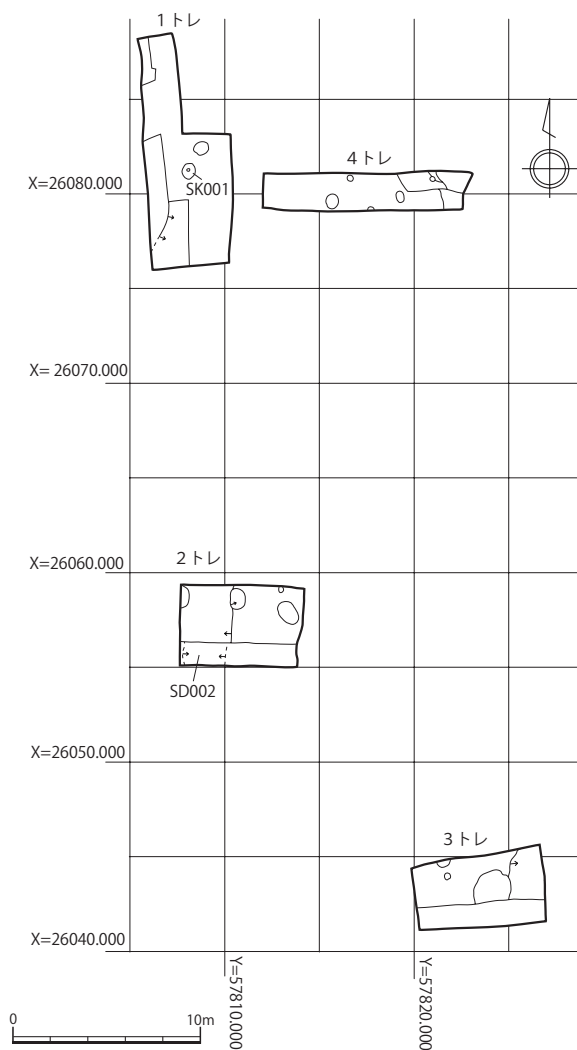
褐色土からは、4 トレンチにおいて 7 世紀代の須恵器が出土している。また褐色土自体に少量のブロック土が含まれていることから、自然堆積ではなく、整地などの人為的な堆積と考えられる。ただし、褐色土中からの遺物の出土がわずかなため、褐色土の形成が古代の 7 世紀代にまで遡るかどうかは明確ではない。府内の町屋に関連すると考えられる遺構も確認されたため、その町屋整備に関わる整地の際に、古い遺物が混入したとも考えられる。



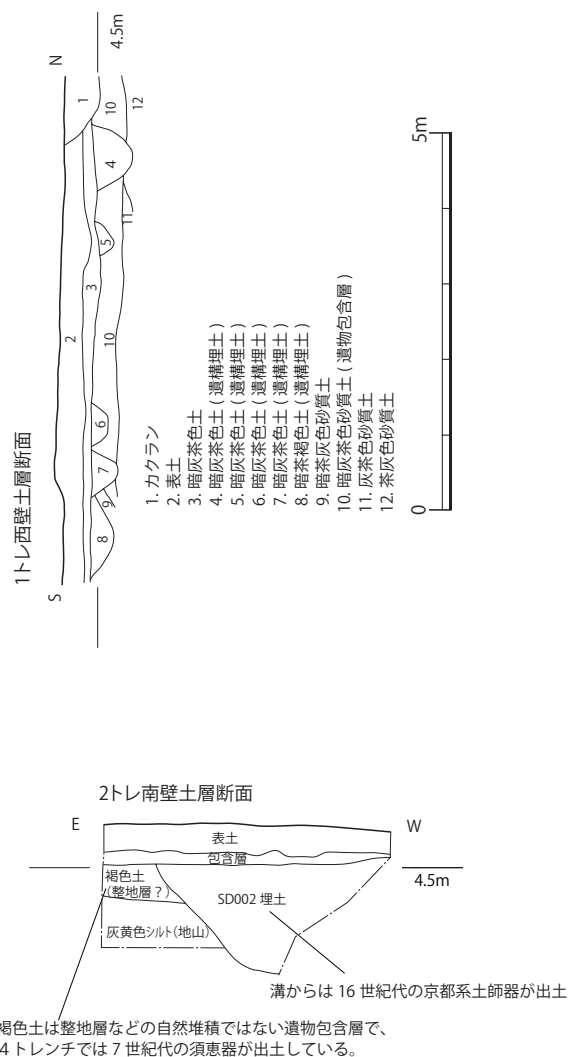
第 5 図 調査位置図 (1/5000)



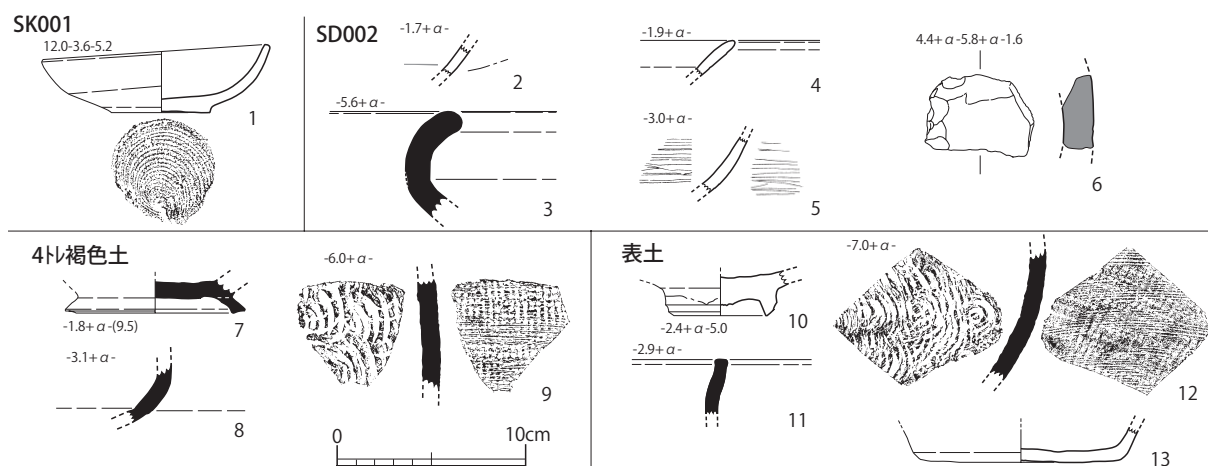
第 6 図 周辺調査区位置図 (1/2000)



第 7 図 遺構全体図 (1/400)



第 8 図 1・2トレ土層図 (1/100)



第 9 図 出土遺物実測図 (1/4)

3. まとめ

周辺はこれまでの調査により戦国期に大友氏の府内の町屋が展開していたことがわかっており、今回検出した遺構もその町屋に関連する遺構と考えられる。ただ推定される街路からは調査区が離れており、柱穴などの建物に関する遺構も確認できなかったことから、町屋が建ち並ぶ状況ではなく、町屋の裏手にあたる考えられる。また褐色土の形成時期の問題もあり、周辺での調査によってより詳細な状況を明らかにしていく必要がある。(松浦憲治)

3 古国府遺跡群第16次調査

調査面積 30.6 m²

地域 A

調査期間 11.04.07

調査担当 長直信・松浦憲治

1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

古国府遺跡群第16次調査は、大字羽屋字七曹司に所在し、個人住宅の柱状改良に伴って実施した確認調査である。2011年4月7日に調査を実施した。調査面積は30.6 m²である。

古国府遺跡群は、大分川左岸の沖積平野に立地する。豊後国府推定地とされるが、奈良～平安時代の具体的な遺構の発見に乏しい。なお、調査地点は、7世紀末頃の大型掘立柱建物跡が検出されている羽屋・井戸遺跡の約50 m東に位置しており、官衙関連遺構が展開する可能性のある地点である。開発対象地点に「L」字のトレンチを設定し調査を行った。

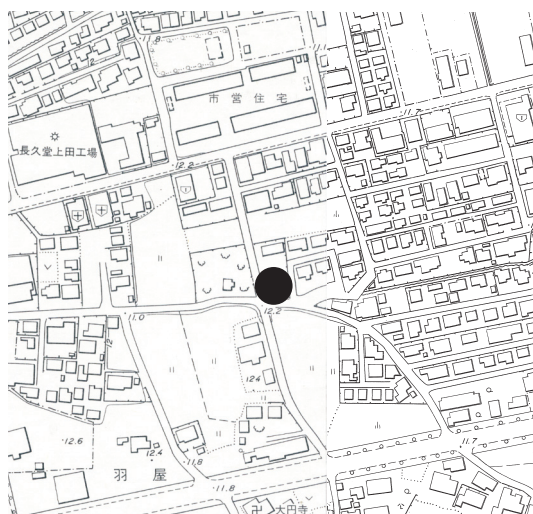
2. 調査概要

調査の結果、7世紀末から8世紀初頭頃の大型の柱穴及び、これに切られる柱穴列を検出した。

地表面より、0.5 mの厚さで堆積するバラスを除去し、0.1～0.2 mの厚さで堆積する水田層を除去すると、地山である黄灰色土を検出した。地表面より約0.8 m下での検出となる。遺構密度は非常に低い。

SX001：調査区北西隅で検出した掘方径1.4～1.5 m、柱痕径0.35 mの巨大な柱穴痕で、掘方の深度は0.2 m、柱痕の深度は0.3 mである。調査区内ではこの遺構に対応する柱穴は確認できないので、調査区外の北西方向に展開すると考えられる。

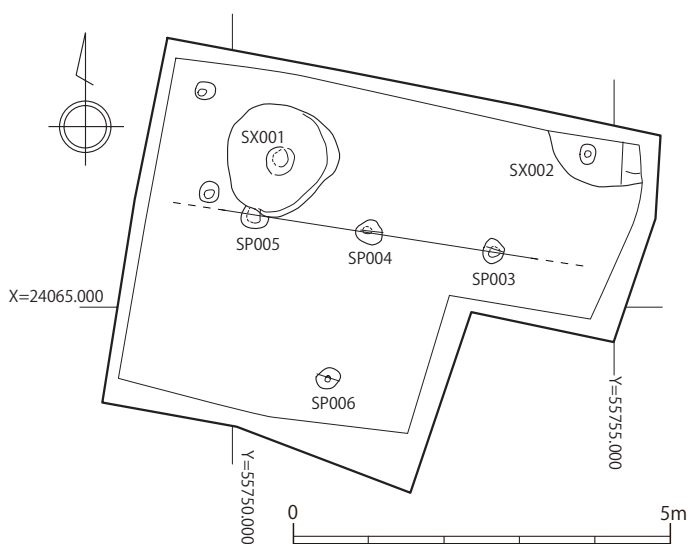
出土遺物：掘方より土師器片、須恵器甕・蓋片が出土した。1～5は須恵器である。1は蓋×坏身である。外面には丁寧な回転ヘラケズリ痕を残す。2はやや深手になるので、坏身として図示した。底部外面には、回転ヘラケズリ後、小刻みに手持ちヘラケズリを行ったような調整を残す。淡橙色に焼成されている。3は短頸壺片である。あまり肩の張らない器形で、肩部には蓋をして焼成した痕跡が残る。器壁は薄く、シャープに成型されている。4・5は



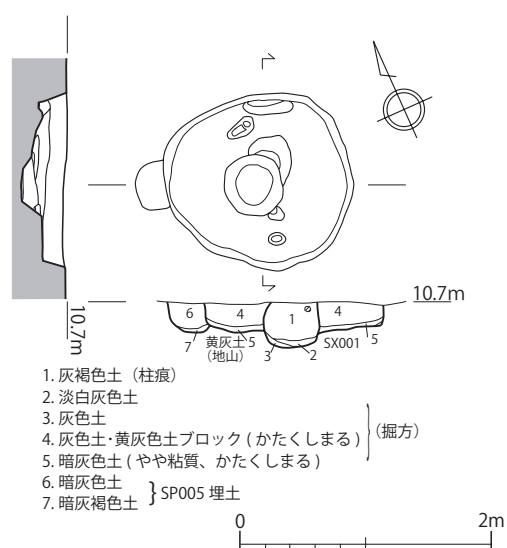
第10図 調査位置図 (1/5000)



第11図 周辺調査区位置図 (1/1000)



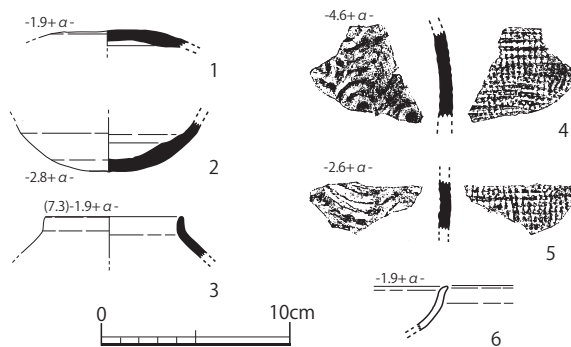
第12図 遺構全体図 (1/100)



第13図 SX001 遺構平面図 (1/60)

甕片で内面に同心円文の残る当具痕を、外面には格子目タタキを施す。6は土師器の椀で口縁端部を強く外反気味にナデ調整を施し、端部を内側に面取りを行う形態のものである。手持ち成型であり、口縁部の属性から7世紀末～8世紀初頭頃に類例の多い遺物である。

その他の遺構：SX001に切られる柵状遺構の柱穴と考えられるSP003～SP005を検出した。東西方向の柱間は、1.5 m、南北方向の柱間は、2.0 mである。出土遺物はなく時期は不明であるが、7世紀後半以前の遺構と考えられる。東西方向の区画を示す遺構として注目される。



第14図 SX001 掘方出土遺物実測図 (1/4)

3. まとめと今後の課題

今回の調査では、7世紀末～8世紀初頭頃の大型の柱穴を検出した。調査地点に近接する羽屋・井戸遺跡で確認された大型掘立柱建物跡との関連性が想定され、極めて重要な発見である。また、羽屋・井戸遺跡周辺の北側や西側では安定地盤はみられなかったが、50 m西にあたる本調査区で安定地盤が確認され遺構の面的な確認ができた。これまでの周辺の調査から調査地点周辺は島状に安定地盤が分布し、この部分に掘立柱建物跡などの遺構が分布するようであり、今後の開発においても綿密な確認調査を重ね遺跡全体の旧地形や性格を明らかにする必要がある。(長直信)



全景検出状況 (北より)



SX001 土層断面 (東より)

4 上野遺跡群第14次調査

調査面積 131.1 m²

地域 A

調査期間 10.07.26 ~ 10.07.30

調査担当 五十川雄也

1. 調査の経緯・立地と環境

上野遺跡群は大分川下流左岸、高崎山から大分川に向かって東西南方向に派生する上野丘陵の東端に立地しており、古代の国府関連遺跡や古代寺院跡などが確認されている遺跡である。上野遺跡群第14次調査は、上野丘東に所在し、共同住宅建設に伴って実施した本調査である。大分県立芸術短期大学の南約120mに位置している。県の調査によって推定国司館と考えられている竜王畑遺跡（旧あけぼの学園跡地）の約100m南側であり、国府関連遺構が展開していると考えられる地点である。

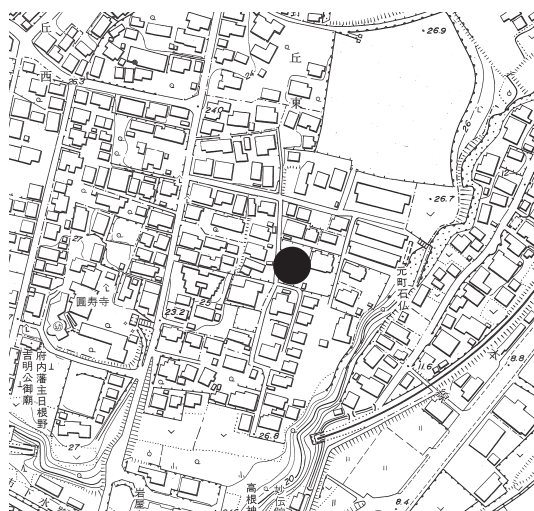
2. 調査の概要

調査は、共同住宅の基礎によって遺跡が破壊される部分について、1～4トレンチを設定し行った。現地表面下約0.5mまでは近現代の造成土及びアスファルトで、その下に黄褐色粘土の安定地盤層が存在する。遺構は黄褐色粘土層の上面で検出した。

検出した主な遺構は、土坑及びピットである。

SK002は1トレンチで検出した直径約2.1m、深さ約0.3mの不整円形を呈する土坑で、SK011を切る。また一部調査区外にのびる。断面形状は皿形を呈し、埋土はブロック土を多く含む。埋土中から須恵器円面碗の破片（第20図-15）や須恵器壺片などが出土しており、8世紀に比定される。

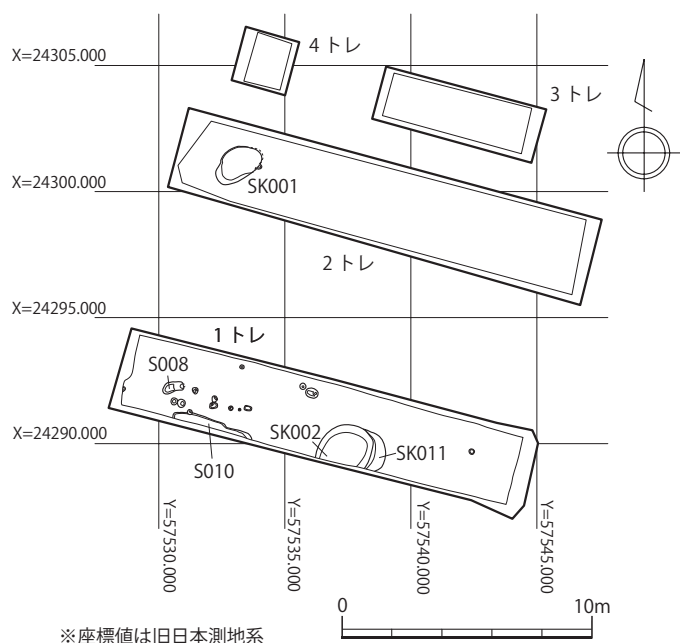
SK011は1トレンチで検出した土坑で、大部分がSK002によって切られ、一部調査区外にのびる。円形を呈する



第15図 調査位置図 (1/5000)



第16図 周辺調査区位置図 (1/4000)



第 17 図 遺構全体図 (1/300)

と思われる平面形状で、直径 1.5 m 以上、深さ約 0.3 m を測る。埋土はブロック土を多く含む。遺物は出土しなかったため詳細な時期は不明であるが、SK002 に切られることから、8 世紀以前の遺構である。

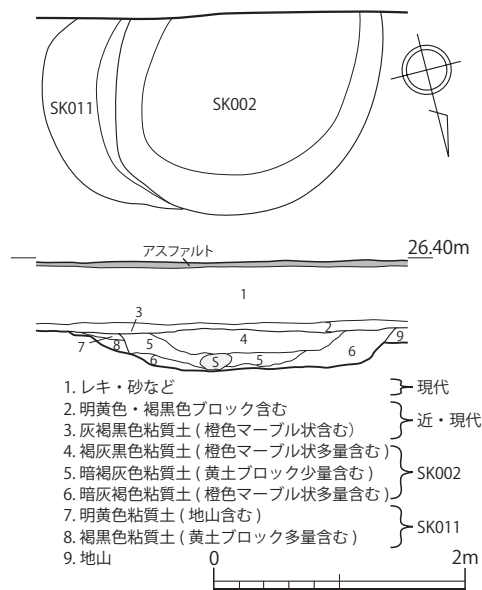
SK001 は 2 トレンチで検出した土坑で、楕円形を呈する。長径約 2.0 m、短径約 1.2 m、深さ約 0.5 m を測る。底面は平坦でなく凹凸が激しい。埋土に微量ではあるが焼土を含んでいる。埋土中から古墳時代後期の土師器甕が出土しているため、SK001 の時期も古墳時代後期に比定される。

【出土遺物】1～11 は 1 トレンチ検出時に出土した遺物である。1 は土師器環 a 底部である。復元底径 6.0 cm、残存器高 1.3 cm を測る。2 は青磁の碗か皿の口縁部である。残存器高 1.9 cm を測る。3 は須恵器壺の底部である。復元底径 9.8 cm、残存器高 2.5 cm を測る。4 は黒色土器碗 A 類である。底部であるが高台部は欠損している。残存器高 1.4 cm を測る。5 は土師器環蓋口縁部で、復元口径 18.6 cm、残存器高 2.0 cm を測る。6～8 は土師器環口縁部で、ともに口縁部が強く外反し、端部が丸くおさまる。6 は残存器高 1.5 cm、7 は残存器高 2.8 cm、8 は復元口径 14.0 cm、残存器高 2.2 cm を測る。9・10 は土師器環 c 底部である。9 は高台が遺存するが、10 は欠損している。9 は復元底径 7.0 cm、残存器高 1.2 cm、10 は残存器高 1.1 cm を測る。11 は土師器環底部である。残存器高 1.0 cm を測る。

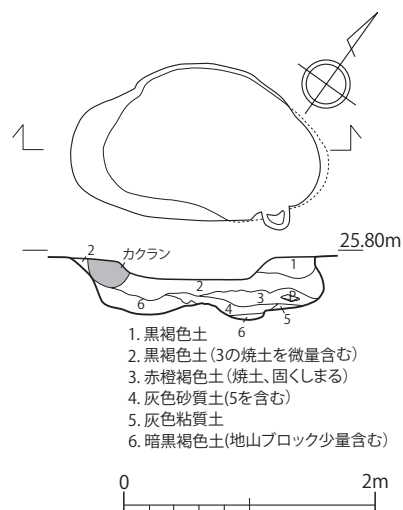
12～16 は SK002 から出土した。12～15 は須恵器である。12 は環蓋口縁部で、残存器高 0.9 cm を測る。13 は甕胴部で、外面に格子目タタキ、内面に同心円状当て具痕が残る。残存器高 3.6 cm を測る。14 は壺の肩部から胴部で、肩部にヘラ描き文を施す。復元肩部径 15.6 cm、残存器高 5.4 cm を測る。15 は円面碗の体部である。2 つ以上の透孔を有する。復元胴部径 19.1 cm、残存器高 8.4 cm を測る。16 は砥石で、緑色片岩製である。欠損部は多いが、一部面をもつ。最大長 18.7 cm、最大幅 17.4 cm、最大厚 4.6 cm を測る。

17・18 は SK001 出土の土師器甕である。17 は口縁部で、復元口径 22.4 cm、残存器高 8.1 cm を測る。18 は底部で、内面は不定方向のヘラケズリを施す。残存器高 5.4 cm を測る。

19 は S008 から出土した土師器環の底部で、残存器高 1.2 cm を測る。20 は S010 から出土した土師器環 a の底部で、復元底径 6.8 cm、残存器高 1.5 cm を測る。

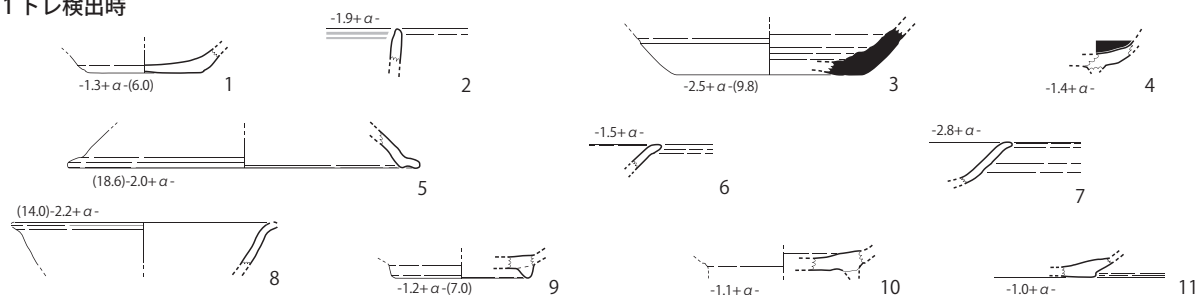


第 18 図 SK002・011 遺構図 (1/60)

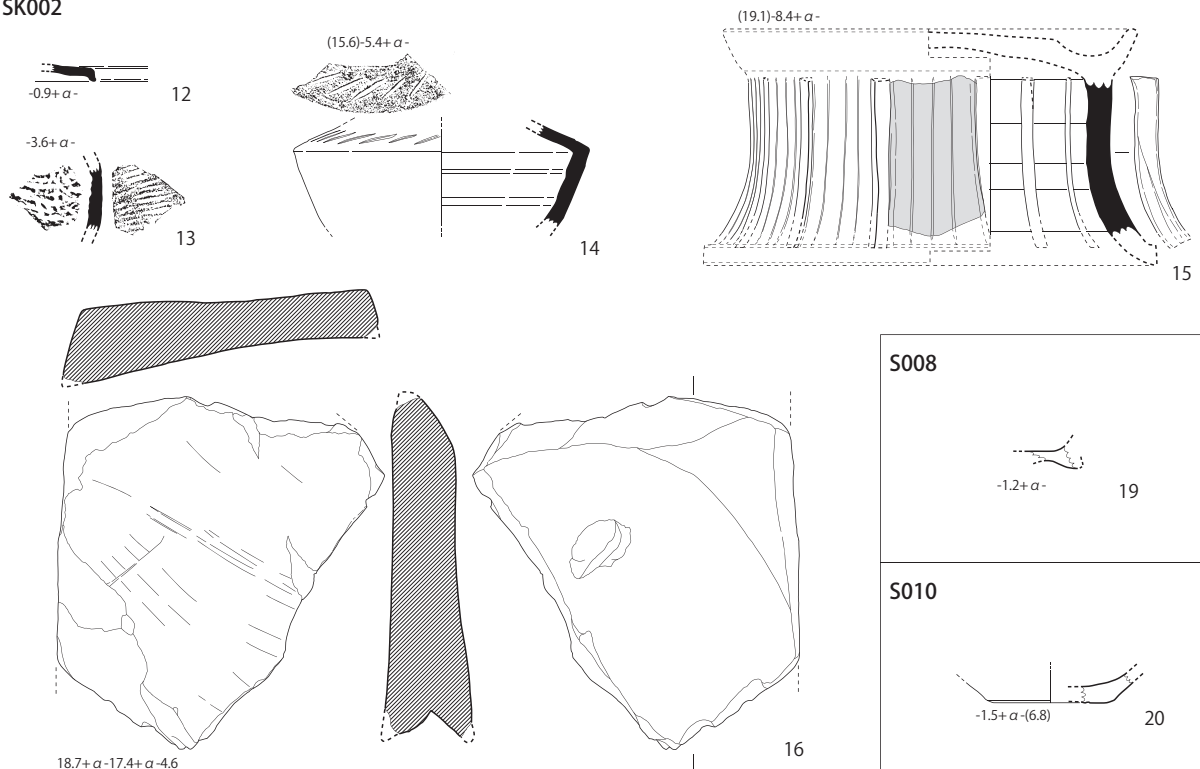


第 19 図 SK001 遺構図 (1/60)

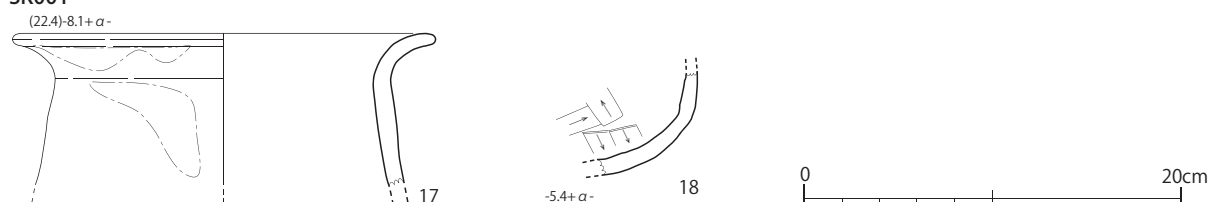
1 トレ検出時



SK002



SK001



第 20 図 出土遺物実測図 (1/4)

3. まとめ

調査では、土坑を検出し、須恵器円面硯や、古墳時代の土師器などが出土した。古墳時代については、県調査による竜王畑遺跡で古墳時代の竪穴建物を確認されていることから、集落が展開していた可能性もあるが、調査区の狭小さと検出遺構の少なさから不明な点は多い。古代については、SK002 から須恵器円面硯片が出土した。調査区から北 100 m の地点で行われた県の竜王畑遺跡の調査では、8 世紀を中心として 7 世紀代から 9 世紀までの掘立柱建物跡群が確認されている。これは整然とした並びであり、また規格制を強くもった建物の並びであること、出土遺物が円面硯や須恵器杯の転用硯などが出土していること、7 世紀から 9 世紀と比較的長期間にわたる建物の建て替えが行われていることなどから、国司館などの公的施設や、それに関連した施設であると考えられている。今回の調査区も、調査区の狭小さのため遺構の広がりについては不明な点が多々あるが、竜王畑遺跡と同じく須恵器円面硯が出土したことから、公的施設が存在した可能性があり、竜王畑遺跡との関連からこの時期の遺跡の展開について考える必要があろう。(松浦)

5 上野遺跡群第15次調査

調査面積 83.7 m²

地域 A

調査期間 12.01.17～12.01.18

調査担当 佐藤道文・奥村義貴・小野綾夏

1. 調査に至る経緯・立地と環境

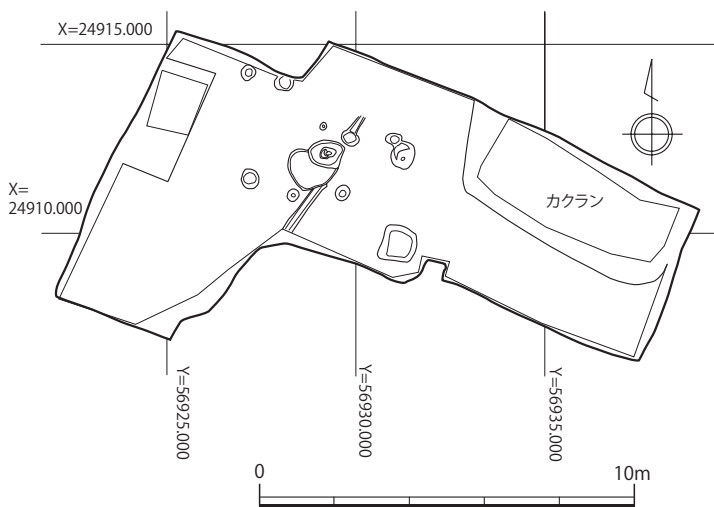
上野遺跡群は高崎山から大分川に向かって派生する丘陵東側に立地しており、古代の国府関連遺跡や古代寺院跡などが確認されている遺跡である。上野遺跡群第15次調査は、上野ヶ丘2丁目に所在し、個人住宅建設に伴って実施した確認調査である。調査地点は、金剛宝戒寺の西側約70mの地点であり、また8世紀代の古代寺院である上野廃寺の南東約100mの地点であるため、古代寺院関連遺構が展開する可能性がある地点である。開発対象地に「L」字状のトレンチを設定して調査を行った。

2. 調査概要

検出した遺構は、ピット、土坑及びカクランである。ピット、土坑は遺物が出土しなかったため、時期が不明である。調査区北東端のカクランからコンクリート片などとともに中世期～近世期に比定される瓦片が多く出土した。中でも多数の平瓦、丸瓦が出土しているが、すべて欠損が激しく、完形品は遺存していなかった。ここでは図化可能な軒平瓦、軒丸瓦を挙げている。1～3は軒平瓦である。1は瓦当部のみである。瓦当に唐草文を有する。2は瓦当に唐草文を有する。凹面にコビキA痕跡が見られる。3は瓦当に牡丹唐草文を有する。18世紀後半代に帰属する軒平瓦である。4～6は軒丸瓦で、ともに左巻き三巴文を中心に珠文が配される。4は瓦当部のみである。珠文数18個か。5は珠文数20個か。内面に布目痕、外面の一部に縄目痕が残る。6は瓦当部のみである。珠文数20個か。

3. まとめ

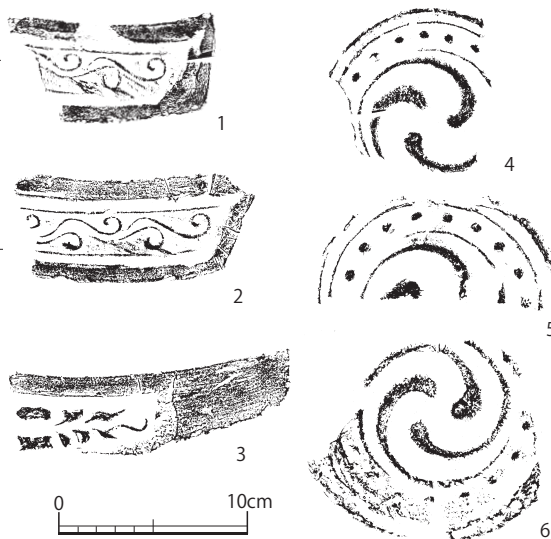
今回の調査では、良好な遺構は検出できず、当初想定していた古代に関する遺構・遺物も確認できなかったが、カクランから中世期に遡る軒平・軒丸瓦が出土した。西側約70mの地点に所在する金剛宝戒寺は、創建は8世紀であるものの当地に移転してきたのが14世紀に入ってからといわれている。調査地周辺で中世期～近世期に瓦葺きの建築物があるならば、位置的・時期的に考えて金剛宝戒寺に関わるものである可能性が高い。その場合、中近世期と現在とで寺域の範囲に変化があり、より広範囲にまで寺域が及んでいたのではないかと考えられる。(松浦)



第22図 遺構全体図 (1/200)



第21図 調査位置図 (1/5000)



第23図 カクラン出土遺物実測図 (1/4)

6 羽田遺跡第8-2次調査 SK255 出土鑄造関連資料

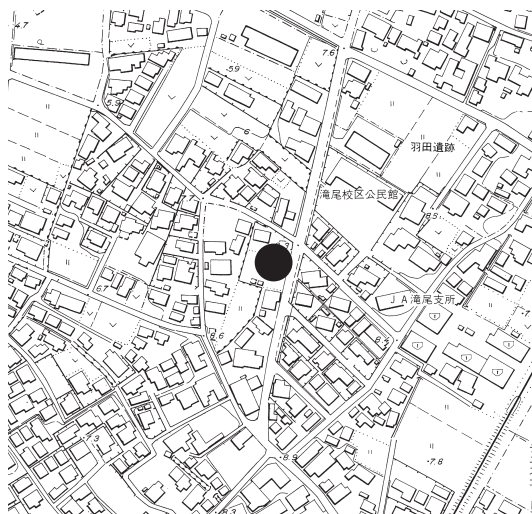
調査面積 801.5 m²

調査期間 10.10.14 ~ 11.03.10

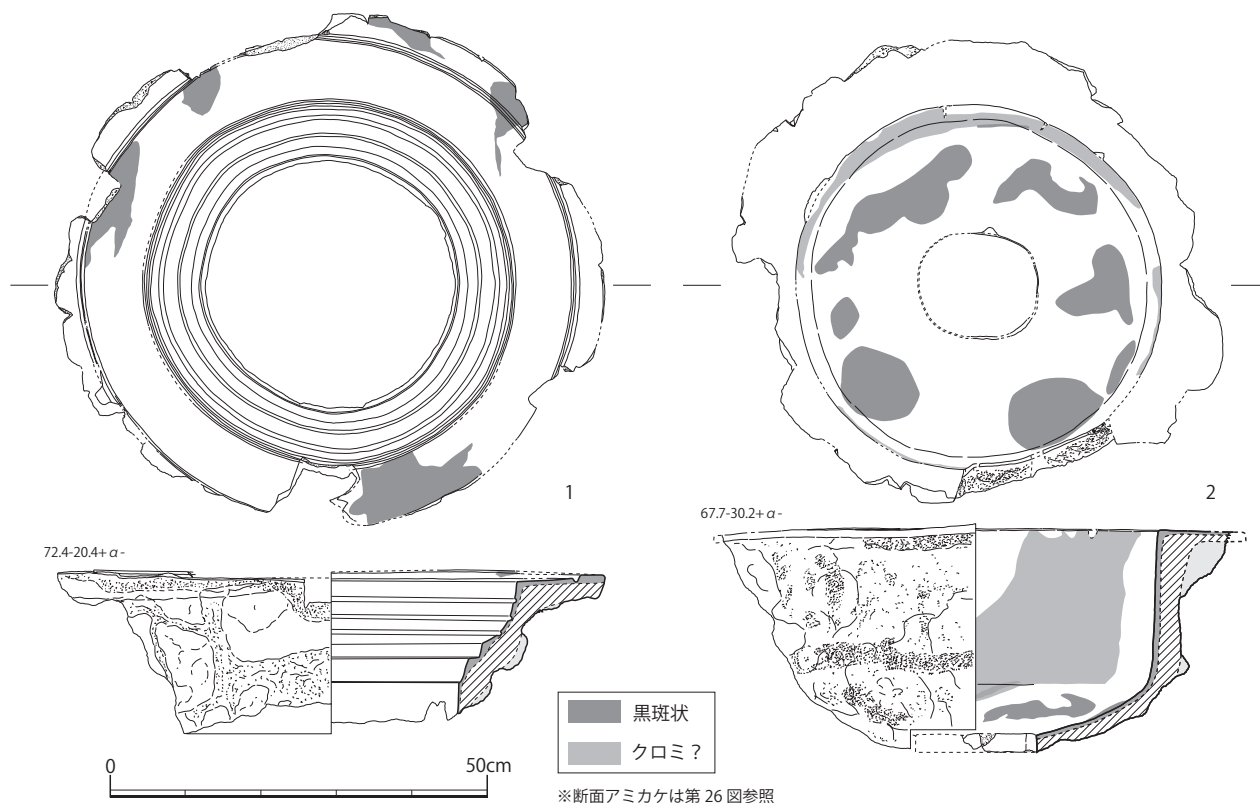
地域 A

調査担当 五十川雄也

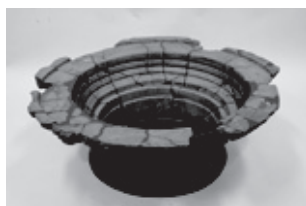
羽田遺跡第8-2次調査は平成23年度に本報告を刊行した(2012『羽田遺跡3』)。ただSK255(12世紀末)の出土資料の一部(第25~27図1~14)は保存処理等で、本報告に掲載できなかったため、追加資料として報告する。溶解炉の分析等は九州テクノリサーチに委託し行った(別稿記載)。1・2は羽釜鑄型である。1は口型で真土は縦方向に大きく3層確認できる。2は尻型で、底部に楕円形状の穿孔がある。1・2の鑄型からできる製品の法量は羽を入れた径が65cm、口縁部径39cm、器高38cmである。3~7は、溶解炉(甗炉)片である。3・4は口縁部付近と考えられるが、径が異なるため、別固体と考えられる。4・5は外面に縄目の痕跡が残る。5(第4表HAD-1・3該当)は胴部で、6とは別固体と考えられる。胴部中央付近に送風管挿入口と想定される痕跡が残る。6(第4表HAD-2・4該当)は送風管と胴部が接合する状態である。送風管の挿入角度は約30°である。送風管は複数回の使用が推定される。6の下部に半円状に穿孔が確認できる。7は溶解炉底部と考えられる。上部に半円の穿孔がある。内底から約5cm上方で、



第24図 調査位置図(1/5000)



羽釜鑄型(口型)



羽釜鑄型(尻型)

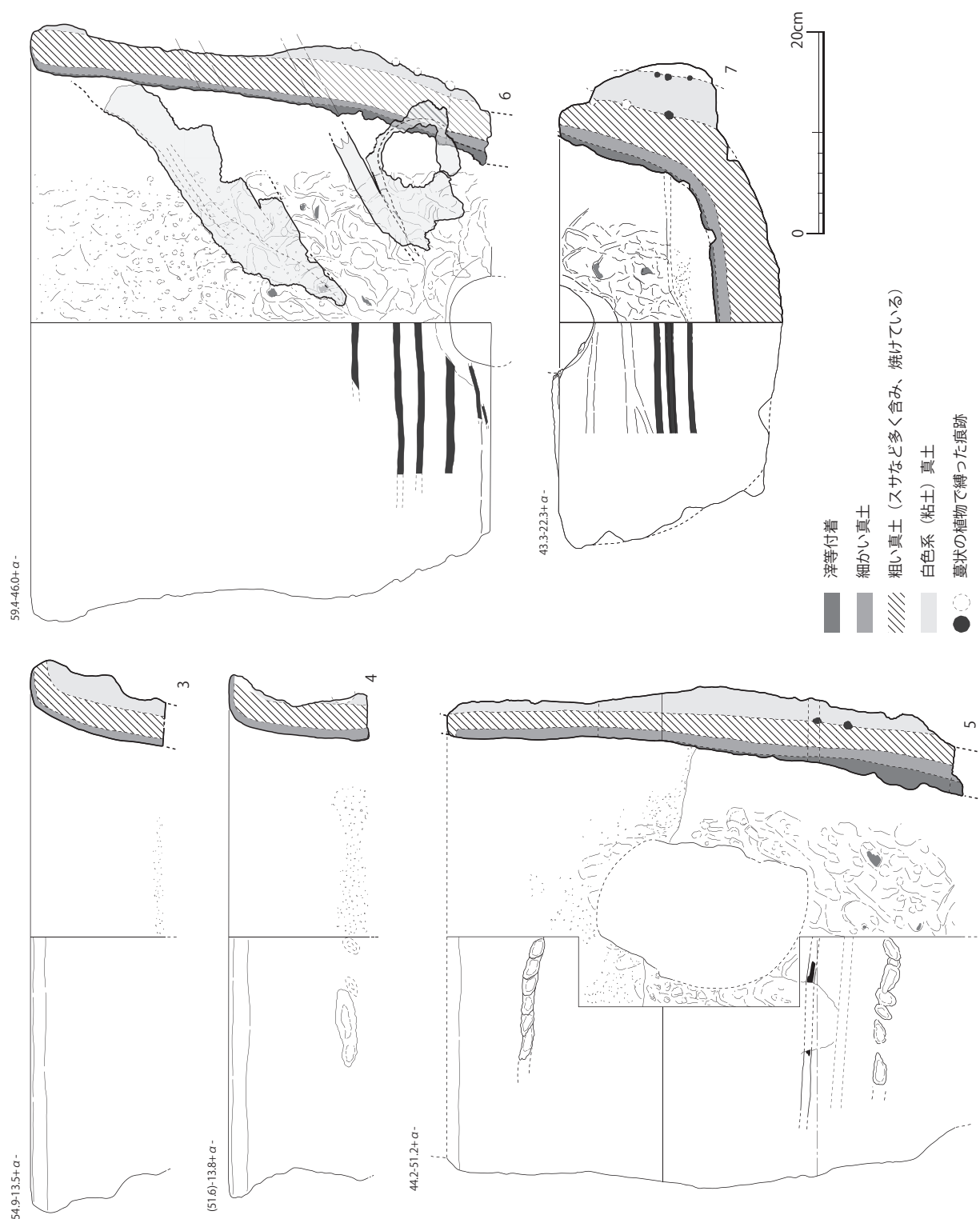


鑄込み前断面レプリカ



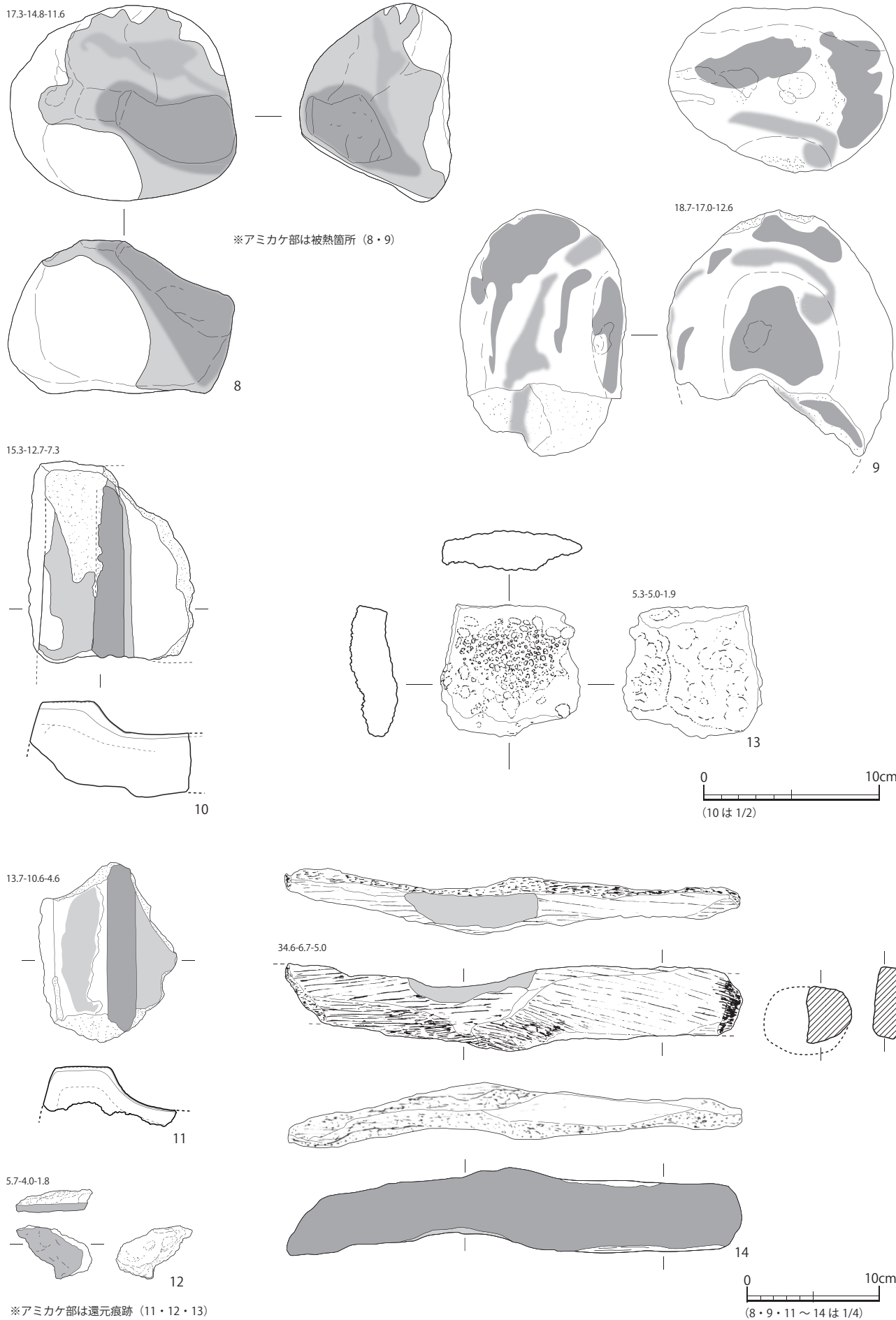
羽釜製品レプリカ

第25図 鑄型実測図(1/10)及び復元・レプリカ写真



第 26 図 溶解炉実測図 (1/6)

内面に付着している滓が途切れるような箇所が内面をほぼ同じ高さで一周している。7 と 5・6 との接合はできないが、無関係ではないと思われる。また 3・4 と 5・6 も接合はできなかったが、無関係でないと思われる。これらからすると溶解炉は最低 2 個あったと推定される。8・9 は部分的に焼けている礫で、SK255 の最上部で出土した。他に数個出土している。10～12 (12 は第 4 表 HAD-7 該当) は鋳型で、何の製品かは不明である。掲載の他にコンテナ 1 箱分出土している。13 は (椀型) 滓片である (別稿分析の HAD-6 該当)。14 は木製品で、復元径は 5 cm 前後である。中央やや横に凹んでいる箇所がある。最後に第 25 図写真にあるように、出土鋳型を参考にした鋳込み直前の断面レプリカ (1/1) とこの羽釜鋳型でできたであろう羽釜製品のレプリカ (1/1) を作製した。(五十川)



第27図 出土遺物実測図 (1/2・1/4)

羽田遺跡出土鑄造関連遺物の金属学的調査

九州テクノロジー・TAC センター

大澤 正己

I 概要

羽田遺跡から出土した 12 世紀末に比定される鑄造関連遺物（炉壁 3 点、送風管 1 点、椀形滓 1 点、不明鑄型 1 点）の分析調査を行った。（1）溶解炉・炉材や鑄型材は大分川下流域に分布する表層土（安山岩由来の土砂）と成分組成が一致する。（2）炉壁ガラスに残留したねずみ鑄鉄粒の非金属介在物は、砂鉄特有元素のチタン（Ti）やバナジウム（V）を含む。羽釜原料鉄は国東半島側からの搬入も一つの候補。例えば由井ヶ迫製鉄遺跡は 12 世紀後半から 13 世紀の操業である。砂鉄原料で出土鉄塊からチタン酸化物系鉱物相も確認している^{（注1）}。（3）粗銅溶解精錬過程で生じた可能性をもつ椀形滓が存在した。微小メタルを残存し、Cu-Fe-Sn 組成、1.9%Cu 含有メタルの検出、化学組成分析で 0.03%Cu 組成が得られた。鍛冶滓の銅（Cu）は <0.01% が実績となる。この含銅滓は鑿鑄型が銅製品であったことを裏付ける可能性をもつ。

II 経緯

羽田遺跡は大分市羽田に所在して、大分川河口付近右岸の狭長な沖積地上に立地する。鑄造関連遺物は、羽田遺跡 8-2 次調査区土坑 SK255 で出土した。出土遺物は羽釜鑄型、鑿鑄型、溶解炉、送風管、不明鑄型、椀形滓 1 点などである。これら出土遺物を通して当時の鑄造技術の基礎データを把握する目的から分析調査の運びとなった。

III 調査方法

1. 供試材 第 4 表に示す。炉壁 3 点、送風管 1 点、椀形滓 1 点、不明鑄型 1 点である。

2. 調査項目

（1）肉眼観察：遺物の外観観察を行い、それをもとに試料採取位置を決定する。（金属鉄遺存個所優先）

（2）マクロ組織（Macro Structure）：顕微鏡埋込み試料の断面全体像を投影機の 5 倍、10 倍、もしくは 20 倍で撮影する。低倍率の観察は、組織の分布状態、形状、大きさなど顕微鏡検査によるよりも広範囲にわたっての情報が得られる利点がある。

（3）顕微鏡組織（Microscopic Structure）：供試材は、目的とする位置から切り出したものをベークライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の # 150、# 240、# 320、# 600、# 1000 と順を追って研磨し、最後は被研面をダイヤモンド粒子の 3 μm と 1 μm で仕上げて光学顕微鏡観察を行う。なお、金属鉄のパールライトとフェライト結晶粒は、ナイトル（5% 硝酸アルコール溶液）で腐食（Etching）している。不純物の有無、研磨面の組織観察等で、製品製造方法の推察、素材の類推などミクロ的な調査を行う。

（4）ビッカース断面硬度：鉄滓の鉱物組成と、金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行う。試験は鏡面研磨した試料に 136° の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除いた商を硬度値としている。硬度値から炭素量などの含有量、製造手法などを探る。試料は顕微鏡用を併用する。

（5）EPMA（Electron Probe Micro Analyzer）調査：分析の原理は、真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性 X 線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料を X 線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理して、データ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組成の微

符号	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		調査項目						
				大きさ(mm)	重量(g)	マクロ組織	顕微鏡組織	ビッカース断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度
HAD-1	SK255	溶解炉(中段)	12世紀末	214×122×50	830.0	○	○	○				
HAD-2		溶解炉(下段)		183×118×115	741.0	○	○	○		○	○	○
HAD-3		中型溶解炉(中段?)		175×98×80	630.0	○	○	○		○	○	○
HAD-4		送風管		105×60×	大 221.2 小 44.9	○	○	○		○	○	○
HAD-6		椀形滓破片		53×50×17	84.7	○	○	○		○	○	
HAD-7		不明鑄型		62×33×15	23.6	○	○			○		

第 4 表 供試材の履歴と調査項目

小域の組織同定が可能である。

(6) 化学組成分析：供試材の分析は、次の方法で実施する。

全鉄分 (Total Fe)、全金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO)：容量法。炭素 (C)、硫黄 (S)：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。二酸化珪素 (SiO₂)、酸化アルミニウム (Al₂O₃)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K₂O)、酸化ナトリウム (Na₂O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO₂)、酸化クロム (Cr₂O₃)、五酸化リン (P₂O₅)、バナジウム (V)：ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法。誘導結合プラズマ発光分光分析。

(7) 耐火度：耐火度の加熱に耐える温度とは、溶融現象が進行の途上で軟化変形を起こす状態の温度で表示することを定め、これを耐火度と呼んでいる。胎土をゼーゲルコーンという三角錐の試験片に作り、1 分間当たり 10℃ の速度で 1000℃ まで温度上昇させ、それ以降は 4℃ に昇温速度をおとし、試験片が荷重なしに自重だけで軟化し崩れる温度を示している。

IV 調査結果

1. HAD-1 炉壁

(1) 肉眼観察：上下に長い炉壁片である。最大厚み 5.0 cm を測る。上側面のみは接合面で生きるが、他の左右と下側面は破面となる。溶解炉中段あたりの部位だろう。内面は溶融ガラス化し、比較的滑面に発泡と木炭痕を留める。色調は灰色から淡褐色で下部に酸化土砂を付着する。胎土は白色粘土でスサの混和があり、炉壁外面は黒く炭化する。

(2) マクロ組織：第 34 図に示す。断面表層 (左) は溶融ガラスの発泡から多孔質を呈するが、内部側へ寄ると泡は消える。鑄込み時の溶融金属の残留は認められない。

(3) 顕微鏡組織：第 28 図の④～⑨に示す。④はガラス中に存在した 40 μm 程度の錆化鉄粒である。酸化されて炭素 (C) 量を推定する手立ては絶たれた。⑤は溶融ガラスと発泡状況を示す。ガラスは非晶質珪酸塩で SiO₂、Al₂O₃、CaO、MgO、K₂O、Na₂O などの集合体からなる。⑥中央の白色粒子は炉材粘土に混入した砂鉄である。砂鉄粒子周縁に溶融反応痕が見られないので、高温上昇の位置でないことが窺われる。なお、炉材は大部分であれば安山岩由来の土砂であろう。⑦⑧は炉材胎土で、素地を構成する主要鉱物のセリサイト (sericite) である。石英・長石類の加熱変化は見られない。900℃ 以下の温度が推定されて炉壁部位は中段推定で大過なからう。

(4) ビッカース断面硬度：第 28 図⑨にガラス地の硬度測定圧痕を示す。値は 583Hv、595Hv が得られた。ガラスの文献硬度値は 639 ～ 884Hv が提示されている^(注2)。下限を切るがガラスの同定でよいと考える。

2. HDD-2 炉壁

(1) 肉眼観察：炉底部立上りの炉壁片で、最大厚みは 11.5 cm を測る。すべて側面が破面となる。ただし底部側の一部に平坦面を有し、ここが生きた面とすると接合箇所に向かう。内面は滑面をもちつつも凹凸を有し、多くの木炭の噛み込みが認められる。色調は灰褐色から底部へかけては赤味を帯びてくる。また底部寄りに茶褐色の鉄酸化物が多めに固着する。胎土は HAD-1 に準じる。

(2) マクロ組織：第 34 図に示す。発泡ガラスに接して南瓜種子状の金属鉄粒が残留する。鉄は外周を錆化されつつも中核部を不整三角形状に残す。

(3) 顕微鏡組織：第 29 図の④～⑩に示す。⑤～⑧は金属鉄粒である。⑤は腐食剤で腐食せず、研磨のままの組織である。黒灰色の片状黒鉛 (flake graphite) がバラ状に析出したねずみ鑄鉄 (gray cast iron) に分類される。

符号	遺物名称	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第一鉄 (FeO)	酸化第二鉄 (Fe ₂ O ₃)	二酸化珪素 (SiO ₂)	酸化アルミニウム (Al ₂ O ₃)	酸化カルシウム (CaO)	酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K ₂ O)	酸化ナトリウム (Na ₂ O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン (TiO ₂)	酸化クロム (Cr ₂ O ₃)	硫黄 (S)	五酸化リン (P ₂ O ₅)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	二酸化ジルコニウム (ZrO ₂)	耐火度	造滓成分	Σ *	
																							Total Fe	Total TiO ₂
HAD-2	溶解炉(下段)	4.11	0.04	1.58	4.06	55.81	18.58	2.15	1.78	1.54	2.03	0.13	0.92	0.03	0.014	0.30	1.33	0.01	<0.01	0.02	1100	81.89	19.925	0.224
HAD-3	中型溶解炉	4.63	0.10	2.66	3.52	56.70	19.32	2.26	1.94	1.62	2.07	0.09	1.00	0.03	0.011	0.46	0.85	0.02	0.01	0.02	1100	83.91	18.123	0.216
HAD-4	送風管	3.79	0.11	0.50	4.71	58.73	21.94	1.17	0.82	1.45	1.60	0.05	0.88	0.02	0.009	0.44	0.11	0.01	0.01	0.02	1300	85.71	22.615	0.232
HAD-6	椀形滓破片	52.45	0.18	60.93	7.02	19.98	6.46	1.50	0.78	0.92	0.75	0.08	0.37	0.04	0.013	0.27	0.07	0.01	0.03	0.01	-	30.39	0.579	0.007
国東半島火山岩 由来表層土 ^(注3)		-	-	2.42	4.82	59.26	17.36	5.75	2.58	1.48	3.33	0.06	0.94			1.43						89.76		

第 5 表 供試材の組成

該品は溶解炉内で溶融ガラスに包まれて、ゆっくりと凝固冷却速度はとられて鉄中の炭素 (C) は黒鉛になっている。⑥は⑤と同一視野を 5 % ナイタル (硝酸アルコール液) により腐食 (etch) すると、基地の組織が明らかに現われた。殆んどが層状組織のパーライト (pearlite) であり、亜共晶組成ねずみ鋳鉄 (< 4.23%C) に分類される。⑦はバラ状黒鉛部の拡大、⑧は [P] 偏析で点状相である Fe-Fe₃C-Fe₃P の三元系共晶のステダイト (steadite) の存在を示した。⑨は溶解炉壁のガラス、⑩は胎土側の粘土鉱物セリサイトの大部分が加熱変化から非晶質化したところを提示した。

(4) ビッカース断面硬度：第 29 図の④に 4 点の硬度測定 of 圧痕を示す。まず写真右上方のバラ状黒鉛は 107Hv と軟質値が得られた。次に左下方に黒色層状パーライト部は 2 点の測定値で 217Hv、189Hv である。ラミラー (lamellar) 間隔が粗であり、妥当な硬さであろう。最後に左下隅に [P] 偏析の点状相であるステダイト (steadite) は 1005Hv という超硬質であった。それぞれに組織に対応した硬度値と評価できる。

(5) EPMA 調査：顕微鏡観察の倍率では捉え難かった微細な鉄中非金属介在物 (non-metallic inclusion) について述べる。第 35 図の反射電子像 (COMP) に示した 5 × 7 μm の淡黄褐色夾雑物である。製鉄原料脈石や還元剤 (木炭)、炉材屑などで形成されていよう。人間の DNA (細胞の遺伝子) に匹敵し、鉄の製造履歴を知る上での不可欠の情報源となる物質でもある。言葉を変えて非金属介在物を説明すると、鉄鋼中に介在する固形体の非金属性不純物、つまり鉄やマンガン、珪素および燐、硫黄などの合金元素の酸化物、硫化物、珪酸塩などを総称している。本稿のねずみ鋳鉄粒にみられる非金属介在物は硫化物である。硫化物には硫化鉄 (FeS) と硫化マンガン (MnS) が存在する。

第 35 図の反射電子像 (COMP) にみられる分析点 11、12 の介在物は、特性 X 線像では白色輝点が硫黄 (S) に強く集中する。定量分析値は 11 で 45.9%Fe-37.2%S-4.3%Ti 組成から含 Ti の硫化鉄 (FeS) が同定される。これを更に鉱物学的に表現すれば磁硫鉄鉱 (Pyrrhotite : Fe_{1-x}S) となる。砂鉄特有元素のチタン (Ti) を含む。同一非金属介在物で色調の違いから 2 相に分かれていて、分析点 12 になると 19.3%Mn-36.2%S-3.4%Ti-6.2%V 組成となる。分析値の Total が 66.7%と悪いが硫黄 (S) の 36.2%から硫化マンガン (MnS) で砂鉄特有元素の 3.4%Ti-6.2%V 含みと発言できる。鉱物学的にはアラバンドイト (alabandite : (Mn・Fe) S) が硫黄の値から判定できる。純粋のアラバンドイトは 63.1%Mn-36.9%S である。

なお、第 35 図の反射電子像 (COMP) には微細な 1 μm 前後の非金属介在物が点在する。分析点 13 は 8.9%Mn-15.7%Fe-10.4%S-30.9%Ti-9.3%V-1.1%P-15.2%O 組成となる。多数相の混在した解釈の難しいものである。相の分析としては採用できないが、鉄素材に含まれる微量元素を知るには有用で、砂鉄起源のねずみ鋳鉄粒の発言は可能と考える。最後に分析点 14 は [P] 偏析の点状相である。特性 X 線像は P に白色輝点が顕著に集中し、定量分析値は 88.8%Fe-14.3%P 組成となる。この点状相は顕微鏡組織の項ではステダイトとしたが、こちらは鉱物学的には燐化鉄 (Fe₃P : schreiber site) の組成で整理できる。

(6) 化学組成分析：炉壁胎土の分析結果を第 5 表に示す。溶解炉への炉材粘土は軟化点が高くなければならない。アルミナ (Al₂O₃) 質の多いものが耐火性に優れた性状となる。該品の酸化アルミニウム (Al₂O₃) は 18.58%である。古代の耐火物としては、一般的な数値である。また、荷重軟化点を配慮すると、アルカリ類や塩基性成分、酸化鉄など不純物があるとガラス質を造りやすくする。低値が望ましい。この様な観点から分析値を眺めると、2.15%CaO、1.78%MgO など塩基性成分は特別高くはない。またアルカリ類は、1.54%K₂O、2.03%Na₂O₃ も特別問題視する程ではない。しかし酸化鉄 (Fe₂O₃) は 4.06%で若干高め傾向にある。二酸化珪素 (SiO₂) は 55.81%である。以上の分析値は Table2 の参考値に掲げた国東半島の火山岩土砂に近似する^(注3)。在地賦存粘土の採用の可能性が高い。大分川下流域に分布する表層土であることを指摘しておきたい。

(7) 耐火度：第 5 表に示す。1100℃の耐火度であった。Al₂O₃ が 18.6%の粘土である。妥当な値であろう。

3. HAD-3 炉壁

(1) 肉眼観察：平面が台形状で横長に拡がり、輪重みが想定される炉壁片である。厚みが 8.0 cm となる。HAD-1、2 炉壁に比べてやや内径が狭まる。中型溶解炉であろうか。4 面が破面で、下方の一部に下段への接合面となる平坦部を有する。内面の溶融ガラスは滑性で気泡と木炭の噛み込みが見られる。色調は灰褐色で半光沢を呈する。外面胎土は HAD-1、2 に準ずるもので、スサの混和も認められた。

(2) マクロ組織：第 34 図に示す。炉壁内面の溶融ガラスである。気泡発生以外には、晶出鉱物相は見当らない。

溶融金属が鉄か銅かの判別する手立ては絶たれた。

(3) 顕微鏡組織：第 30 図の④～⑩に示す。④⑤は何の変哲もない非晶質珪酸塩であり、ガラス($\text{SiO}_2+\text{Al}_2\text{O}_3+\text{CaO}+\text{MgO}+\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}_3$)である。⑦⑧は炉壁胎土中に混入した砂鉄(magnetite： $\text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$)が還元されたフェライト(ferrite：純鉄、 α 鉄)である。ただし時効硬化でナイトル腐食剤を受付けず、フェライトの確認は取れていない。当炉壁は砂鉄の還元できる温度まで上昇しており、送風管装着近傍の部位であろう。⑨⑩は米粒ほどの軽石状鉱物である。特別情報が採れる対象物ではなかった。

(4) ビッカース断面硬度：第 30 図の④はガラス地の圧痕である。硬度値は 610Hv、615Hv が得られた。ガラスの文献硬度値の 639～884Hv の下限を僅かに切るが、かなりの接近である。次に⑦は砂鉄が還元されたフェライトの可能性をもつ。明白色鉄粒は硬度測定の際の圧痕である。金属組織確認の腐食(etch)を施したが変化なく、硬度値は 251Hv と硬質値を出した。フェライトであれば 80Hv 前後であろう。酸化鉄である。

(5) EPMA 調査：第 36 図の反射電子像(COMP)は、ガラス地に微小鉄粒の分析結果を示す。特性 X 線像はガラス地($\text{Si}+\text{Al}+\text{Ca}$)に Fe の白色輝点が左右に 2 点集中する。分析点 12 のガラス地の定量分析値は 60% SiO_2 -21.0% Al_2O_3 -3.5% CaO -1.8% MgO -1.9% K_2O -1.9% Na_2O -4.57%Fe 組成が得られた。非晶質珪酸塩のガラス(glass)である。次に分析点 7、8 の定量分析値は 94.5%Fe-3.2%P-95.0%Fe-3.4%P 組成である。両方共に燐固溶の鉄と同定される。鉄はフェライトであろう。当炉壁が鑄造金属が鉄か銅かの判定はつけ難い。

(6) 化学組成分析：第 5 表に示す。二酸化珪素(SiO_2)が 56.7%に対して、塩基性成分($\text{CaO}+\text{MgO}$)が 4.2%、アルカリ($\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}$) 3.69%、アルミナ(Al_2O_3) 19.32%など前述 HAD-2 炉壁胎土と殆んど差異のない成分である。また国東半島火山岩由来の表層土とも近似する。大分川下流域分布の表層土に位置づけられる。

(7) 耐火度：第 5 表に示す。1100℃である。前述 HAD-2 炉壁と同等であった。成分系が同じであれば当然の帰属である。

4. HAD-4 送風管

(1) 肉眼観察：約 6.5 cm 口径の送風管先端よりの破片である。穿孔部内面とガラス化表面は生きている。表面は黒色ガラス質に溶融し、酸化雰囲気からの淡紅色の発色面にガス抜け孔が点在する。側面の 4 面が破面。胎土は白色粘土ヘスサ混和が認められる。内面粘土の被熱部分は酸化されて赤味を帯びる。

(2) マクロ組織：第 34 図に示す。断面は気孔を発した黒色ガラス地に微小金属鉄粒が幾つか点在するが、5 倍の低倍率では捉えきれない。鉄溶解炉に伴う送風管とする。

(3) 顕微鏡組織：第 31 図の④～⑩は溶融ガラス地に晶出した鉄粒を示す。鉄粒は溶融ガラスの表層側へ晶出する。鉄粒の炭素形態は、④～⑧はパーライト(pearlite)、⑦はセメンタイト(Cementite： Fe_3C)である。各鉄粒は鑄鉄組織までの発展は認められない。

(4) ビッカース断面硬度：第 31 図の⑧はフェライト・セメンタイト素地の硬度測定の際の圧痕である。硬度値は 344Hv が得られた。⑩は初晶パーライト部分の圧痕で 360Hv、他の 1 点は 358Hv だった。次にガラス地の硬度値は 614Hv、643Hv である。それぞれ組織に応じた値と評価できる。

(5) EPMA 調査：送風管の溶融ガラス地に鉄痕跡らしき箇所があったので情報を採る目的の分析を行なった。第 37 図の反射電子像(COMP)の分析点 1 である。分析点 2 と共に非晶質珪酸塩のガラスの結論に収まった。分析点 1 の定量分析結果は、33.2% SiO_2 -12.6% Al_2O_3 -1.0% CaO -1.2% MgO -1.0% K_2O -1.2% Na_2O -29%FeO 組成である。また、分析点 2 も同系で 59.7% SiO_2 -20.9% Al_2O_3 -1.7% CaO -1.3% K_2O -1.7% Na_2O -11.3%FeO 組成となった。

他にもう一視野鉄粒の分析を行なった。第 38 図の反射電子像に示す。鉄粒の中に淡黄褐色非金属介在物がある。分析点 1 は 58.2%Fe-34.9%S-3.0%V、分析点 2 は 60%Fe-34.6%S 組成で、両方共に硫化鉄で、磁硫鉄鉱(pyrrhotite： Fe_{1-x}S)に同定される。黒色ガラス地は 64.2% SiO_2 -23.3% Al_2O_3 -1.4% CaO -1.4% K_2O -1.0% Na_2O -3.6%FeO 組成からガラス(非晶質珪酸塩)の結果を得た。分析点 1 の 3.0%V の検出は砂鉄原料鑄鉄の情報となり得る。当送風管の位置付けは鉄鑄物吹出し用だった傍証にできる。

(6) 化学組成成分：第 5 表に示す。送風管は溶損対策に必要な炉材である。前述 HAD-2、3 炉壁の 18%台アルミナ(Al_2O_3)に対して該品は、21.94%と耐火度向上が望まれる成分が準備されていた。更に塩基性成分($\text{CaO}+\text{MgO}$)も 2.0%に留まるのに対して、炉壁は約 2 倍程度高めとなる。確実に送風管の機能を重んじた成分配慮が読み取れる。此の送風管炉材も国東半島の火山岩と同質の九重山地の安山岩に由来する土砂の充当である。

(7) 耐火度：第5表に示す。1300℃の耐火度の実績値が得られている。高アルミナ、低塩基性成分が効いた成分の寄与である。

5. HAD-6 椀形滓

(1) 肉眼観察：平面は不整形形状の1.7 cmと薄く偏平な85gの椀形様滓である。上下面と側面の一部が生きて、大部分は破面（4面）となる。上面は比較的平坦で、気孔少なく微かに木炭痕を刻む。下面は緩く皿状を呈し、中小の気孔を留める。破面は気孔少なく緻密な滓である。色調は地が黒褐色気味で、淡茶褐色被膜に覆われる。一見椀形鍛冶滓としても通る質感で、検討を要する。鑄造関連遺物に共伴する唯一の滓である。

(2) マクロ組織：第34図に示す。断面は0.2～1 mm径の端正な円形気孔が点在するなかに白色粒状鉱物がほぼ均等に分布する。緻密な滓である。ただし椀形滓底部相当箇所には淡灰色鉱物相のみで白色粒状鉱物の無い箇所も存在する。

(3) 顕微鏡組織：第32図の④～⑩に示す。④～⑧は試料断面の上・中段を撮影した鉱物相である。白色粒状結晶のウスタイト（wustite：FeO）と淡灰色盤状結晶のファヤライト（fayalite：2FeO・SiO₂）が晶出する。⑨は椀形滓底部の（下段）の組織でファヤライト単相となる。マクロ組織で白色粒状結晶の消えた層に対応する。ここは炉床に接し、低温側（約800℃）からの生成鉱物となる。以上の晶癖は鍛冶作業排出の鍛錬鍛冶滓といえ、それを通る組織である。しかし、ここでは粗銅の溶解精製過程で派生した滓と評価する。検証は化学組成分析の0.03%CuとEPMA査のCu-Fe-Snメタルの検出を根拠にしている。詳しくは各調査項目のところで述べる。

(4) ビッカース断面硬度：第32図の⑩に白色粒状結晶の硬度測定の前痕を示す。値は504Hvで、文献硬度値450～500Hv^(注4)の上限を僅かに越えるが、ウスタイトに同定できる。同じく淡灰色盤状結晶は、698Hvの値が得られた。ファヤライト文献硬度値は600～700Hvで、此の範疇に収まる。

(5) EPMA調査：第39図の反射電子像（COMP）に示した白色粒状結晶とその粒内に晶出した明白色メタルを分析対象とした。まず酸化物分析から述べる。分析点13は白色粒状結晶である。特性X線像はFeに白色輝点が集まる。定量分析値は98.1%FeOからウスタイト（wustite：FeO）が同定される。次に分析点14は暗褐色微小結晶で、定量分析値は47.6%FeO-51.8%Al₂O₃からヘルシナイト（hercynite：FeO・Al₂O₃）、分析点15の柱状結晶は66.2%FeO-30.8%SiO₂-1.4%MgOはファヤライト（fayalite：2FeO・SiO₂）、分析点16の黒色地は45.8%SiO₂-23.2%Al₂O₃-6.1%CaO-5.6%K₂O-3.9%Na₂O-14.0%FeO組成からガラス（非晶質珪酸塩）が同定された。ヘルシナイト以外は第32図の顕微鏡組織で同定した鉱物と同じであって矛盾はない。次に明白色メタルの分析である。僅かに灰色かかった狭小メタル部は分析点9であり、定量分析値は84.0%Cu-10%Fe-8.2%Sn組成である。粗銅で脈石成分のFeとSnを含む。粗銅の溶解精製過程で生じたスラグを証明する金属と理解する。分析点10は95.7%Fe-1.9%Cuは1.9%銅を固溶する鉄である。椀形鍛冶滓様鉱物相は鉄鍛冶滓ではなくて、鑿に関連した粗銅の溶解精製滓に分類される。

(6) 化学組成分析：第5表に示す。鉄酸化物主体の滓であり、52.45%Total Feでその大半が酸化第1鉄（FeO）の60.93%を含む。造滓成分（glass）は30.39%、砂鉄特有成分は0.37%TiO₂、0.01%Vなど鍛冶工場の鍛錬鍛冶滓に酷似する成分である。但し注目すべきは0.03%Cuの数値である。砂鉄系鍛錬鍛冶滓では<0.01%Cuに落着く。具体的な例を引くと臼杵市所在で12～13世紀に属する清太郎遺跡出土鍛冶滓は砂鉄系鉄塊系遺物と共伴して、0.005%Cuであった^(注5)。この様に化学組成的にも該品が鉄の鍛錬鍛冶滓とは一線を画する事は確かである。

6. HAD-7 不明鑄型

(1) 肉眼観察：小型鑄型の端部破片。厚み1.5 cmで内面は還元した灰黒色の真土をもつ。側面の一部と裏面が破面。用途不明。

(2) マクロ組織：第34図に示す。基質土砂中に微細石英破片が少量散在する。鑄物土と真土（山砂3：粘土1）

符号	遺物名称	顕微鏡組織	化学組成(%)								所見
			Total Fe	Fe ₂ O ₃	塩基性成分	TiO ₂	V	MnO	ガラス質成分	Cu	
HAD-1	溶解炉(中段)	g、錆化鉄粒(gt)、mt、胎土:Ce	—	—	—	—	—	—	—	—	炉壁胎土は安山岩由来の土砂
HAD-2	溶解炉(下段)	g、金属鉄:含Tio、含Tiad、Sb、gh、pe	4.11	4.06	3.93	0.92	0.01	0.13	81.89	<0.01	耐火度1100℃
HAD-3	中型溶解炉	g、凝固溶鉄粒	4.63	3.52	4.20	1.00	0.02	0.09	83.91	0.01	安山岩由来土砂、耐火度1100℃
HAD-4	送風管	g、金属鉄:po	3.79	4.71	1.99	0.88	0.01	0.05	85.71	0.01	羽口先端溶損対策に高アルミナ粘土充当、耐火度1300℃
HAD-6	椀形滓破片	W+F+hc+g、メタル(Cu-Fe-Sn)、メタル(Cu1.9%固溶)	52.45	7.02	2.28	0.37	0.01	0.08	30.39	0.03	鑿鑄型に銅鑄込みの可能性(粗銅溶解精製スラグ)
HAD-7	不明鑄型	安山岩中の含Timt、安山岩斑晶破片	—	—	—	—	—	—	—	—	鑄物砂、鑄型材は大分川下流域分布表層土使用の可能性

第6表 出土遺物の調査結果のまとめ

との境界は不明瞭であった。

(3) 顕微鏡組織：第 33 図の①～⑩に示す。④～⑥は鑄型表面に付着した 1 mm 未満の溶着物である。鑄型使用で被熱生成したガラスであって、この中に安山岩や火山岩帰属の鉱物が含まれる。鉱物組成は EPMA の項で触れる。⑦⑧は表層真土を撮影した。粘土分布は細かい方に位置する。⑨⑩は胎土鉱物である。

(4) EPMA 調査：第 40 図は顕微鏡組織の④～⑥に示した鑄型溶融物である。反射電子像 (COMP) にある分析点 4 の白色方形鉱物の定量分析値は、72.9%FeO-2.7%Al₂O₃-1.1%MgO-14.2%TiO₂-1.1%V₂O₃ 組成から安山岩中の含 Ti 磁鉄鉱が同定される。分析点 5 の淡褐色短柱状鉱物は 53.0%SiO₂-20.8%FeO-10.4%MgO-3.0%CaO 組成から、火山岩斑晶の輝石破片である。また分析点 6 の黒色地は 69.9% SiO₂-14.4%Al₂O₃-1.9%CaO-1.6%K₂O-2.2%Na₂O-1.1% TiO₂ 組成となる。鑄型として被熱生成したガラスと判定がつく。

真土狙いでもう一視野調査した。顕微鏡組織の⑦箇所である。第 41 図の反射電子像 (COMP) に示す。分析点 7 の白色不定形鉱物の定量分析値は、73.5%FeO-4.5%Al₂O₃-1.8%MgO-9.0%TiO₂-1.1%V₂O₃ 組成から安山岩中の含 Ti 磁鉄鉱が同定された。前述分析点 4 に準じた鉱物である。次に分析点 8 は淡褐色不定形鉱物である。定量分析値は 63.1%SiO₂-25.9%Al₂O₃-7.5%Na₂O 組成から火山岩斑晶の斜長石の破片に同定された。以上の分析結果は九重山地の安山岩由来の土砂であり、同質の国東半島の火山岩にも繋がる。これは大分川下流域に分布する表層土であることの裏付けとなる。

V まとめ

12 世紀末に属する羽田遺跡から出土した鑄造関連遺物 (炉壁 3 点、送風管 1 点、椀形滓 1 点、不明鑄型 1 点) の分析調査を行った。個々のまとめを第 6 表に示す。

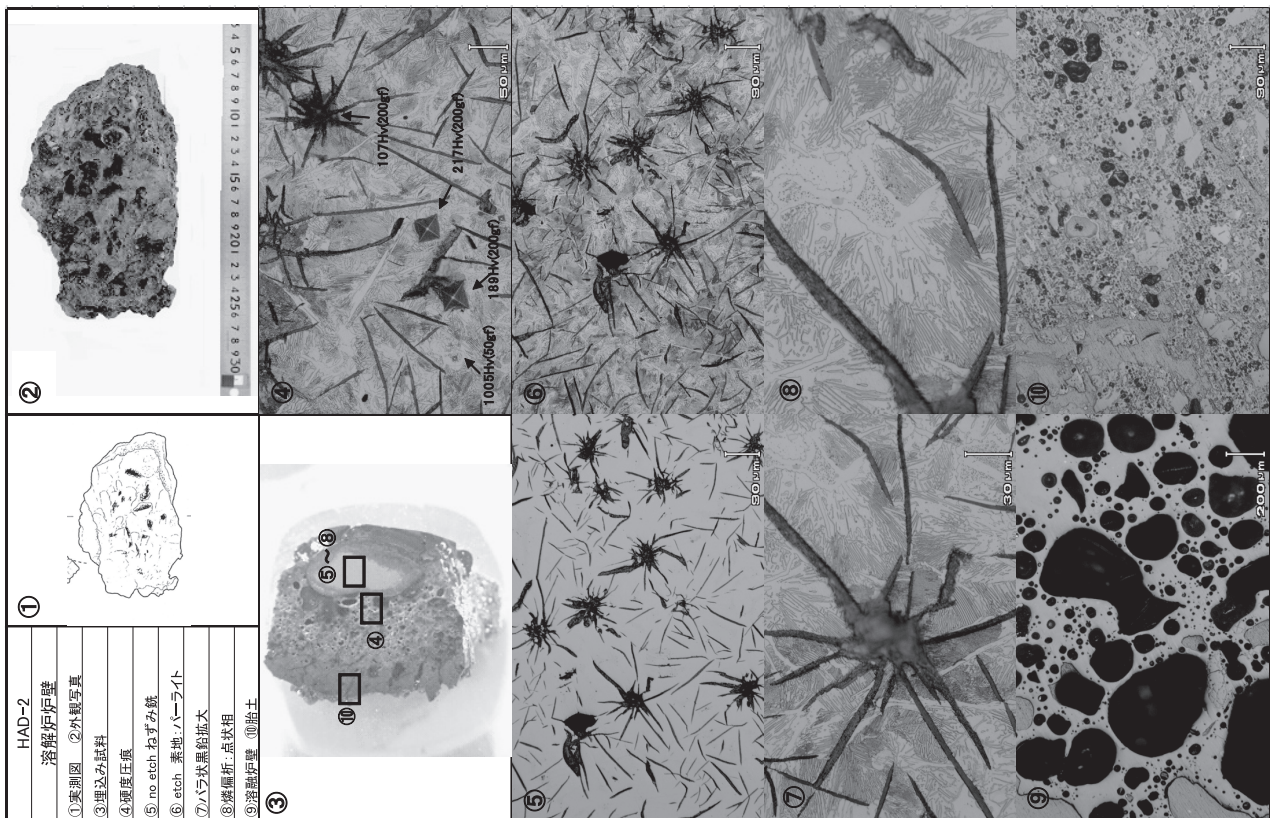
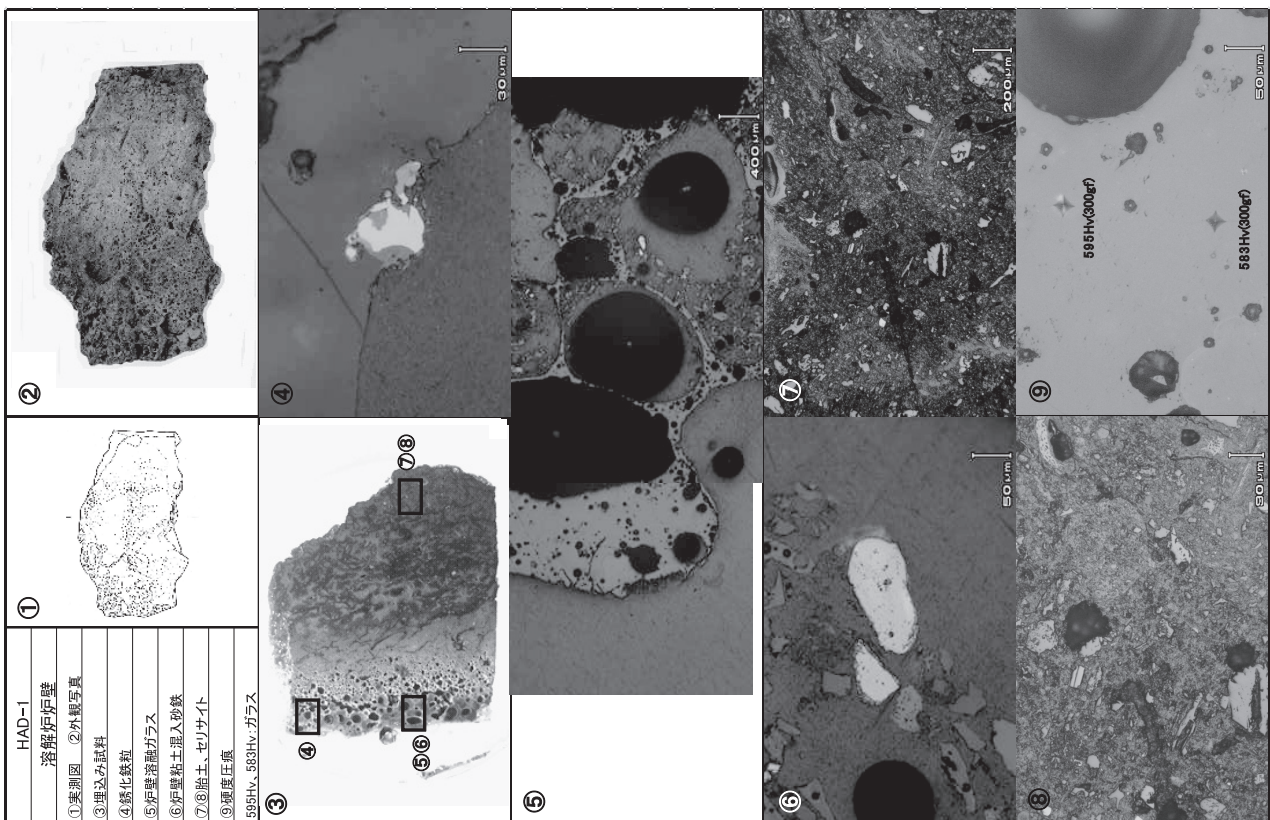
溶解炉の炉材は遺跡の立地する大分川下流域に分布する表層土が使用された可能性が高い。炉壁胎土は国東半島の火山岩分析値に酷似する。鑄型材は EPMA から九重山地の安山岩由来の土砂鉱物 (含チタン磁鉄鉱)、国東半島の火山岩斑晶の破片、斜長石破片など検出できた結果からの発言となる。溶解炉の炉壁溶融ガラスから砂鉄系小鉄粒を検出。羽釜原料鉄は国東半島由比ヶ迫製鉄遺跡からの搬入も一つの候補地に挙げられる。

次に注目しておきたいのが椀形滓である。粗銅溶解精製過程で生じたスラグの可能性を指摘しておく。これは磬が銅遺物であった傍証資料となる。

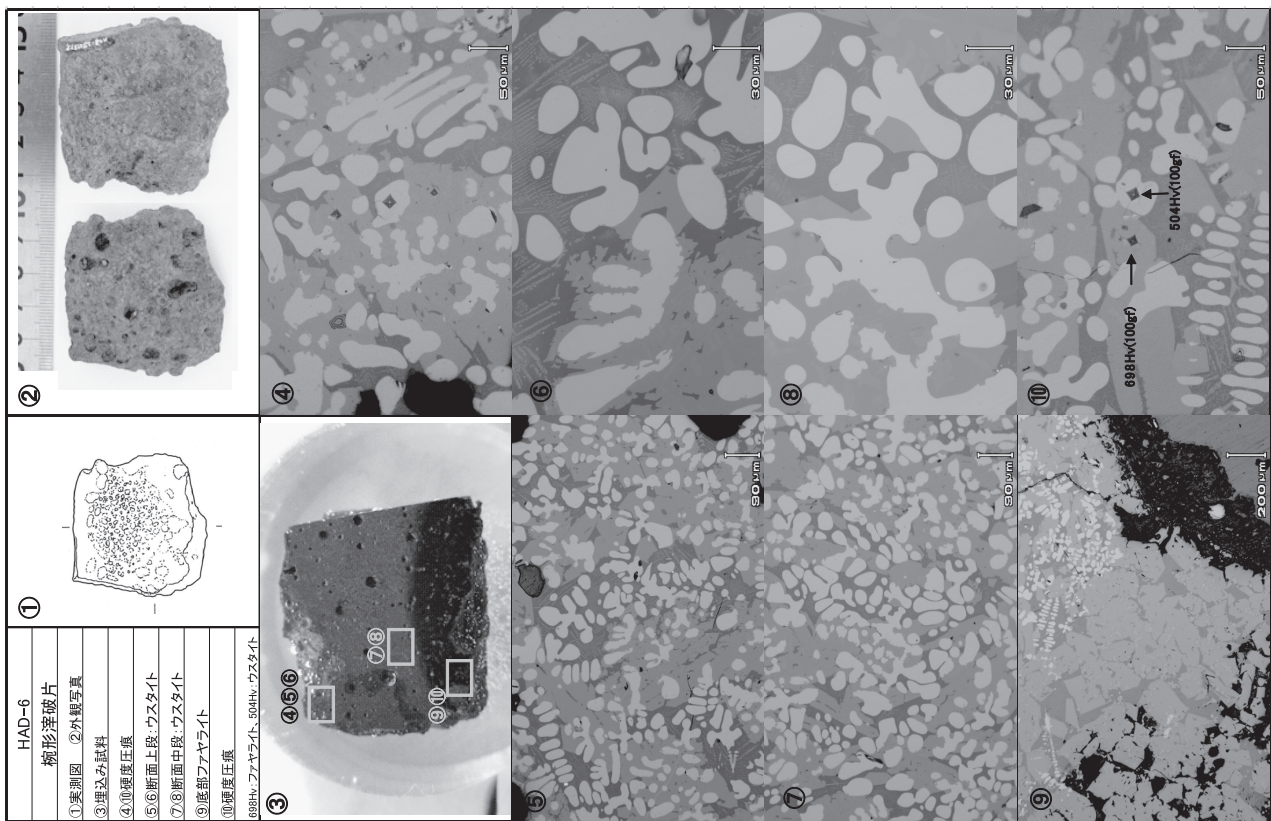
古代銅生産は酸化銅鉱石 (孔雀石、含銅褐鉄鉱) を用いた。竪形炉などで還元操業である。粗銅は不純物に鉄を含む^(注6)。この不純物の鉄を除去する精製工程が羽田遺跡の磬鑄造に際して行なわれた前処理の証ではなかろうか。過去に椀形鍛冶滓類似の銅精製を想定させる資料を幾つか手掛けてきた。後日これらを本件と併せてまとめておきたいと思うところである。

注

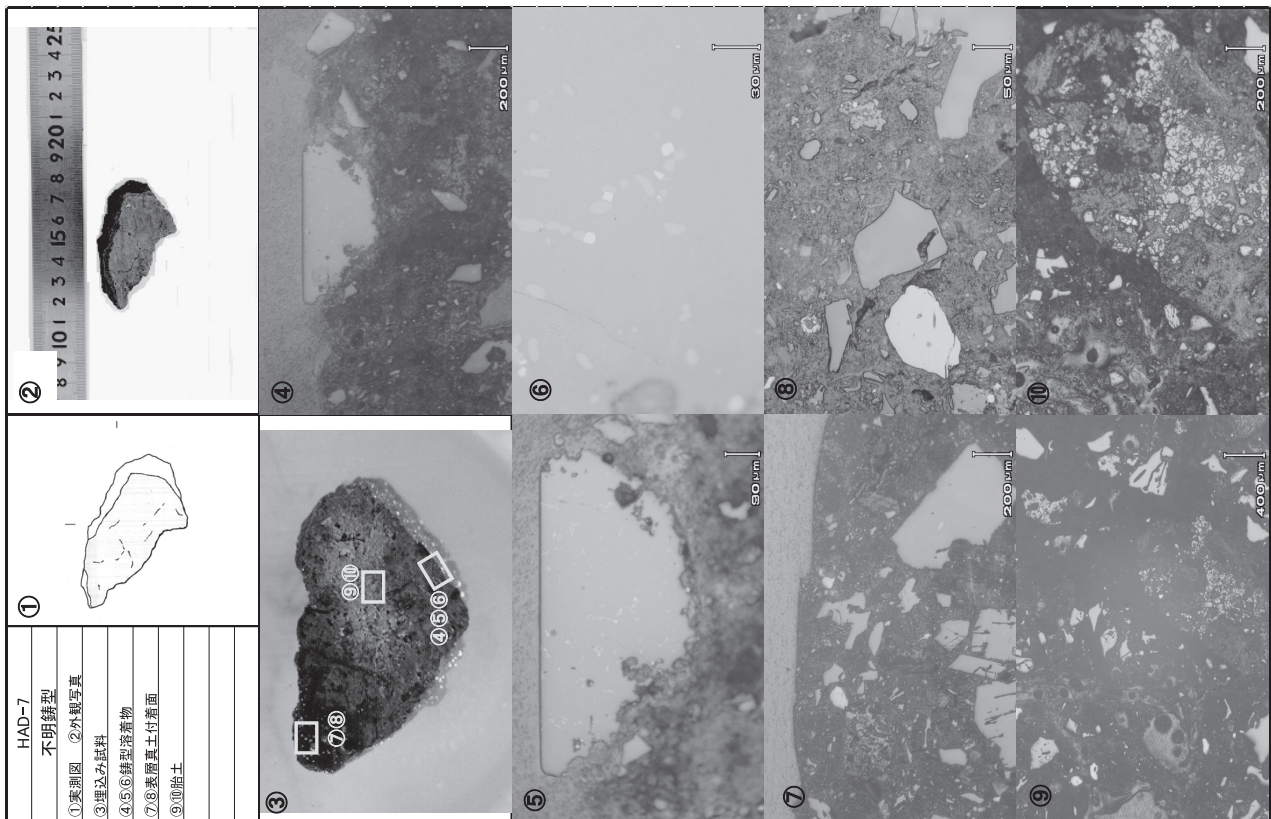
- (1) 大澤正己「由比ヶ迫遺跡出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『由比ヶ迫遺跡』国東地区遺跡発掘調査報告書 (大分県国東町文化財調査報告書第 14 集) 国東町教育委員会 1997
- (2) ガラスのビッカース断面硬度値：日本学術振興会製鉄第 54 委員会 (1968)
- (3) 柴田秀賢 (1968)『日本岩石Ⅲ火山岩』朝倉書店 (P211)
- (4) 日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968
ウスタイトは 450～500Hv、マグネタイトは 500～600Hv、ファイヤライトは 600～700Hv の範囲が提示されている。また、ウルボスピネルの硬度値範囲の明記がないが、マグネタイトにチタン (Ti) を固溶するので、600Hv 以上であればウルボスピネルと同定している。それにアルミナ (Al) が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため 700Hv を超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。
- (5) 大澤正己・鈴木瑞穂「清太郎遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『清太郎遺跡』東九州自動車道関連埋蔵文化財発掘調査報告書 (2) 大分県文化財調査報告書 第 115 輯 大分県教育委員会 2001
- (6) 大澤正己「古代銅製錬復元実験から確認できた銅・鉄共存の根拠」～長登遺跡出土 8 世紀前半含金属スラグとの比較検討～『古代銅製錬復元実験報告書』美東町教育委員会 2008



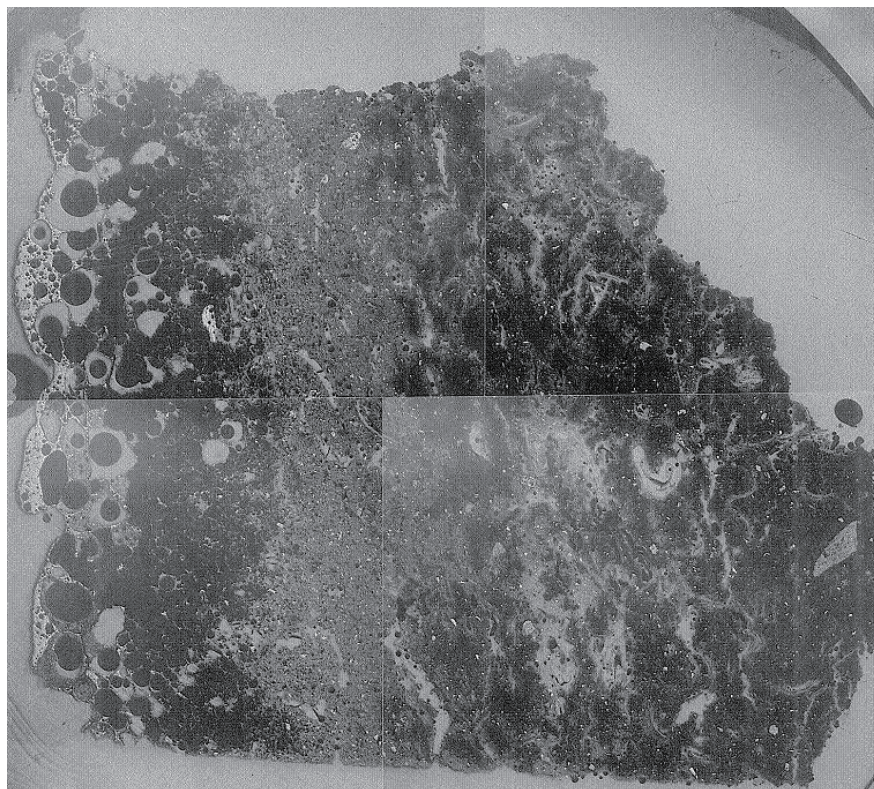




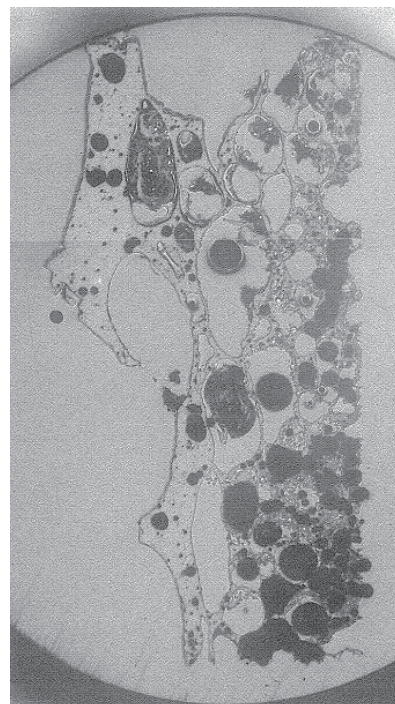
第 32 図 HAD-6 顕微鏡組織



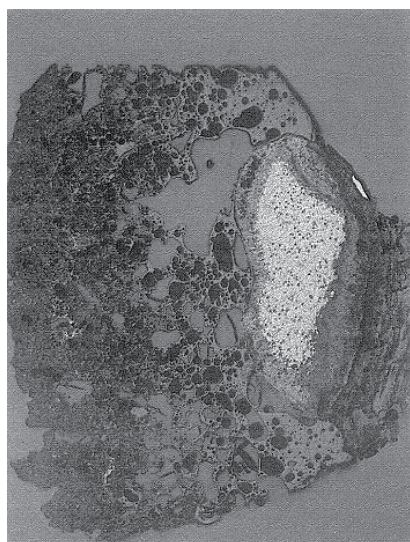
第 33 図 HAD-7 顕微鏡組織



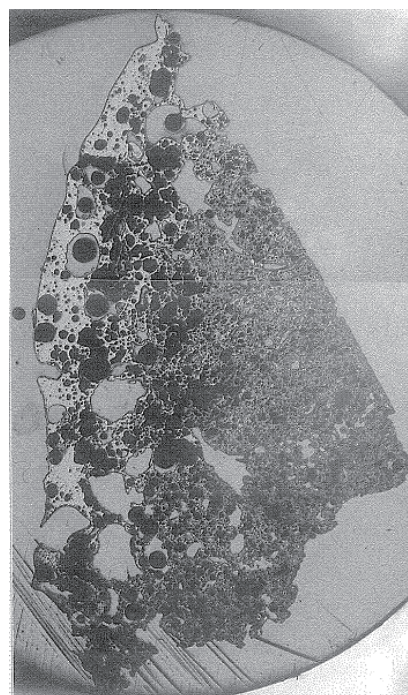
HAD-1 × 5



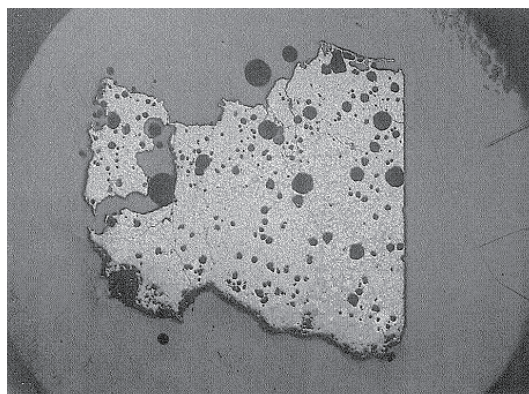
HAD-3 × 5



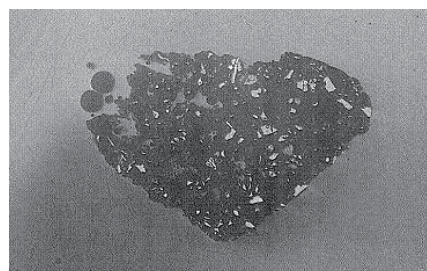
HAD-2 × 5



HAD-4 × 5



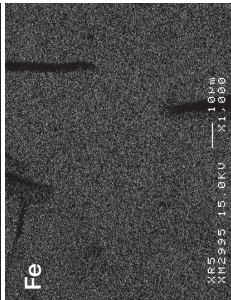
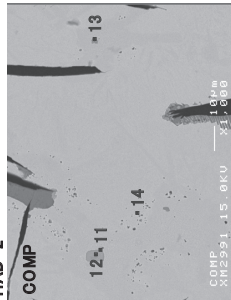
HAD-6 × 5



HAD-7 × 5

第34図 HAD-1～4・6・7マクロ組織

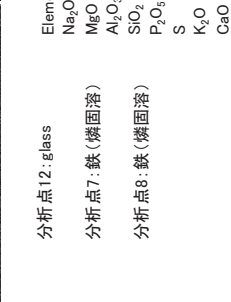
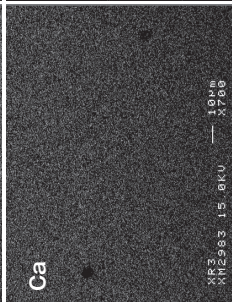
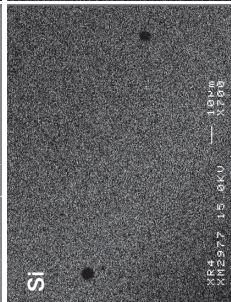
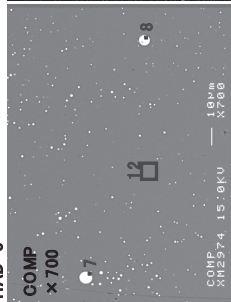
HAD-2



分析点11: 硫化鉄、
磁黄鉄鉱 (pyrrhotite: Fe_{1-x}S)
分析点12: 硫化マンガン、
(alabandite (Mn, Fe)S)
分析点13: 多数相の混在部の
分析で解釈が難しい。
ただし砂鉄起源の
鉄粒はいえる。
分析点14: 燐化鉄 (Fe₃P: schreibersite)

第35図 HAD-2 EPMA 調査

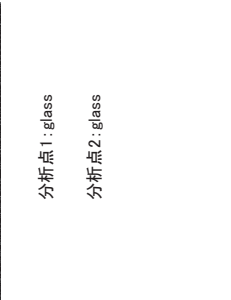
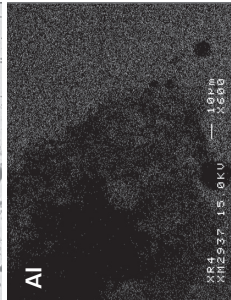
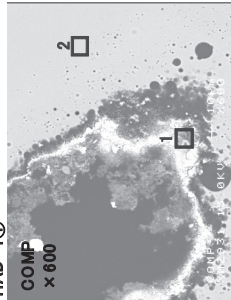
HAD-3



分析点12: glass
分析点7: 鉄 (燐固溶)
分析点8: 鉄 (燐固溶)

第36図 HAD-3 EPMA 調査

HAD-4①

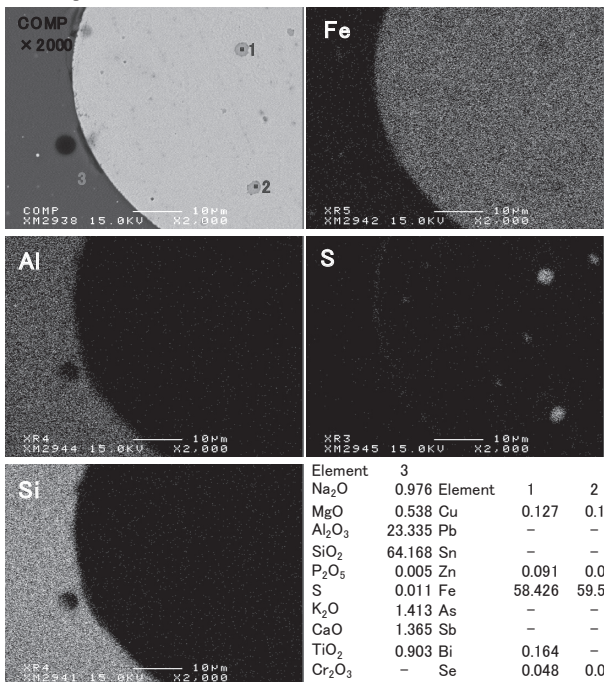


分析点1: glass
分析点2: glass

第37図 HAD-4① EPMA 調査

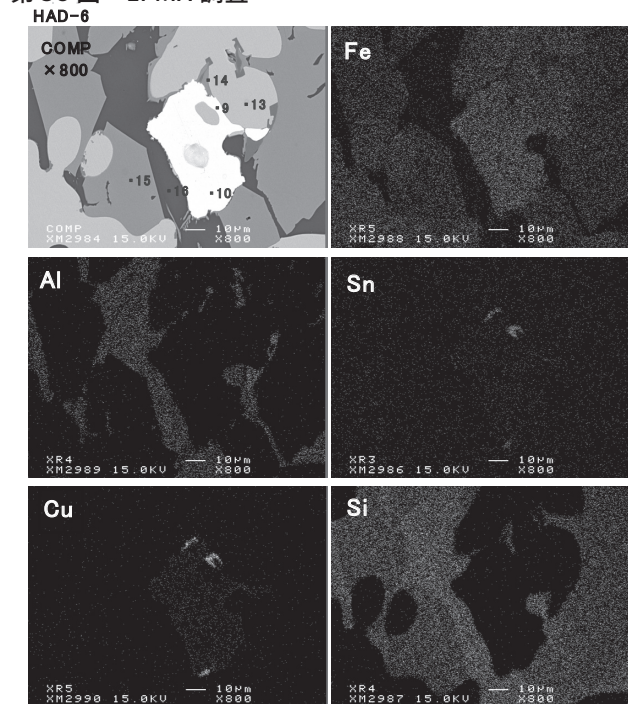
Element	1	2
Na ₂ O	1.153	1.729
MgO	1.167	0.562
Al ₂ O ₃	12.589	20.889
SiO ₂	33.218	59.715
P ₂ O ₅	0.043	-
S	0.014	0.001
K ₂ O	1.037	1.344
CaO	0.995	1.661
TiO ₂	0.573	0.849
Cr ₂ O ₃	0.078	-
MnO	0.108	0.041
FeO	29.072	11.280
As ₂ O ₃	-	0.196
V ₂ O ₃	0.015	0.053
PbO	0.039	0.026
CuO	0.046	0.022
SnO ₂	-	-
MoO ₃	0.043	0.009
Total	80.190	98.377

HAD-4②



分析点3: glass
分析点1: 硫化鉄、
磁硫鉄鉱 (pyrrhotite: Fe_{1-x}S)
分析点2: 硫化鉄、
磁硫鉄鉱 (pyrrhotite: Fe_{1-x}S)

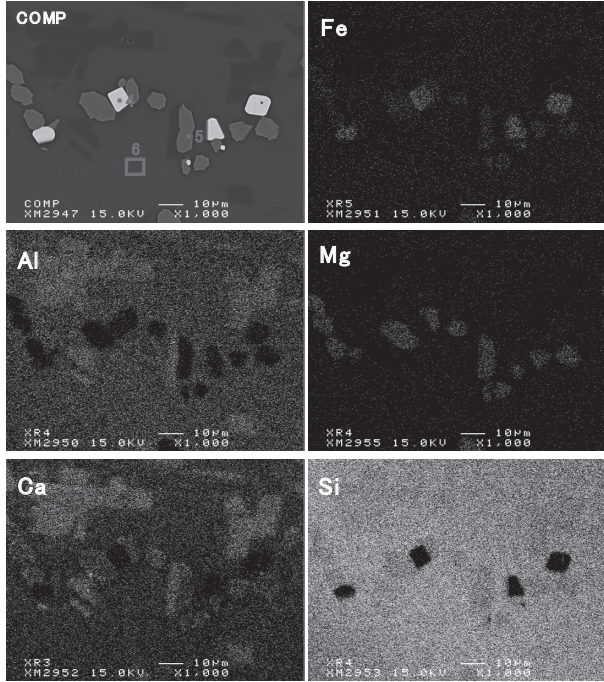
第38図 EPMA 調査



Element	13	14	15	16	Element	9	10
Na ₂ O	—	—	0.068	3.904	Cu	84.042	1.922
MgO	0.046	0.257	1.422	—	Pb	0.071	0.008
Al ₂ O ₃	0.601	51.773	0.314	23.182	Sn	8.178	0.043
SiO ₂	0.247	0.395	30.800	45.787	Zn	0.076	—
P ₂ O ₅	0.012	0.003	0.076	0.624	Fe	10.485	95.645
S	—	—	0.012	0.031	As	—	0.045
K ₂ O	—	—	0.021	5.598	Sb	—	—
CaO	—	—	0.357	6.135	Bi	—	—
TiO ₂	0.541	0.785	0.055	0.054	Se	0.059	0.071
Cr ₂ O ₃	0.035	0.064	0.026	0.026	Ag	—	—
MnO	—	0.047	0.158	0.029	S	—	—
FeO	98.102	47.592	66.229	14.031	O	—	0.129
As ₂ O ₅	0.084	0.171	—	—	Ce	0.016	0.012
V ₂ O ₅	0.033	0.016	0.004	0.010	V	—	0.019
PbO	0.030	0.038	—	—	P	0.026	—
CuO	—	0.073	0.010	0.075	Mn	0.122	0.025
SnO ₂	0.015	—	—	—	Ti	0.009	0.066
MoO ₃	0.086	—	0.058	0.086	—	0.031	0.023
Total	99.832	101.214	99.610	99.572	Total	103.115	98.008

第39図 EPMA 調査

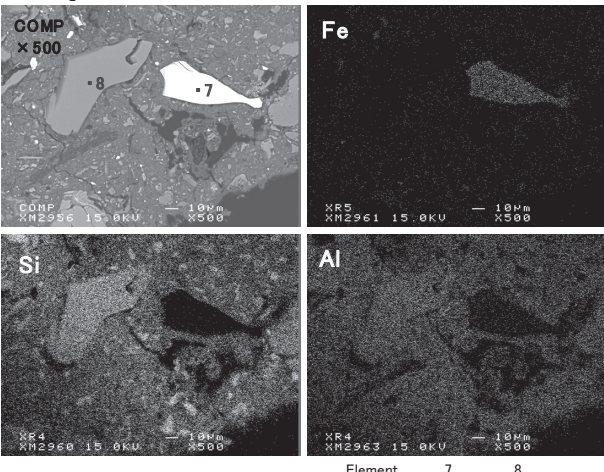
HAD-7①



分析点4: 安山岩中の磁鉄鉱 (含チタン)
分析点5: 火山岩斑晶の輝石の破片
分析点6: 鋳型として被熱生成したglass

第40図 EPMA 調査

HAD-7②



分析点13: ウスタイト (wustite: FeO)
分析点14: ヘルシナイト (hercynite: $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$)
分析点15: ファヤライト (fayalite: $(2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2)$)
分析点16: glass
分析点9: メタル (Cu-Fe-Sn)
分析点10: メタル (Cu1.9\%を固溶する鉄)

第41図 EPMA 調査

Element	4	5	6
Na ₂ O	—	0.071	2.215
MgO	1.081	10.420	0.561
Al ₂ O ₃	2.728	0.824	14.415
SiO ₂	0.197	53.006	69.944
P ₂ O ₅	—	0.019	0.330
S	0.016	0.009	0.007
K ₂ O	0.052	0.027	1.641
CaO	0.027	3.005	1.883
TiO ₂	14.190	0.378	1.063
Cr ₂ O ₃	—	—	—
MnO	0.498	0.671	0.193
FeO	72.928	20.787	6.428
As ₂ O ₅	—	0.410	0.085
V ₂ O ₅	1.110	0.010	—
PbO	0.021	0.005	0.026
CuO	—	0.021	—
SnO ₂	—	0.030	—
MoO ₃	0.039	—	0.080
Total	92.887	89.693	98.871

Element	7	8
Na ₂ O	—	7.528
MgO	1.839	—
Al ₂ O ₃	4.544	25.881
SiO ₂	0.110	63.105
P ₂ O ₅	0.003	0.009
S	—	0.004
K ₂ O	0.013	0.555
CaO	—	5.052
TiO ₂	8.950	0.020
Cr ₂ O ₃	0.184	0.016
MnO	0.275	—
FeO	73.502	0.599
As ₂ O ₅	0.446	—
V ₂ O ₅	1.086	0.008
PbO	—	—
CuO	0.077	—
SnO ₂	—	—
MoO ₃	0.063	0.009
Total	91.092	102.786

羽田遺跡出土鑄造関連遺物の X 線回折結果報告

井澤 英二

1. はじめに

羽田遺跡出土の溶解炉胎土（ガラス化部と合わせて 2 試料）、送風管胎土（1 試料）と椀形滓破片 1 試料について、X 線回折を行った。以下に試料の構成相とその鉱物学的特徴について述べる。

2. 分析条件と鉱物相の判定

粉末 X 線回折には、九州大学地球資源工学部門の理学 Ultima IV X 線回折装置を使用した。X 線は Cu K α_1 (40 kV、20 mA) を用い、全自動モノクロメータ、発散スリット 2/3°、散乱スリット 2/3°、受光スリット 0.3 mm、データ取得幅 0.02° (2 θ)、走査速度 2°/min の条件で 2-65° (2 θ) を走査範囲とした。(注：X 線回折線図に認められる 3 本のピーク [2 θ = 38.3°、44.5°、64.8°] は、アルミニウム製試料保持枠に由来する混入回折線である。)

3. X 線回折結果

HAD-1 溶解炉胎土：斜長石、単斜輝石、角閃石、磁鉄鉱、石英、クリストバライトおよび少量の雲母鉱物、カオリナイトが検出された。2 θ = 20-30° の回折バンドはガラスの存在を示す（第 42 図）。

HAD-1 溶解炉胎土（ガラス化）：斜長石、単斜輝石、角閃石、磁鉄鉱、石英、クリストバライト、少量の雲母鉱物のほか、ムライト、鉄スピネル、ファヤライトと著量のガラスが認められた（第 43 図）。

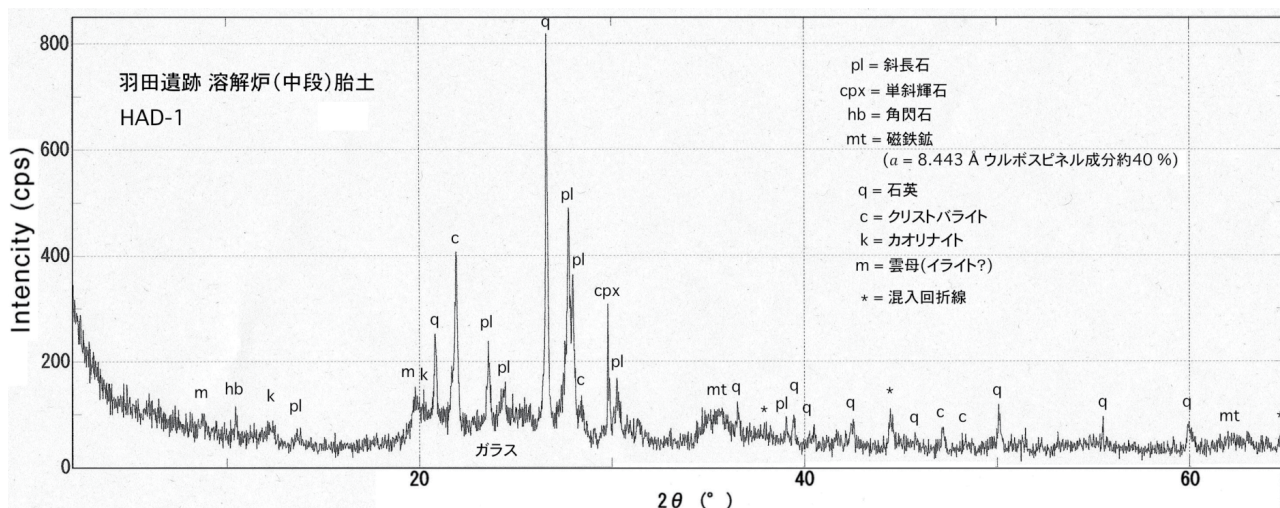
HAD-4 送風管胎土：斜長石、磁鉄鉱、石英、クリストバライト、および少量の雲母鉱物、著量のガラスが認められた（第 44 図）。

HAD-6 椀形滓破片：ウスタイト、ファヤライト、鉄スピネルからなる。ほかに、クリストバライトと思われる微小な回折線が認められた。（第 45 図）

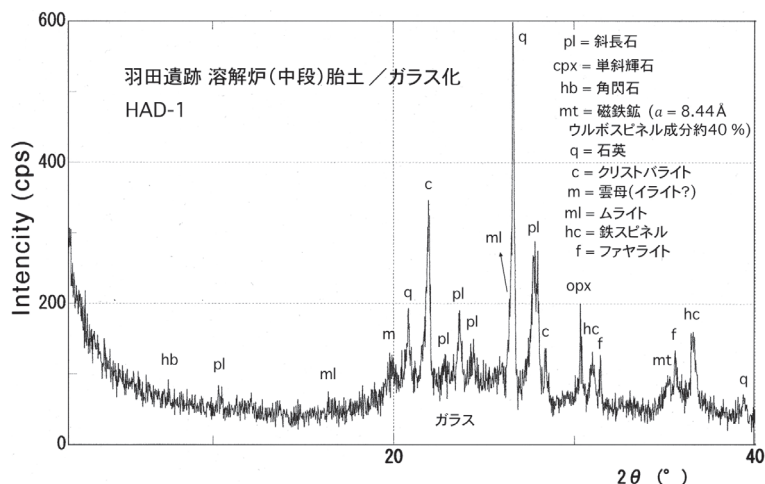
4. 考察とまとめ

溶解炉、送風管、鑄型など土製品の胎土は、各種の分析によって特徴が明らかになった。X 線回折の結果、溶解炉 HAD-1、送風管 HAD-4 の胎土から、斜長石、単斜輝石、磁鉄鉱、クリストバライトが検出された。鑄型 HAD-7 でも、単斜輝石斑晶の破片、斜長石斑晶の破片が EPMA 分析で見出されている。このほか HAD-1 からは X 線回折で角閃石が認められた。このような構成鉱物は、胎土が火山岩類由来の堆積砂泥であることを示している。

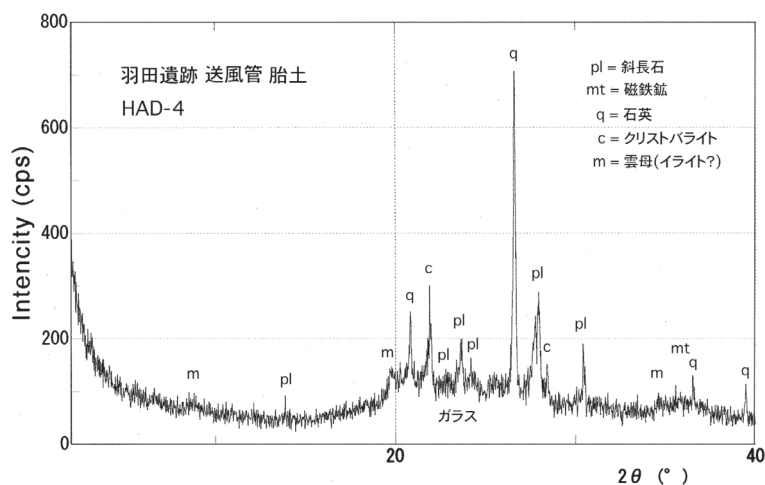
大分川流域に広く分布する火山岩類には、阿蘇 4 火砕流堆積物、九重山地の安山岩やデイサイトがある。胎土に含まれる磁鉄鉱は、ウルボスピネル成分を 40 モル%程度固溶した高チタンの磁鉄鉱であり、鑄型 HAD-7 の胎土に含まれる磁鉄鉱の EPMA 分析値 7（第 41 図）も高チタンである。阿蘇 4 火砕流堆積物の磁鉄鉱は低チタンである。



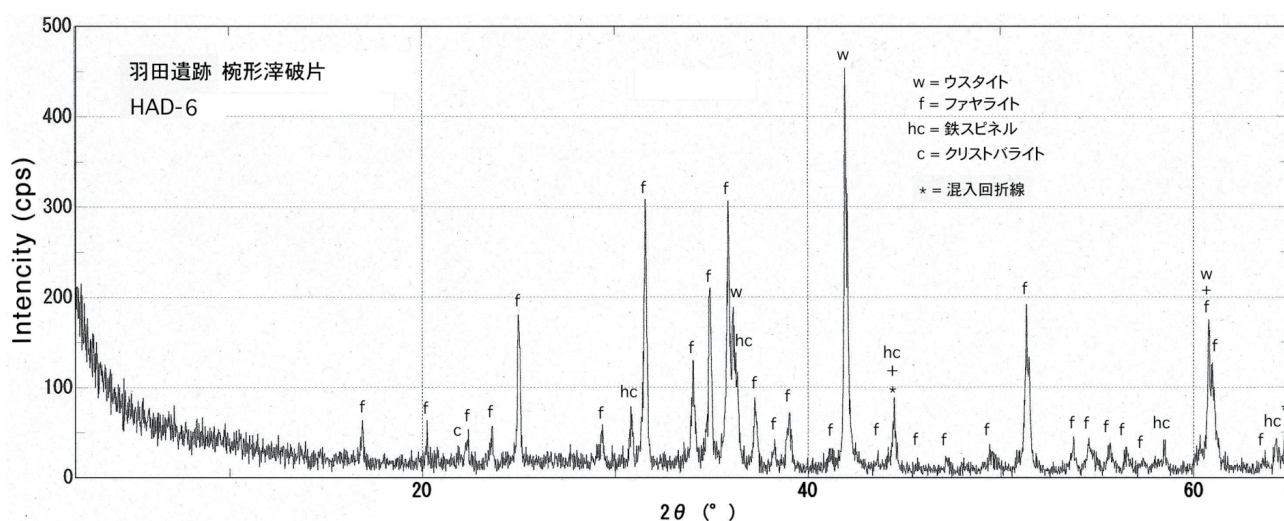
第 42 図 HAD-1 溶解炉胎土の X 線回折線図



第 43 図 HAD-1 溶解炉胎土（ガラス化部）の X 線回折線図



第 44 図 HAD-4 送風管胎土の X 線回折線図



第 45 図 HAD-6 椀形滓の X 線回折線図

一方、高チタンの磁鉄鉱は九重地域の角閃石安山岩の特徴である（例えば、Akimoto and Katsura, 1959）。また、溶解炉胎土 HAD-2 と HAD-3、送風管胎土 HAD-4 の化学分析値は、安山岩の組成を示している。

X 線回折で検出された雲母鉱物は、黒雲母あるいはセリサイトの可能性がある。カオリナイトは、風化生成物であろう。また、石英はデイサイトに由来するものでであろう。ガラスは、土製品が被熱した際に生成したと考えられる。

HAD-6 椀形滓を構成する鉄スピネルは、格子定数 ($a = 8.19 \text{ \AA}$) から磁鉄鉱成分を 15 % ほど含んでいると考えられる。鉄スピネルのそのような組成は、HAD-6 の EPMA 分析値 14（第 39 図）にも示されている。

引用文献

Akimoto, S. and Katsura, T. (1959) Magneto-chemical study of the generalized titanomagnetite in volcanic rocks. Jour. Geomag. Geoelectr. Vol. 11, p. 69-90.

7 米竹遺跡第8次調査

調査面積 15 m²

地域 A

調査期間 12.02.20 ~ 12.02.29

調査担当 小野綾夏

1. 調査の経緯・立地と環境

米竹遺跡は、大分市東部にある大分川と大野川の下流に挟まれた標高 40 m 前後の鶴崎台地上に立地し、弥生時代の竪穴建物や貯蔵穴などの集落に関連する遺構が多数確認されている遺跡である。第8次調査は、大字小池原字米竹に所在し、共同住宅建築による浄化槽設置に伴って実施した本調査である。弥生時代中期の竪穴建物や貯蔵穴が確認された第3次調査の南側隣接地であり、第3次調査と同様に集落が展開が予想される地点である。

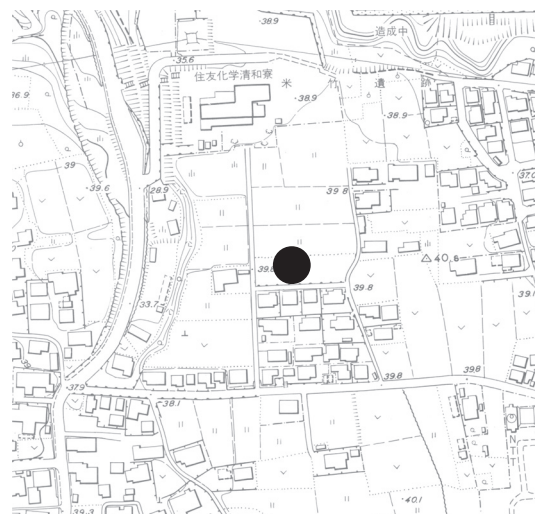
2. 調査の成果

調査は浄化槽設置予定地に 3 × 6 m のトレンチを設定して行った。現地表面下約 0.6 m までは耕作土である黒褐土で、その下に黄褐色粘土の安定地盤層が存在する。調査では黄褐色粘土の上面で遺構検出を行った。

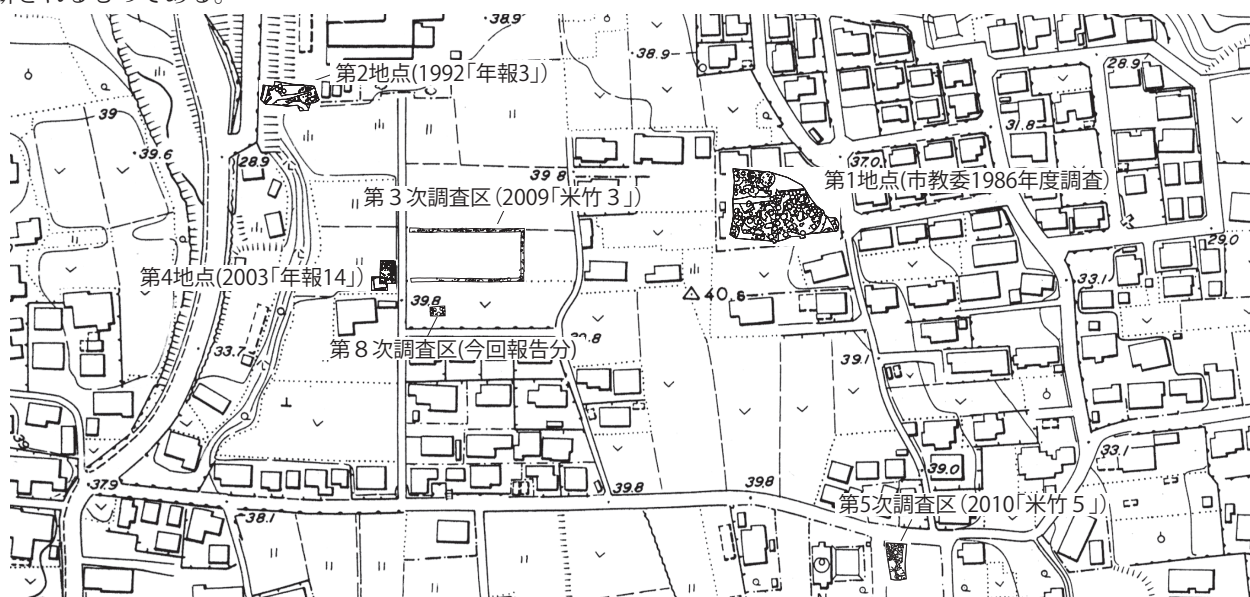
調査の結果、弥生時代の貯蔵穴と考えられる土坑を確認し、甕、壺などの弥生土器が多数出土した。

SK002 は、不整円形を呈する土坑で、直径約 1.3 m の深さ約 0.28 m を測る。出土遺物から弥生時代中期中頃に比定される。SK004 は、不整長方形を呈する土坑で、東側は調査区外にのびる。SK005 を切っており、長辺約 1.45 m、深さ約 0.5 m を測る。出土遺物から弥生時代中期中頃～中期後半に比定される。SK005 は、不整円形を呈する土坑で、東側は調査区外にのびる。西側に狭いテラス状の段を有する。SK004 に切られており、直径 1.1 m 以上、深さ約 0.55 m を測る。出土遺物及び切り合い関係から弥生時代中期中頃に比定される。

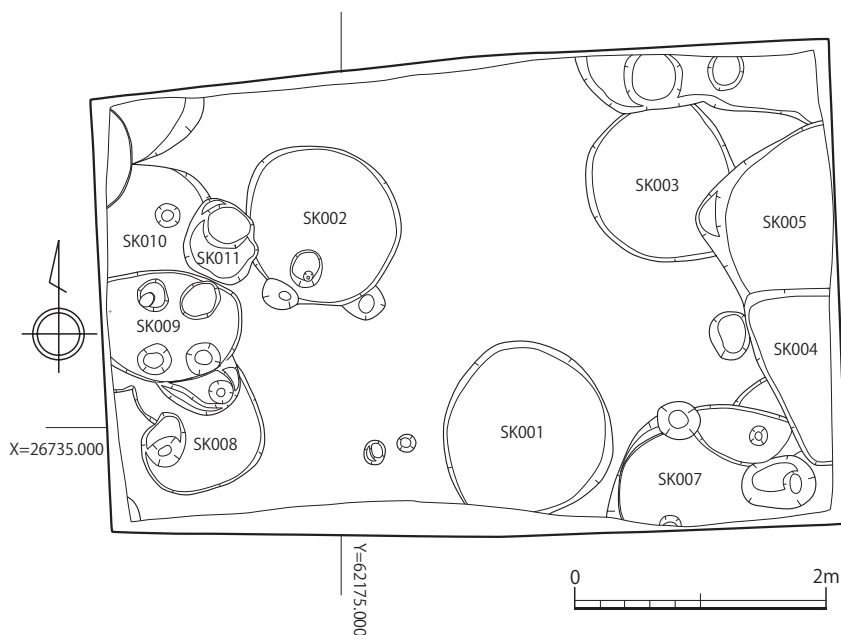
これら土坑はともに断面形状が筒形を呈し、埋土はブロックの多寡はあるものの地山ブロックを含む黒褐色粘質土である。埋土及び断面形状からこれら土坑は、貯蔵穴と考えられる。米竹遺跡における貯蔵穴はこれまでの調査で多数確認されているが、その大半が円形もしくは楕円形を呈するものであり、SK004 のように長方形を呈するものは珍しい。調査区外にのびているため、調査区外で極端な不整楕円形になる可能性がないわけではないが、調査区内で判断する限り不整長方形を呈している。ただ埋土の状況及び断面形状はほかの貯蔵穴と考えられる土坑群と相異なく、また下郡遺跡群では、円形・楕円形のほか方形・長方形の貯蔵穴も確認されているため、SK004 も貯蔵穴と判断されるものである。



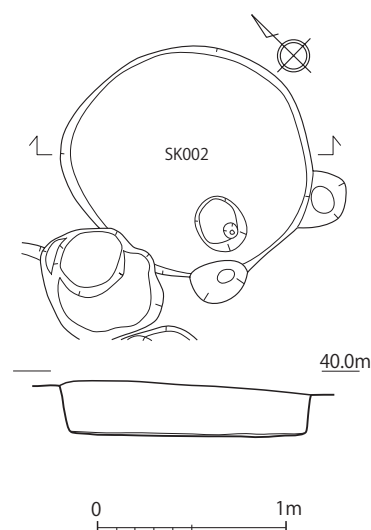
第46図 調査位置図 (1/5000)



第47図 周辺調査区位置図 (1/3000)

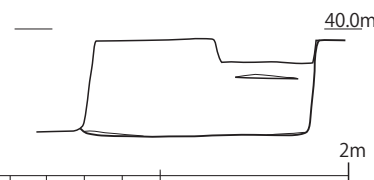
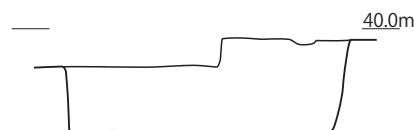
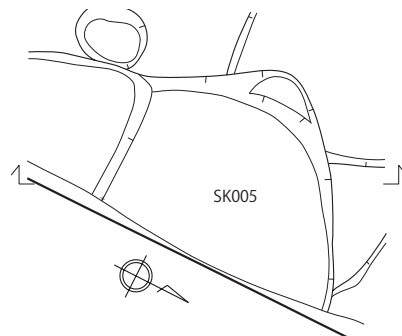
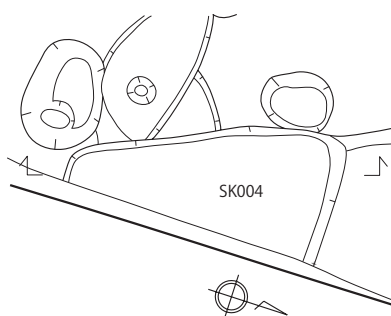


第48図 遺構全体図 (1/60)



第49図 SK002 遺構図 (1/40)

出土遺物：1～6はSK002から出土した弥生土器である。1・4～6は甕で、2・3は壺である。1～3は下城式、6は東北部九州系である。弥生時代中期中頃に帰属する。7はSK003から出土した弥生土器の東北部九州系甕の口縁部である。8はSK004から出土した弥生土器高坏の口縁部である。口縁端部が上方に肥厚しており、中期中頃～中期後半に帰属する。9～17はSK005から出土した弥生土器である。9～11は甕口縁部で、11・12は下城式、9・10・13～15は東北部九州系である。16は高坏の坏体部で、17は壺の底部

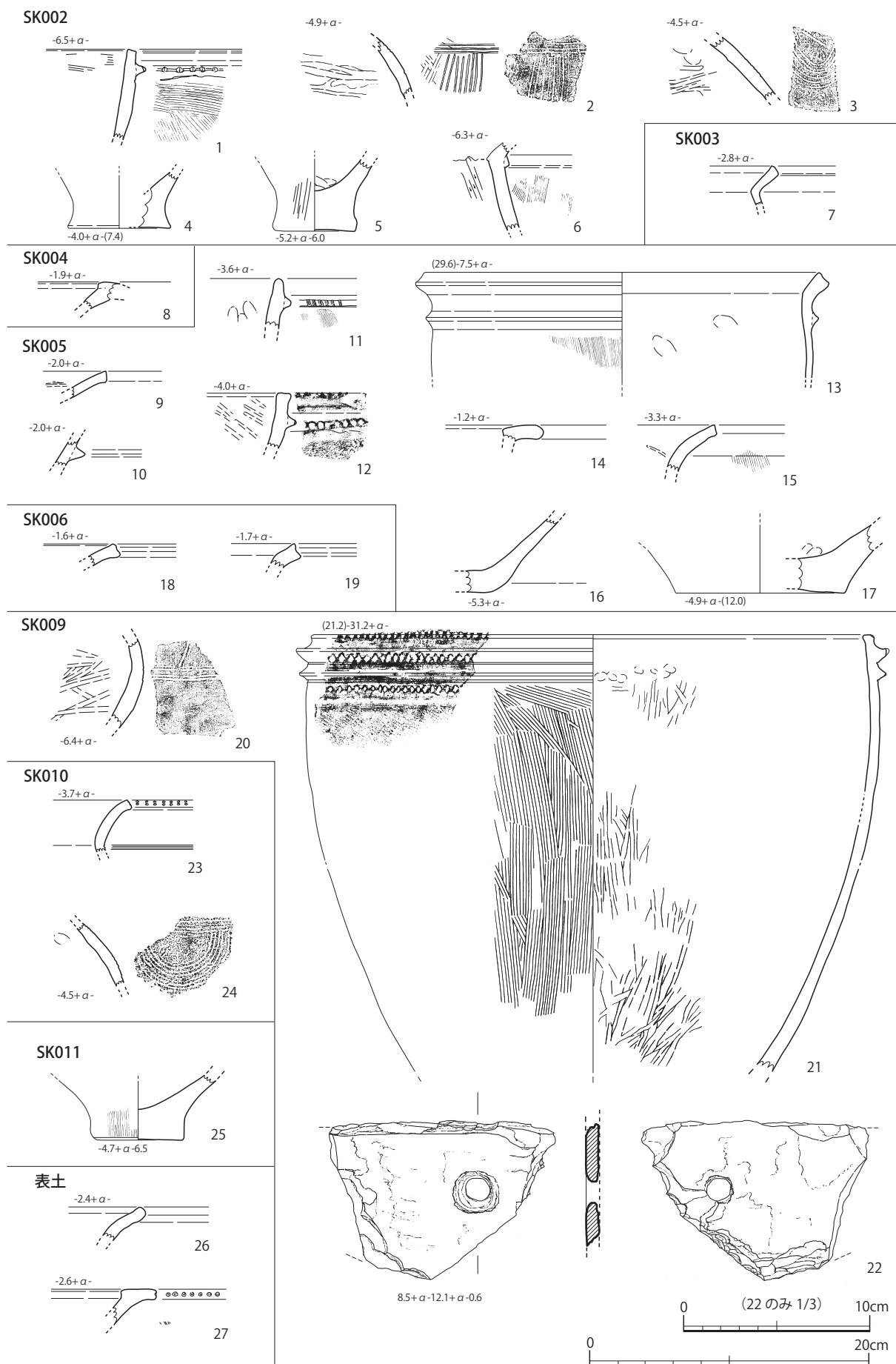


第50図 SK004・005 遺構図 (1/40)

である。弥生時代中期中頃に帰属する。18・19はSK006から出土した弥生土器の東北部九州系甕の口縁部である。20～22はSK009から出土した弥生土器と石製品である。20は下城式の壺胴部で、21は下城式の甕の口縁部～胴部である。22は結晶片岩製の石包丁破片である。23・24はSK010から出土した弥生土器の壺である。23は口縁部で、口縁端部に2列の刺突文、頸部に2条の沈線を施す。弥生時代前期末に帰属する。24は胴部で、外面に重弧文を施す。弥生時代中期前半に帰属する。25はSK011から出土した弥生土器甕の底部である。26・27は表土から出土した弥生土器である。26は甕口縁部で、27は高坏口縁部である。27の口縁端部には1列の刺突文を施す。

3. まとめ

今回の調査では、竪穴建物跡が確認された第3次調査の南隣接地であったため、竪穴建物跡の検出も期待されたが、調査区全面に貯蔵穴と考えられる土坑が展開しており、竪穴建物跡は確認できなかった。米竹遺跡では、これまで確認調査を含めて13地点で調査が行われているが、確認された遺構は貯蔵穴が多数にのぼり、それに比して建物の数は少ない。検出面直上が耕作土であるため削平されている可能性や、狭小な調査区が多いため掘立柱建物などの広範囲の建物が認識できていない可能性は考えられ、居住域の特定と集落全体の把握が今後の課題となろう。(松浦)



第 51 図 出土遺物実測図 (1/3・1/4)

8 葛木遺跡第7次調査

調査面積 40.4 m²
地域 A

調査期間 12.02.29 ~ 12.03.01
調査担当 長直信・松浦憲治

1. 調査の経緯・立地と環境

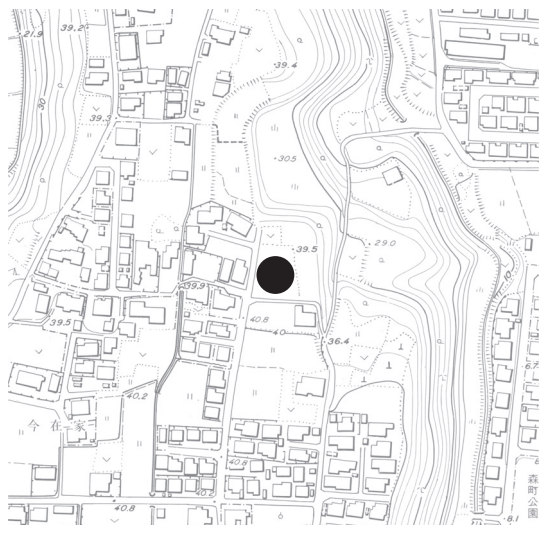
葛木遺跡は、鶴崎台地の中でも、台地の中央を南北にはしる開析谷の東側北寄りに立地しており、古代の掘立柱建物跡などが確認されている遺跡である。葛木遺跡第7次調査は、サービス付高齢者向け住宅建設に伴って実施した確認調査である。大分県立鶴崎工業高校の北約200mに位置しており、北側と東側が斜面で落ちる台地の縁辺部にあたる。調査は建物のエレベーター設置部分及び浄化槽設置部分に調査区を設定して行った。昨年度に土地売買に先立って行われた確認調査では、掘立柱建物跡が良好に検出され弥生時代の遺物が出土した。そのため建物部分については遺跡に影響がない設計であるが、エレベーター及び浄化槽に関しては掘削深度が深いため今回の調査となった。また浄化槽設置部分に関しては設置位置を確認調査結果によって変更可能であったため、遺構の希薄な部分に設置するために調査区を広げている。

2. 調査の概要

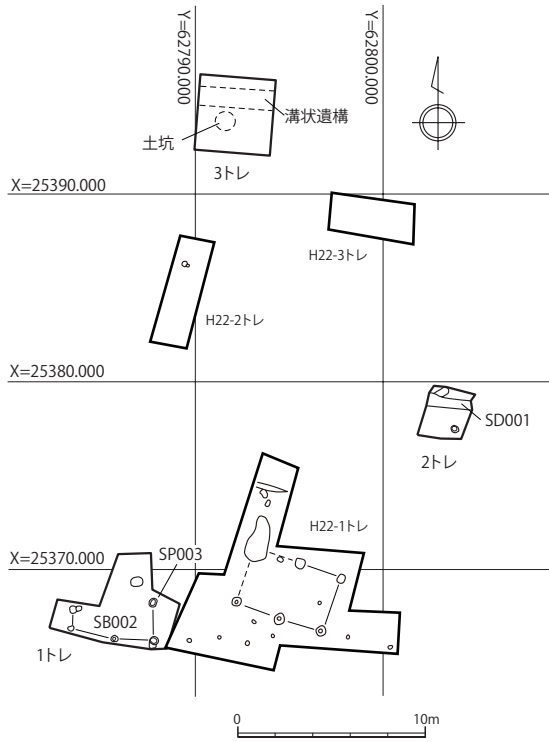
調査は、エレベーター設置部分の1トレ、浄化槽設置部分の2トレで行い、2トレで掘立柱建物跡が確認できたため、より遺構の希薄な箇所を確認するために北側に3トレを設けた。約0.3mの表土直下で明赤褐色粘土の安定地盤層が存在し、この明赤褐色粘土の上面で遺構を検出した。1トレでは、2基のピット・土坑と東西方向の溝状遺構SD001を検出した。現地での協議においてこれらの遺構がない部分にエレベーター設置が可能であるとの回答を得たことから、これら遺構に関しては一部の掘り下げに留まっている。溝状遺構SD001からは8世紀代の須恵器が出土した。2トレでは、掘立柱建物SB002を検出した。柱穴と柱穴の間に浄化槽が設置できることから、浄化槽設置によって削平されるおそれのある柱穴SP003のみを掘削した。遺物は土師器の細片が出土したのみである。3トレでは、1基の土坑と1条の東西方向の溝状遺構を検出した。遺構が広がっていたことから、浄化槽設置は不可能と判断して、遺構の掘削は行わず、遺物の取り上げのみ行ってすぐに埋め戻している。遺物は土坑から出土しており、古式土師器高坏の坏部である。

3. まとめ

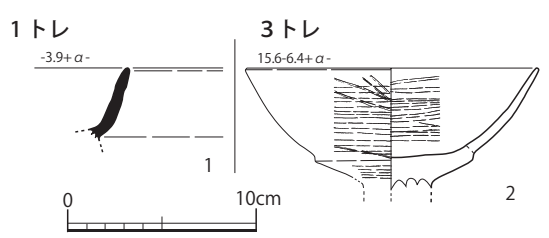
今回の調査では全体的に遺構が広がることが確認された。昨年度の確認調査では北半での遺構はほとんど確認されていなかったが、密度が低いながらも遺構が広がっていることが判明した。台地の先端部であるため、遺跡の縁辺部にあたるが、昨年度の確認調査と合わせて弥生時代から古代までの遺物が出土していることから、各時代の遺構が広がっていると考えられる。(松浦)



第52図 調査位置図 (1/5000)



第53図 遺構全体図 (1/400)



第54図 出土遺物実測図 (1/4)

9 猪野遺跡第5次調査

調査面積 83.5 m²

地域 A

調査期間 11.05.09 ~ 11.05.10

調査担当 長直信

1. 調査の経緯・立地と環境

猪野遺跡は、大分川と大野川の下流に挟まれた鶴崎台地上に立地し、弥生時代～中世までの遺構が展開する遺跡である。猪野遺跡第5次調査は、大字猪野字東角に所在し、宅地造成に伴って実施した本調査である。調査に先立ち2010年に行われた確認調査において遺構が良好に確認されたことから、造成工事の大部分については設計の変更を行い、遺跡の保存が図られているが、切り通しとなる道路部分と、要壁部分の2地点については工事掘削深度が深く、遺跡が破壊されることから、記録保存のための本調査を実施することとなった。また宅地化後には個人住宅の建設に伴い建物基礎の立会調査を実施している。道路部分を1区、要壁部分を2区、立会調査部分を3区としている。

2. 調査の概要

調査の結果、現地表下0.2～0.3mで遺構面を検出した。遺構は、地表面より0.2mと浅い地点で検出されるが、基盤となる層が黒色化（灰褐土）しているため、この面での遺構プランの確認は極めて困難であったことから、橙色土（地表面より0.5m）まで掘り下げた後に、遺構の検出を行った。

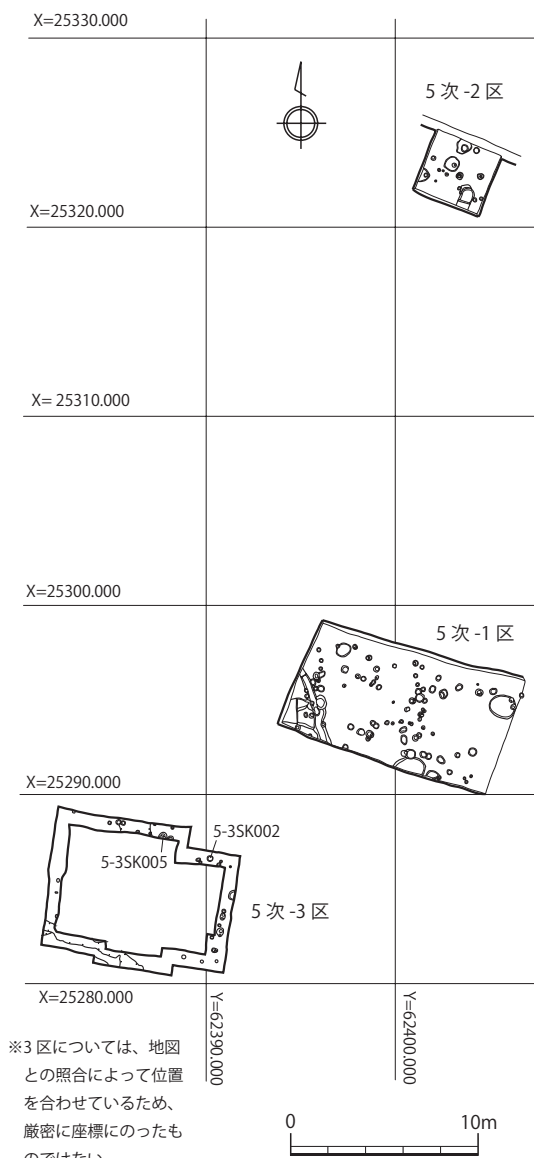
1区では、調査区全面で多くのピットを検出し、調査区西端で南北方向の溝（5-1SD010）などを検出した。ピットは深さ0.3～0.5mものがほとんどで、柱痕が確認できるものもあることから、掘立柱建物を構成するものと考えられるが、調査区内では、明確な建物プランは確認できなかった。5-1SX008・SX016は、直径0.3～0.4mの隅丸方形をなし、深さ0.9m前後の深さをもつ。通有の掘立柱建物跡に比べて非常に入念な造作を行った柱穴である。両者は調査区内では建物としては展開しないことから、性格は不明であるが、出土遺物からみて、7～8世紀の遺構と考えられる。その他、5-1SX003からは、柱痕の下層から、刀子らしき金属製品が出土しており、祭祀的な行為を行った可能性がある。南北溝SD010は、幅約0.8m、深さ約0.5mの規模をもつ。土師器片が出土しており、古代の遺構と考えられる。このSD010に切られる短辺約1.4m、長辺約2.2mを測る土坑状の遺構SX028が存在するが、出土遺物がなく時期は不明である。

2区では、1区と比較すると密度は低いが、ピット・土坑を数基、溝ないし土坑の可能性のある遺構（5-2SX001）などを検出した。5-2SK005は径約0.8m、深さ約0.4mの規模の不整円形の土坑である。土師器片Aや京都系土師器などが出土している。5-2SX001は検出長約1.1m、幅約0.7m、深さ約0.2mの規模の溝ないしは土坑である。出土遺物がなく時期は不明である。

3区では、北東部分は比較的密度が高いが、南西部分では比較

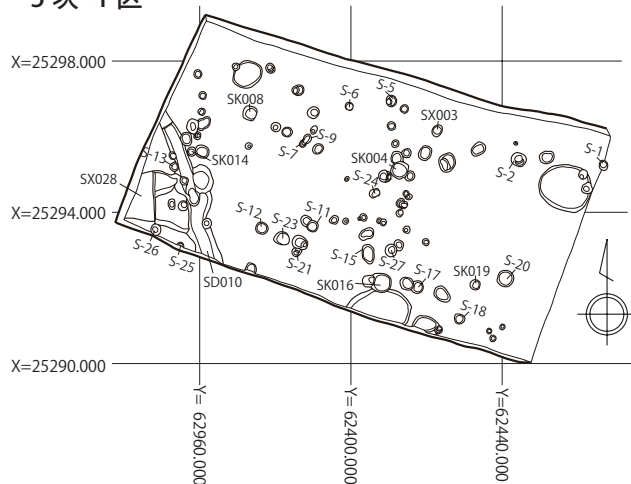


第55図 調査位置図 (1/5000)

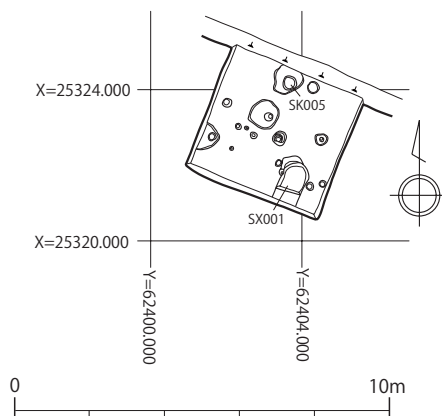


第56図 遺構全体図 (1/400)

5次-1区



5次-2区



第57図 1・2区遺構全体図 (1/200)

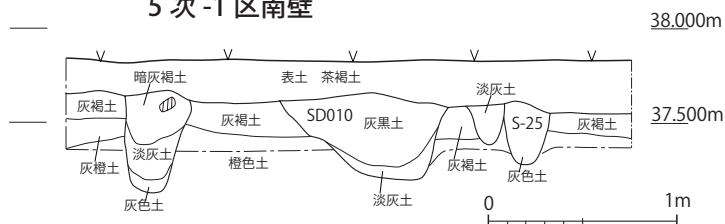
的密度が低い。北東部分ではピット・土坑を数基検出し、南西部分では南東から北西方向の溝状遺構を検出している。土坑からは白磁碗や弥生土器が出土している。

出土遺物は基本的には弥生土器が多いが、須恵器、土師器などの古代の遺物のほか、白磁、京都系土師器などの中世の遺物も出土している。1は、5-1SK004出土の土師器坏Aの底部である。2は5-1SK014出土の弥生土器甕口縁部である。3は5-1SK019出土の須恵器蓋口縁部である。4～6は5-1SK016から出土した。4は須恵器坏口縁部である。5は弥生土器甕底部である。6は安山岩製の石斧破片である。上部と下部が欠損している。7・8は5-2SK005から出土した。7は土師器坏A、8は京都系土師器皿である。9は5-3SK002出土の白磁碗底部である。10・11は5-3SK005出土の弥生土器甕である。

3. まとめ

今回調査を行った遺構からは、7～8世紀の土器片と弥生土器が出土することから、遺跡の主要時期はこれらの時期と考えられる。鶴崎台地上の遺跡は、地藏原遺跡を除いて弥生時代の貯蔵穴群を主体とした弥生集落遺跡イメージがつよかったが、近年の確認調査(葛木6次調査など)から、7世紀をはじめとする古代の遺構も面的に展開することが分かっている。今後は、弥生時代の集落(居住域)の確認と合わせて、古代遺構の展開の仕方やその性格付けが課題である。(長・松浦)

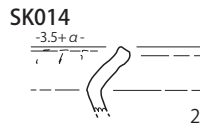
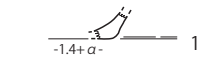
5次-1区南壁



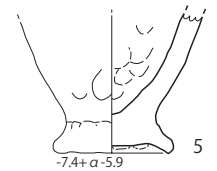
第58図 1区南壁土層図 (1/40)

5次-1区

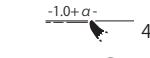
SK004



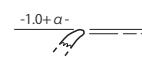
SK019



SK016

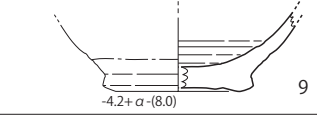


5次-2区 SK005

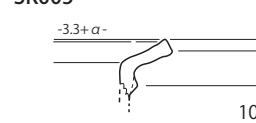


5次-3区

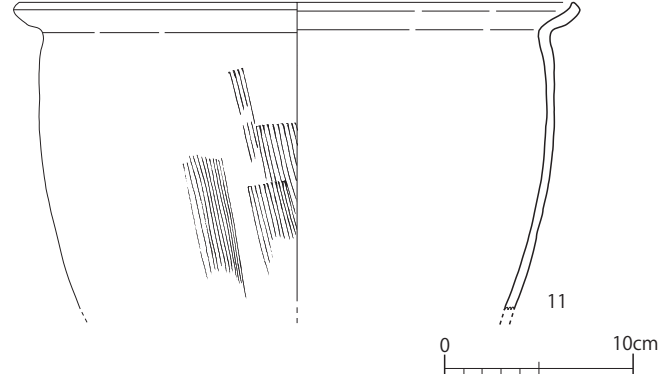
SK002



SK005



(29.9)-16.4+α-



第59図 出土遺物実測図 (1/4)

第4章 教育普及活動

①大友氏遺跡フェスタ 2011

大友氏ゆかりの史跡を巡る「大友府内旧跡めぐり」、大友氏館跡等の発掘現場での遺跡説明会、市民の皆さんが持ち寄ったお宝のいわれを講師の先生方に解説頂くイベントを開催した。

「大友府内旧跡めぐり 甲冑体験」

- 【日 時】 10月1日（土） 午前9時30分～正午
 【場 所】 大友氏遺跡体験学習館 【参加者】 20名
 【内 容】 大友氏遺跡体験学習館を出発し、大友氏ゆかりの旧跡を「大友歴史保存会・大友府内旧跡巡り部会」の皆さんの案内で散策した。また体験館では戦国時代の甲冑体験も行った。

「大友氏遺跡現地説明会」

- 【日 時】 10月2日（日） 午前9時30分～10時40分
 【場 所】 大友氏館跡 【参加者】 120名
 【内 容】 発掘調査中の大友氏館跡の状況や発掘された品々を公開するとともに、現在までの調査成果を担当者が分かり易く解説した。

「発見!! 大友お宝鑑定大会 in 赤レンガ館」

- 【日 時】 10月2日（日） 午後1時00分～午後4時00分
 【場 所】 大分銀行赤レンガ館2F大ホール 【参加者】 70名
 【内 容】 「あなたのお家のお宝鑑定します!」と題して、市民の皆さんが持ち寄ったお宝の価値やいわれを、目利き鑑定士（講師）の先生方に解説頂いた。



大友氏館跡現地説明会



大友お宝鑑定大会

②大分市文化財たより 2011 年度号の発行 刊行日：平成 23 年 3 月 15 日

2011 年度号は大分市内に残る「磨崖仏」をテーマにした。磨崖仏は丘陵等の岩壁に彫られた仏像のことで、現在、市内には大分川流域を中心に 10 ケ所の磨崖仏が存在している。磨崖仏は、造仏した人々の願いに加え、岩肌に彫り込んだ技術の素晴らしさを私たちに教えてくれている。また、数百年の風雪に耐えながら、長い間人々の厚い信仰のもと大切に守られてきた文化財である。今回は、そんな「いのりの文化財」である「磨崖仏」を紹介した。

③大友氏遺跡体験学習館 平成 23 年度の活動状況 【総来館者数】 7428 名

大友氏遺跡体験学習館は（以下、同館）は、展示解説や歴史教室に加え、各種イベントを充実させることにより、大友氏遺跡や大友氏について学習する場としての役割を担っている。同館の入館者数は、開館以来着実に増加している。特に、平成 23 年度の来館者の割合は前年度比 4 % 増で、確実に周知されていることが分かる。開館 4 年目となる平成 23 年度は、イベント、歴史教室、体験工房・戦国工房を 3 本柱として各種「体験活動」を積極的に行ったことで、従来の歴史・遺跡愛好者に加え、家族連れや小・中学生の友人同士というような幅広い来客層を生み出すことができた。

【イベント】

企画展「大友氏を支えた家臣団」 平成 23 年 5 月 3 日～6 月 12 日 【来館者】 977 名

＜概要＞ 大友氏には、その存在を支えた有能な家臣団が大分の各所にいた。彼らは府内中心及びその周辺に居を構え、主君である大友氏歴代当主達を支えてきた。企画展ではそうした家臣団にスポットを当て、豊後を 400 年間治めた大友氏の歴史と、それを陰で、表で支え続けた家臣たちについてみていった。

『南蛮かぼちゃ』 苗植え祭・収穫祭

平成 23 年 5 月 22 日・9 月 11 日

【参加者】 苗植え祭 47 名 収穫祭 67 名

＜概要＞ 戦国時代から伝わる「南蛮かぼちゃ」を育てること
で、「食」と「歴史文化」を学ぶ。

夏休み子ども遊び選手権

平成 23 年 8 月 21 日 【来館者】 70 名

＜概要＞ 大友氏遺跡に関する「遊び」や「体験」を通して、
楽しく郷土の歴史を学びながら、夏休みの楽しい思
い出を作ってもらおう。

高崎山のお城に登ろう 平成 23 年 11 月 13 日 【来館者】 65 名

＜概要＞ 大友氏の山城のひとつである高崎城への登山を通して、
竪堀や曲輪などを体験してもらい、大友氏や高
崎城などの歴史への関心を高めてもらう

【歴史教室】 入門編：全 3 回、通常編：全 6 回 【来館者】 425 名

＜概要＞ 入門編と通常編があり、入門編では大友氏や中世府内の発掘調査の成果の基本的な内容を学び、大友氏
遺跡への関心を持ってもらう。通常編では、さらに大友氏遺跡について体系的に学び、興味や知識を高
めてもらう。

【体験工房・戦国工房】 体験工房：全 9 回、戦国工房：全 3 回 【来館者】 606 名

＜概要＞ 体験工房は、子ども（小学生）または親子を対象に、戦国工房は成人を対象に、遺跡に関する様々な
ものの製作を通して、モノ作りの楽しさを体験し、それとともに大友氏遺跡や郷土の歴史への関心を深
めてもらう。

体験工房：お守り犬、ゴム鉄砲、羽子板、かぶと作りなど

戦国工房：焼き物絵付け体験、ステンドグラス製作、など



かぶと作り体験

④遺跡説明会

鶴崎御茶屋跡第 2 次（法心寺） 鶴崎の法心寺の発掘調査で、
18 世紀前半から 19 世紀中頃の庫裏基壇及び礎石建物や、17 世
紀初頭の加藤清正による創建当初の庫裏基壇が良好に確認された
ため、地域の方々を対象として現地での遺跡説明会を開催した。

【開催日時】 2011 年 8 月 21 日（日）、9 月 19 日（祝）

【発掘場所】 大分市鶴崎 雲鶴山法心寺 【参加者数】 160 人



法心寺現地説明会

古国府遺跡群第 15 次（南大分小学校） 南大分小学校校舎
建替えの発掘調査で、古墳時代前期の方形区画溝や 7 世紀代の大型
掘立柱建物が良好に確認されたため、現地での遺跡説明会を開
催した。

【開催日時】 2011 年 9 月 4 日（日）

【発掘場所】 南大分小学校 【参加者数】 225 人



南大分小学校現地説明会

史跡元町石仏 平成 23 年度から始まった元町石仏の保存整
備についての進捗状況や石仏の状態などの概要について地元の
の方々に対して説明会を開催した。

【開催日時】 2012 年 3 月 28 日（水）

【開催場所】 元町石仏 【参加者数】 15 人

第 5 章

— 40 —

	日進市教育委員会／瀬戸市文化振興財団 稲沢市教育委員会 愛知学院大学 南山大学人類学博物館 名古屋大学	岩崎城跡 第四次発掘調査報告書 尾張国分寺跡発掘調査総括報告書(Ⅰ) 宮西遺跡の発掘記録5 南山大学人類学博物館紀要 第29号 名古屋大学文学部研究論集170 史学57	
三重県	三重県埋蔵文化財センター 津市教育委員会	鳥居本遺跡(第4次)発掘調査報告 中倉遺跡(第3・4次)発掘調査報告 津城跡発掘調査報告 山ノ下古墳群B支部(第3次)発掘調査報告 平成20年度市内遺跡試掘・確認調査報告 平成21年度市内遺跡発掘・確認調査報告 津市文化財年報5 津市文化財年報5 平成21年度 九鬼嘉隆-戦国最強の水軍大將-	久居城下町遺跡(第10次)発掘調査報告 名勝「三多気の桜」再生のための指針 国指定史跡 谷川土清旧宅保存修理工事報告書 三重県指定史跡津城跡保存管理計画 多気城下絵図集成 多気北畠氏遺跡第32次調査報告―上多気六田地区第6次― 多気北畠氏遺跡第31次調査報告 ―上多気六田地区第5次― 鳥羽城跡(第5次)発掘調査報告-牟婁跡周辺の調査-
滋賀県	鳥羽市教育委員会 東近江市教育委員会	平成22年度 市内遺跡の調査 芝原南遺跡 八日市壱焼谷遺跡 金貝遺跡 中沢遺跡 (20.21次) 東近江市の遺跡 五個荘地区の遺跡探検 滋賀里遺跡発掘調査報告書Ⅱ 関津遺跡発掘調査報告書 南志賀遺跡発掘調査報告書Ⅲ	蒲生地区の遺跡探検 愛東地区の遺跡探検 湖東地区の遺跡探検 永源寺地区の遺跡探検 穴太遺跡(南菊ノ尾地区)発掘調査報告書 穴太遺跡(南川原地区)発掘調査報告書
京都府	京都府埋蔵文化財調査研究センター 城陽市教育委員会 京都橘大学 同志社大学歴史資料館 国宝修理装演師連盟	京都府埋蔵文化財情報 第114号/第115号/第116号 城陽市埋蔵文化財調査報告書 第6 2集 京都橘大学 文化財調査報告 2010 岩倉忠在地遺跡Ⅱ 装演史	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第6 3集 同志社大学歴史資料館 館報 第14号
大阪府	大阪市博物館協会 大阪文化財研究所	長原遺跡発掘調査報告XX 長原遺跡発掘調査報告 第21冊 瓜破遺跡発掘調査報告Ⅶ 加島1丁目所在遺跡発掘調査報告 大和川今池遺跡発掘調査報告 北畠公園遺跡発掘調査報告 上本町遺跡発掘調査報告Ⅱ 荻田4町目所在遺跡発掘調査報告Ⅲ 西宮原遺跡発掘調査報告 中崎町遺跡発掘調査報告 安満遺跡-平成22年度確認調査速報- 嶋上遺跡群35 高槻市立 今城塚古代歴史館 常設展示図録 高安千塚 高安古墳群調査報告書-平成22年度出土遺跡整理調査- やおの旧石器時代と縄文時代 清滝街道発掘調査報告書-四条畷市大字下田原所在― 向出遺跡評価検討委員会報告書 熊取町遺跡群発掘調査概要報告書 XXⅤ 長尾山古墳第6次・第7次発掘調査概要	大國遺跡発掘調査報告 加美遺跡発掘調査報告Ⅲ 長原遺跡東部地区発掘調査報告XⅣ 長原遺跡発掘調査報告XⅨ 喜連東遺跡発掘調査報告Ⅱ 平野馬場遺跡発掘調査報告 荻田9丁目所在遺跡発掘調査報告 Ⅱ 大阪文化財研究所 研究紀要第13号 山之内遺跡発掘調査報告Ⅳ 桑津遺跡B地点発掘調査報告 第36回全国遺跡環境整備会議 古墳の保存と活用
	高槻市教育委員会 高槻市立今城塚古代歴史館 八尾市教育委員会		
	四条畷市教育委員会 阪南市教育委員会 熊取町教育委員会 大阪大学		阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXⅦⅢ
兵庫県	神戸市教育委員会	楠・荒田町遺跡 兵庫津遺跡第52次発掘調査報告書 西岡本遺跡第8次発掘調査報告書 上池遺跡第3次発掘調査報告書 平成22年度 雲井遺跡第33次発掘調査報告書 平成20年度 神戸市埋蔵文化財年報 兵庫津遺跡第51次発掘調査報告書 品川御台場築造から和田岬砲台へ 三木合戦を知る 測量調査報告書 南あわじ市埋蔵文化財調査年報Ⅳ 2007年度 平成21年度 尼崎市内遺跡発掘調査等概要報告書 尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成17年度 有岡城跡発掘調査報告書XⅤ 第294,305,310次調査 姫路城城下町跡 第254次 南部中堀発掘調査報告書	頭高山遺跡発掘調査報告書-中世山林寺院の調査- 郡家遺跡第85次 発掘調査報告書 旧神戸外国人居留地遺跡 発掘調査報告書 神戸市埋蔵文化財分布図 たるみの遺跡 和田岬砲台の源流を探索 出合遺跡 第34.35.37.39.40.43.44次埋蔵文化財発掘調査報告書
	三木市教育委員会 赤穂市教育委員会 南あわじ市教育委員会 尼崎市教育委員会		高萩遺跡 尼崎市埋蔵文化財 遺跡分布地図及び手引き
	伊丹市教育委員会 姫路市埋蔵文化財センター		
奈良県	奈良文化財研究所	埋蔵文化財ニュース 142/143/144/145 遺跡内外の環境と景観 ―遺跡整備と地域づくり― 飛鳥遺珍 のこされた至宝たち 夏季画展 鍛造技術の考古学 橿原考古学研究所紀要 考古学論攷 第34冊 橿原考古学研究所 年報36(2009年度) 未永雅雄先生旧蔵資料集第3集 菅谷所長と語る！平城京とその時代 考古資料における三次元デジタル・3Dの活用と展開 七条西浦近世墓地-平城京右京七条三坊・四坊- 平城京右京三条二・三坊 菅原東遺跡 川西根成柿遺跡 飛鳥京跡Ⅳ 藤本遺跡Ⅰ 平城京三条大路Ⅰ 平城京三条大路Ⅱ	星々と日月の考古学 冬期企画展 飛鳥の考古学2011 重要文化財 橿原遺跡出土品の研究 長谷白土遺跡 八田遺跡 平城京右京三条三坊・四坊 果山古墳・寺戸遺跡 横田堂垣内遺跡 日笠ワッダ 遺跡 藤原京右京十一条二坊・三坊 三河遺跡Ⅱ 龍田陣屋跡 大和の古墳Ⅰ 大和の古墳Ⅱ
	田原本町教育委員会	奈良県遺跡調査概報 2010年度(第一分冊) / (第二分冊) / (第三分冊) / (第四分冊) 田原本町文化財調査年報19 2009年度 田原本町文化財調査年報2 0 2010年度	平成23年度秋季企画展 弥生エッセンス～その技と美～
	天理市教育委員会	史跡赤土山古墳整備事業報告書 天理市埋蔵文化財調査概報 平成18年度(2006) 史跡 芽原大墓古墳 第1～4次発掘調査概要報告書 平成23年度特別展 ヤマトの王と居館 櫻井市内遺跡発掘調査報告書 2010年度	天理市文化財調査年報 平成21年度 平成23年度企画展 祈りの世界
	桜井市教育委員会 桜井市立埋蔵文化財センター 桜井市文化財協会 元興寺文化財研究所 帝塚山大学考古学研究所 天理大学	元興寺文化財研究所研究報告2009・2010 帝塚山大学考古学研究所研究室報告 Ⅶ 下ノリヤの3,000年 ｲｽﾅﾐ、ﾁﾔﾐ、ﾁﾔﾐﾔの遺跡調査 天理大学考古学・民俗学研究室紀要 第14冊/第15冊	金剛山寺の版本 帝塚山大学考古学研究所研究室報告 XⅢ 古事 天理大学考古学・民俗学研究室紀要 第14冊/第15冊

	奈良大学 由良大和古代文化研究協会	文化財学報 第二十九集 研究紀要第16集	
和歌山県	和歌山市教育委員会 有田川町教育委員会 紀の川市教育委員会	和歌山市内遺跡発掘調査概報―平成21年度― 平成22年度 有田川町埋蔵文化財調査年報 紀の川市内遺跡発掘調査概要報告 平成21年度	車駕之古址古墳
鳥取県	倉吉市教育委員会	白市遺跡発掘調査報告書 倉吉市内遺跡分布調査報告書1 6 普段寺古墳群Ⅲ 第8次調査概様報告書	西平遺跡発掘調査報告書 伯耆国府関連遺跡 古神宮地区 第3次発掘調査報告書
鳥根県	普段寺古墳群調査団 鳥取大学 鳥根大学 鳥根県古代文化センター 松江市教育委員会 松江歴史館 出雲市教育委員会	四隅突出型墳丘墓と弥生墓制の研究 千鈞糸里遺跡他発掘調査報告書 平成23年冬の企画展 江戸時代へ行こう！ 史跡西谷墳墓群整備事業報告書	古代文化叢書8 山陰地方における古墳群と地域社会 出雲国分寺跡発掘調査報告書 史跡田儀櫻井家たたら製鉄遺跡総合ガイドブック
	浜田市教育委員会	高岡Ⅱ遺跡 浜田市遺跡地図Ⅲ(三隅自治区)	
	安来市教育委員会 津和野町教育委員会	ガジスタ古墳 本郷上口遺跡 津和野城下町遺跡3 森村地区Ⅱ	安来市内遺跡調査報告書1 津和野藩主亀井家墓所
	出雲弥生の森博物館	史跡 山陰道(野坂峠越・徳城峠越)保存管理計画書	名勝 旧堀氏庭園主屋等保存修理工事報告書
岡山県	岡山県教育委員会	研究紀要第1集 岡山県埋蔵文化財報告41 美作国府跡・小田中遺跡・山北遺跡 八紘古墳群 山津田遺跡	田益田中遺跡2 高岡遺跡2・金山屋敷遺跡 二本木遺跡・小塚の谷古墳・宇屋遺跡・宇屋古墳・田尻遺跡
	岡山市教育委員会	岡山市埋蔵文化財センター年報10 2009(平成21)年度 岡山市埋蔵文化財センター研究紀要 第3号 中島遺跡	津島江道(給食棟・南棟校舎)遺跡 岩倉遺跡 史跡貸田庵寺跡環境整備事業報告書
	倉敷市教育委員会 岡山理科大学	広江・浜遺跡 南山21号墳 シリーズ『岡山学』8 高梁川を科学するpart1 半田山牛庭台跡発掘調査概報	第12回『岡山学』シンポジウム 高梁川 流域を科学するpart2 佐山新地窯跡群第1次発掘調査概報
広島県	福山市教育委員会	合ノ坪遺跡 尾ノ上古墳 福山城跡	福山市内遺跡発掘調査概要Ⅴ 2009年度(平成21年度) 福山城跡
	府中市教育委員会	前原遺跡 芦田駅家推定地の調査 備後国府発掘	泉山城跡 府中市内遺跡15 備後国府跡(ツジ遺跡・ドク'ョウ遺跡)ほか 府中市内遺跡14 備後国府跡(ツジ遺跡・ドク'ョウ遺跡)ほか
	東広島市教育委員会 広島大学 広島大学大学院文学研究科	千人塚古墳 帝釈峠遺跡群発掘調査室年報XXV	史跡 史跡 史跡 トントン古道跡
山口県	山口県埋蔵文化財センター	陶埴 第24号 田ノ浦遺跡Ⅱ-平成20・21年度調査- 古大里遺跡	奥ノ坊遺跡 東禪寺・黒山遺跡Ⅵ
	下関市教育委員会	下関市埋蔵文化財年報3-平成20年度の記録- 下関市埋蔵文化財年報4 長門国府跡 人骨編 研究紀要 第15号	秋根遺跡発掘調査報告書 延行条里遺跡(伊倉地区)発掘調査報告書Ⅰ 延行条里遺跡 八幡遺跡 下有富遺跡 観音堂古墳 平成23年度企画展 弥生時代の拠点集落
	下関市立考古博物館	下関市立考古博物館年報1 6 平成22年度 防府市内遺跡発掘調査報告書 平成21年度	
	防府市教育委員会 山口県萩美術館・浦上記念館	「龍人伝説」への道 三輪休雪展 「日本のわざと美」展	史跡 萩往還 三田尻御茶屋保存修理工事報告書 婆娑羅-祝宴の器
	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム	浜出祭調査報告書Ⅰ(資料編)	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 研究紀要 第6号
徳島県	徳島県埋蔵文化財センター	真朱 第9号 庄(庄・蔵本)遺跡 東州津遺跡 観音寺遺跡Ⅲ(遺構・遺物篇)<第一分冊>/<第二分冊>/<第三分冊>/<第四分冊>/<第五分冊> 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要20 勝瑞館跡15次発掘調査概要報告書	徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.21 2009年度 宮ノ本遺跡Ⅱ 第一分冊/第二分冊 延命遺跡(Ⅰ) 《本文・挿図篇》/ 《観察表篇・写真図版篇》
香川県	高松市教育委員会	空港跡地遺跡 中林遺跡 二番丁小学校遺跡	奥の坊遺跡群Ⅵ(奥の坊遺跡Ⅵ区) 高松市内遺跡発掘調査概報-平成22年度国庫補助事業-
愛媛県	愛媛県埋蔵文化財センター 今治市教育委員会	松本広田遺跡第5.6.7次調査 伊予国分寺跡第5次調査 市内遺跡試掘確認調査報告書ⅩⅩⅡ 市内遺跡試掘確認調査報告書ⅩⅩⅠ 樽味四反地遺跡-19次・20次調査- 宇和盆地の古墳文化研究Ⅰ 河後森城跡環境整備事業概要報告書Ⅸ 平成23年度鬼北町歴史シンポジウム もう一つの弥生文化	愛比売 平成22年度年報 脇中屋遺跡 小泉角田遺跡第4次調査 登畑遺跡第3次調査 上徳堅田遺跡 史跡 能島城跡
高知県	高知県文化財団埋蔵文化財センター	高知県埋蔵文化財センター年報 第20号 2010年度 祈年遺跡Ⅰ 第1分冊 Ⅰ～Ⅵ区 竹林寺跡 高知城跡	西野々遺跡Ⅱ 西野々遺跡Ⅲ 花宴遺跡
福岡県	九州国立博物館	白磁を飾る青―朝鮮時代の青花 名品でたどる室町から桃山の茶 開館5周年特別展 馬 アジアを駆けた二千年 誕生!中国文明 湖の国の名宝展 蒲船津江頭遺跡Ⅲ 矢加部町屋敷遺跡Ⅲ 伊良原Ⅱ	ゴッホ展 没後120周年 Van Gogh 邪馬台国 九州と近畿 東風西声 九州国立博物館紀要5号 バリーに咲いた古伊万里の華 井手ヶ浦窯跡郡 第2次調査 平原2号墳 平原遺跡 福岡県埋蔵文化財発掘調査年報 平成21年度
	福岡県教育委員会	九州歴史資料館	大宰府政庁周辺官衙跡Ⅱ
	福岡市教育委員会 北九州市芸術文化振興財団	九州歴史資料館 研究論集3 6 九州歴史資料館年報 平成22年度 福岡市埋蔵文化財センター年報 第29号 津田神社遺跡 埋蔵文化財調査室年報2 7 平成21年 研究紀要 第2 5 号 浜遺跡 (第4～第7地点の調査) 長浜遺跡第3地点 城野遺跡Ⅰ (ⅠA・ⅠB区の調査) 小倉城三ノ丸跡第5地点 峠遺跡第4次調査 店屋遺跡 山田遺跡2(2区・3区)	長野コイトフ遺跡3 長野尾登遺跡第2地点NⅨ区・第4地点DⅨ区 長野尾登遺跡第2地点NⅨ区 長野尾登遺跡第2地点(MⅢ・M5Ⅸ) 長野小西田遺跡4 伊崎遺跡第2地点5Ⅸ区 山本遺跡 高槻遺跡 第1 3地点 小倉城三ノ丸跡第6地点4(3区調査) 峠遺跡第5次調査Ⅰ区

		小倉城三ノ丸跡第8地点 重留遺跡第8～15地点 小倉城三ノ丸跡第9地点 北九州市自然史・歴史博物館 研究報告 筑後国三藩郡銜跡Ⅵ 古賀遺跡 第1・2次調査 筑後國府跡―第222・229・233次調査報告― 傑原侍屋敷遺跡 第14次調査 筑後國府跡 第239次発掘調査報告 久留米城外郭遺跡 第15次発掘調査報告 二本木遺跡 第27次調査 太宰府市民遺産活用推進計画 宝満山遺跡群-第31,32,33,34,35,36,37,38,39,40次調査- 大宰府の民俗Ⅰ 馬場代2号墳 長井尾ノ花遺跡・長井丸尾遺跡 平成23年度特別展 弥生時代の下種田村 平成21年度大牟田市市内遺跡発掘調査報告 樹田遺跡 阿志岐城跡Ⅱ 朝倉市文化財年報（平成20年度） 朝倉市内遺跡等分布調査報告書 黒川院Ⅰ むなかたの文化財 概報 田熊石畑遺跡 三沢北中尾遺跡4地点 小坂井連輪遺跡2 小坂井屋敷遺跡2 干潟下鶴遺跡2 小郡遺跡14・15・16・17 尾島町岡遺跡Ⅱ 筑後市内遺跡群XⅣ 中遺跡群ⅠX 宮ノ下遺跡ⅠⅤ区 安徳台遺跡群Ⅱ 松木遺跡Ⅴ 長光遺跡 殿町山ノ方遺跡 川崎田遺跡 川崎ヤシキ前遺跡 城山遺跡群 調査概要報告 壱岐カラカミ遺跡Ⅲ 九州大学総合研究博物館研究報告 第9号 九州大学総合研究博物館 概要 平成23年度 福岡大学考古資料集成 4 七隅史学 第13号	長野尾倉遺跡第2地点 大手町遺跡第9地点 石田遺跡第2地点 久留米市埋蔵文化財調査集報 XⅢ 坂本繁二郎生家保存修理工事報告書 二本木遺跡群Ⅷ 二本木遺跡 第24次調査 平成22年度久留米市内遺跡群 筑後國府跡 平成22年度発掘調査報告 太宰府市条坊跡41-第153,195,201,215,243,262,279次調査- 高来小月堂遺跡・高来井正丸遺跡・高来殿屋敷遺跡 平成23年度企画展 京築地方の近世書家 白銀七ツ家遺跡Ⅱ 上城原古墳群 平塚大願寺遺跡Ⅱ 朝倉市文化財年報（平成21年度） 東郷登り立Ⅱ 大崎後原遺跡2 小郡前伏遺跡 干潟東畑遺跡 上岩田遺跡Ⅲ<1a・1c・1d区の調査> 山ノ井松延遺跡 川崎塚田遺跡 川崎ヤシキ前遺跡 外部評価報告書 平成17～21（2005～2009）年度
佐賀県	佐賀県教育委員会	東畑瀬遺跡3 東畑瀬遺跡6G・7・9区 小ヶ倉遺跡 入道遺跡 九郎遺跡 佐賀県の中近世城跡 第一集 文献史料編 特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」 名護屋城跡 佐賀市埋蔵文化財本発掘調査報告書 2010年度 佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 2008年度 西山田天神遺跡 3区の調査 西中野遺跡XⅡ 67区の調査 西中野遺跡XⅢ 11区の調査 西中野遺跡XⅣ 13・39・40・45区の調査 西中野遺跡XⅤ 63～66区の調査 中原二本谷籠遺跡 1区の調査 唐津市内遺跡確認調査（26） 星賀城塞群Ⅲ 獅子城跡Ⅲ-平成12～21年度- 波多城跡-試掘調査報告書- 長部田城跡 牟田辺遺跡 第Ⅳ次 牟田辺遺跡 第Ⅵ次 牟田辺遺跡 第Ⅴ次 高麗谷窯跡 三年山遺跡 板屋上遺跡 板屋上遺跡 多久城下町遺跡 大工田遺跡 別府遺跡 名越田遺跡 ハッ溝遺跡 茶園原遺跡 高木川内遺跡 四下大丹遺跡 西の原西遺跡 宮ノ浦遺跡 市内遺跡確認調査概要報告書Ⅲ 野田遺跡 利田柳遺跡 大殿分山下遺跡筒口山下の中世石塔群 土生遺跡 峯家文書 天保四年『赤子養育方記録』 八幡山城跡 三川内西窯跡市内遺跡範囲確認調査 市内遺跡確認調査報告書X 西常盤貝塚Ⅱ 旧金石城庭園保存整備工事報告書 特別史跡 原の辻遺跡 鷹島 五島市の文化財 鞠智城跡―第31次調査報告―	仁田古墳群Ⅱ 中原遺跡Ⅴ 11区～13区の弥生時代・古墳時代墳墓の調査 藤木遺跡Ⅱ 1区・6～14区の調査 藤木四本杉遺跡Ⅴ 2・3・13・14・16・17区・19～25区の調査 徳永遺跡群XⅩ 徳永遺跡28区 東名遺跡群Ⅰ 東名遺跡跡1区 縄文早期遺跡の調査 東名遺跡群Ⅱ 東名遺跡2次・久富二本杉遺跡 上恒安遺跡7区 神野二本松遺跡3 5・6区の調査 唐津市内遺跡確認調査(27) 桜馬場遺跡(2) 唐津城跡(Ⅴ) 岸岳古窯跡群Ⅲ 西ノ谷遺跡 岡遺跡 桐岡遺跡 仁位所遺跡 中小路遺跡 <Ⅰ> 中小路遺跡 <Ⅱ> 広田遺跡 撰分B遺跡 東の原遺跡 ハッ溝遺跡発掘調査概要報告書 ハッ溝遺跡発掘調査概要報告書Ⅱ ハッ溝遺跡発掘調査概要報告書Ⅲ 合六遺跡 別府遺跡 多久市内遺跡発掘調査報告書（Ⅰ） 平成5～7年度の調査 切畑遺跡 小城市内遺跡Ⅰ
長崎県	長崎県教育委員会 佐世保市教育委員会 平戸市教育委員会 諫早市教育委員会 対馬市教育委員会 壱岐市教育委員会 松浦市教育委員会 五島市教育委員会	長崎県教育委員会 佐世保市教育委員会 平戸市教育委員会 諫早市教育委員会 対馬市教育委員会 壱岐市教育委員会 松浦市教育委員会 五島市教育委員会	宇和盆地の古墳文化研究Ⅰ-河内村1号墳発掘調査報告- 松浦市鷹島海底遺跡 総集編
熊本県	熊本県立装飾古墳館分館 温故創生館	鞠智城跡―第31次調査報告―	鞠智城とその時代―平成14～21年度「館長講座」の記録―

	熊本市教育委員会	熊本市埋蔵文化財調査年報 第12号 平成20年度 熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 平成21年度 長嶺遺跡群Ⅱ-第14次調査区発掘調査報告書- 国分寺跡Ⅰ-国分寺跡第19次調査区発掘調査報告書- 池辺寺跡XⅡ-平成20年度発掘調査報告書- 平成23年度企画展 西海道と肥後国 柳町遺跡 吉丸前遺跡 玉名市干拓開通施設調査報告書 史跡人吉城跡 保存管理計画書 第2版 菊鹿町検地帳集 (一) 菊鹿町検地帳集 (二) 菊鹿町検地帳集 (三) 方保田東原遺跡13 -10次調査分指定区域内遺構確認調査- 名勝不知火及び水島保存管理計画 曾畑貝塚-慶応義塾大学資料再整理報告- 宮山遺跡Ⅱ 南関城跡Ⅳ(鷹/原城跡)-付・南関御茶屋跡周辺遺跡- 考古学研究室報告 第46集 ナガラ原東貝塚7	神水遺跡XⅠ-第42次調査区発掘調査報告書- 平成18年度 植木町内遺跡発掘調査報告書 西南戦争遺跡・田原坂第1次調査 瓜尾遺跡 向原遺跡 池辺寺跡XⅢ-平成21年度発掘調査報告書- 両迫間日渡遺跡 玉名市内遺跡調査報告書Ⅶ 平成21年度の調査
	熊本市立熊本博物館 玉名市教育委員会		
	人吉市教育委員会 菊鹿町教育委員会		菊鹿町検地帳集 (四) 菊鹿町検地帳集 (五) 菊鹿の石造物 方保田東原遺跡14 第55次発掘調査報告書
	山鹿市教育委員会 宇城市教育委員会/八代市教育委員会 宇土市教育委員会 阿蘇市教育委員会 南関町教育委員会 熊本大学文学部考古学研究室		熊本大学埋蔵文化財調査室年報 2009年度
大分県	大分県埋蔵文化財センター	井尻日焼田遺跡 慈眼山遺跡 塚本遺跡発掘調査報告書 おおいの歴史と文化 収蔵品目録 美術・工芸1 収蔵品目録 歴史1 収蔵品目録 歴史2 資料館研究紀要 第16号 坂手隈城跡 中津城跡2 吹上Ⅳ-6次調査の記録ー 求来里の遺跡Ⅰ 町ノ坪遺跡B区の調査 求来里の遺跡Ⅱ 金田遺跡の調査 求来里の遺跡Ⅲ 小西遺跡の調査 求来里の遺跡 寺ヶ迫遺跡 鍛冶原廻り遺跡 中河原遺跡-2次調査の概要ー 葛原遺跡6次 大行事遺跡2次 慈眼山遺跡7次 祇園原遺跡Ⅱ(近世墓編1) 市内遺跡発掘調査概報18 平成21年度調査の概要 市内遺跡発掘調査概報19 平成22年度調査の概要 白杵城一三之丸ー 桑迫遺跡 宮原遺跡 小園窪遺跡 平成23年度企画展 岡藩の絵師たち 豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書1 平成20年度調査 キリシタン大名 大友宗麟 国東市歴史体験学習館年報 大分県磨崖仏研究 大分市元町磨崖仏・薬師如来像について 重要文化財 岩戸寺宝塔 保存修理工事報告書 白水郎 会報第28号 特集 古文書に見る地震	大分県歴史博物館年報2010 大分県立歴史博物館 研究紀要 豊後国山香郷2 市内遺跡発掘調査概報4 平成20年度(2008年度) 日田市埋蔵文化財年報 平成21年度(2009年度) 日田市埋蔵文化財年報 日田市埋蔵文化財年報 平成22年度(2010年度) 塚原遺跡 佐寺原遺跡 2・3次調査 祇園原遺跡Ⅱ(近世墓編2) 史跡ランドヤ古墳 保存整備基本計画 史跡小迫辻原遺跡 保存管理計画書 大波羅遺跡 5次調査の概要 永山城跡 史跡ランドヤ古墳 川部遺跡 南西地区墳墓群 法鏡寺遺跡
	大分県教育委員会 大分県立歴史博物館		
	大分県立先哲資料館 中津市教育委員会		
	日田市教育委員会		
	宇佐市教育委員会		
	臼杵市教育委員会 竹田市教育委員会 竹田市立歴史資料館 豊後大野市教育委員会 津久見市長 岩崎 泰也 国東市歴史体験学習館 大分大学 宗教法人 岩戸寺 坂ノ市地区郷土史愛好会 佐賀関古文書に親しむ会	白杵城一三之丸ー 桑迫遺跡 宮原遺跡 小園窪遺跡 平成23年度企画展 岡藩の絵師たち 豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書1 平成20年度調査 キリシタン大名 大友宗麟 国東市歴史体験学習館年報 大分県磨崖仏研究 大分市元町磨崖仏・薬師如来像について 重要文化財 岩戸寺宝塔 保存修理工事報告書 白水郎 会報第28号 特集 古文書に見る地震	菅生台地と周辺の遺跡XⅧ ヤトコロ遺跡 廣瀬武夫 日本とロシアを愛した男 豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書2 平成21年度調査
宮崎県	宮崎県埋蔵文化財センター 西都市教育委員会	富吉前田遺跡 平成22年度 西都原古墳研究所・年報 第25号 都於郡城跡発掘調査概要報告書X 特別展 日向における弥生文化の謎 宮崎県立西都原考古博物館年報 2010(平成22)年度 宮崎県立西都原考古博物館 研究紀要 第7号	立野遺跡 堂ヶ嶋遺跡 寺崎遺跡 上妻遺跡 法元遺跡 童子丸遺跡 石貫遺跡-本文編- 堂ヶ嶋遺跡 寺崎遺跡 上妻遺跡 法元遺跡 童子丸遺跡 石貫遺跡-図面・図版編- 特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書(XⅣ) 国際交流展 覇者の愛した煌き
鹿児島県	鹿児島県立埋蔵文化財センター	鳴野原遺跡A地点 南下遺跡 石楡遺跡・十三塚遺跡 下鶴遺跡 芝原遺跡2(第1分冊)/(第2分冊)/(第3分冊)/(第4分冊) 薬師堂遺跡B地点 留守氏館跡・龍波見氏館跡・坪家屋敷跡・町後遺跡 大隅国分寺跡-遺物編- 気色の杜遺跡(大隅国府跡) 沢氏館跡Ⅰ-確認調査- 敷根遺跡 柳ガ迫遺跡 清水前遺跡 水天向遺跡 鹿児島大学構内遺跡 釘田遺跡第1地点 国指定遺跡 勝連城跡環境整備事業報告書Ⅴ	渡畑遺跡2弥生・古墳時代以降編 坂ノ下遺跡・後ヶ原遺跡 二渡船渡ノ上遺跡 山崎野町跡A 虎居城跡 川骨遺跡・西ノ城遺跡・川端遺跡 最勝寺氏館跡Ⅰ-確認調査- 大隅正八幡宮関連遺跡群-総合調査報告書- 大隅国府跡 虎居町武家屋敷跡 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報25 平成21年度 勝連城跡 -四の曲輪北区発掘調査報告書-
	鹿児島市教育委員会文化課 霧島市教育委員会		
	指宿市教育委員会 始良市教育委員会 南さつま市教育委員会 さつま町教育委員会 鹿児島大学埋蔵文化財調査室		
沖縄県	うるま市教育委員会		

大分市埋蔵文化財調査概要報告2012 平成23年度

平成25年3月29日
編集・発行
大分市教育委員会文化財課
大分市荷揚町2番31号
〒870-0435 (097)534-6111